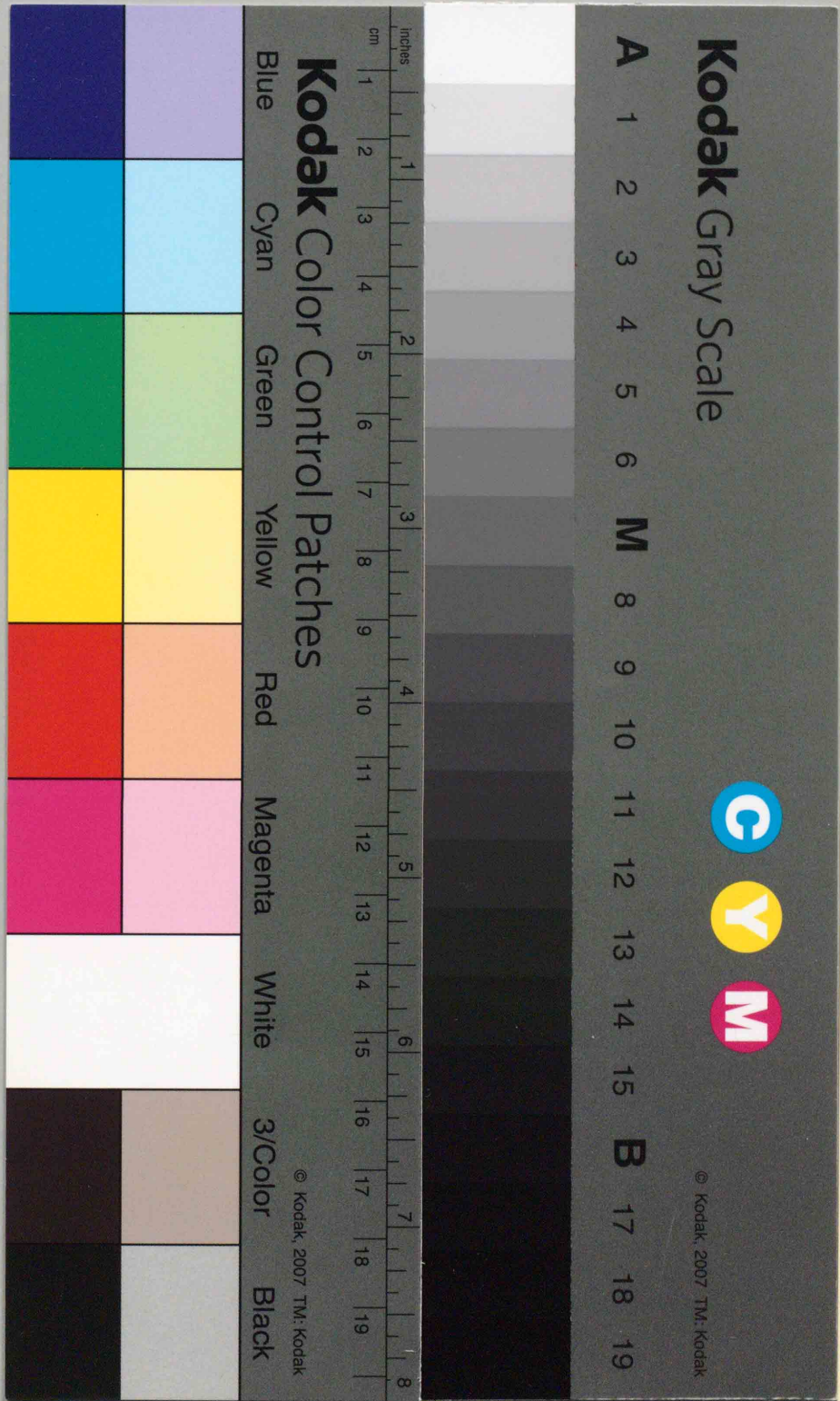
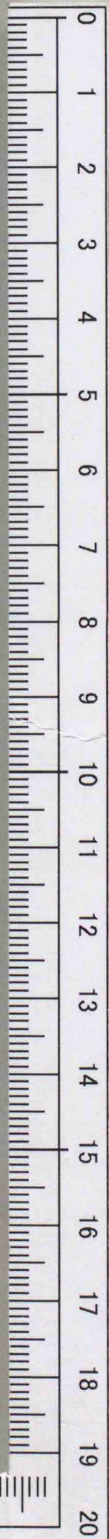


山口縣地誌

山口縣地歷會監修
山口縣師範學校教諭 山本熊太郎著

山口縣地歷會

教科書文庫
4
291
40-1940
2000023635



43261

教科書文庫

4
291
40-1940
20000 23635



教科書文庫
4
291
40-1940
2000023635

資料室
中央図書館

375.9
Y213

山口縣地誌

山口縣地歷會監修
山口縣師範學校教諭 山本熊太郎著

山口縣地歷會發行

広島大学図書
2000023635




序

學校に於ける地理教育が、いろいろの意味において、郷土より出發し、郷土に歸らなければならぬものであるといふことは、申すまでもないことである。然るに、本縣の地理教育に對して、初等、中等を通じて、この要求に沿ふためのものがなかつたのは、止むを得ない事情のあつたためとは云へ、頗る遺憾なことであつた。

ことに、師範學校の使命から考へるならば、何としても、この種の研究を完璧ならしむべき必要があるのである。そこで予は師範學校長としての立場から、本校山本教諭が熱心なる研鑽を積み、その研究に精進してゐるのを知つて、心ひそかに期待するところがあつた。しかし、その仕事の性質上、實地に關する具體的研究を必要とするため、相當の日子と勞力とを費し、この程に至つて辛うじて完成したのである。

ところで、予は偶々本縣地歴會長の名を辱しめてゐる關係で、こゝにまた紀元二千六百年にあたり、地歴會としては、會本來の性質上、何等かの意義ある足跡を印しなければならぬこととなつたので、この山本氏の述作の、師範學校のみに私すべきものでないことを

悟り、特に山本氏に奨め、これを地歴會によつて廣く縣下教育界に見えしめることとしたのである。

このために、特に、本書に關する監修のことを企て、長井佃氏を委員長に依囑し、廣く本縣地理科擔當の各位を網羅して監修會を開き、ことに各地方の具體的事情に即應せしめるため、十分の檢討批正を乞ひ、監修の成績を實にすることにも努めたのである。

以上簡單に本書の誕生の由來を述べたのであるが、本書の使命たる、また鮮かならざるを感ずる。即ち中等學校はもとより、青年學校普通學科のために絶好の參考書であり、かつ國民學校における好個の教授資料である。この點著者の功績の没すべからざるものの特記しなくてはならぬと共に、江湖の共鳴を得て、その使命の十分に達成せんことを希ふ次第である。

茲に、本書監修會役員の芳名を左に連ね以て、感謝の微意を表したいと思ふ。

昭和十五年八月十五日

山口縣地歴會長

苦瓜惠三郎識

監修委員

會長	苦瓜惠三郎氏	同	後藤長司氏	同	吉田好行氏
顧問	高山政雄氏	同	日田寬氏	同	新宅勇氏
委員長	長井佃氏	同	原田忠男氏	同	吉本信雄氏
委員	山本熊太郎氏	同	藤村喜作氏	同	田中重正氏
同	吉原達三氏	同	高木勝子氏	同	松田巖氏
同	濱田清吉氏	同	山本利多氏	同	藤岡一人氏
同	鈴木源平氏	同	八木順二氏	同	宇田芳雄氏
同	沖壽夫氏	同	武田ハナ子氏	同	森脇兵一氏
同	村田正雄氏	同	俵秀左右氏	同	安本知輔氏
同	高橋進次氏	同	吉田治郎氏	同	吉岡恒郷氏
同	館山一氏	同	渡邊義之助氏		

(順序依職員録)

序

本書の原著及び原圖は余が本縣師範學校郷土研究として二年有半を費やして成れる所産を簡潔に纏めたものである。しかし之を世に問ふに至つたのは全く苦瓜會長の懇切な御斡旋の結果であり、同時に山口縣地歴會の渾然たる和衷協同の賜物である。特に高山政雄氏は縣當局者として激勵され、又教育會三井義資氏は進んで企畫の衝にあたられ、委員長長井佃氏を初め委員諸氏に至つては熱心なる監修の任を掌理せられてこゝに其の上梓を見る事が出来たのである。もしかうした献身的の和衷協力がなかつたらば、現在非常時の物的資源の窮乏すら克服する事が出来得なかつたであらう。然るに本書は初刷と同時に増刷を重ね、之を最も低廉に縣下の諸學校へ供給する事が出来るのである。著者の一研究が、委員諸氏の懇切周到な監修をうけて洗練された上かくも多分に社會街頭へ進出する機會を恵まれた事は此の上もない光榮であるが、同時に山口縣地歴會の精神的結合に依つてこの一文化事業を完遂する事を得た欣びも亦決して小さいさくはないのである。

本書は最も簡明直載を旨として筆を下したもので、敢て向學の青少年の讀物として其の机上に送る。

怡も本書は紀元二六〇〇年紀念として誕生し、且大東亞建設の魁として制定される國民學校令の實施を寸前に控へて、本書はさうした地方振興の使命の一部を果すであらう。しかし尙此の簡潔な主張でさへも之を教授するために既定の學習時間を多大に割く事は困難である。故に本書の含蓄は教授者に於て廣狹・深淺、適當に全學年中に織り込んで頂くか、若くは増課又は課外の讀物として自學自修の資料たらしめて頂きたいものである。尙本研究に當り本縣各機關、特に經濟部西村統計課長の長期に亙る御垂情を頂き、並に時局柄軍機防諜の立場からは小池山口憲兵分隊長及び國家總動員機密上に於ては縣警察部福井氏の御注意を忝くし、更に校正其の他に當りては委員森脇兵一氏の御援助を煩はした事を茲に衷心より感謝し、併せて古往今來に亙る多くの先輩同僚各位の文獻に對して深甚なる謝意を含め以て卷末にその御芳名と論文とを掲げるものである。

昭和十五年八月十五日

山口縣師範學校教諭

山本熊太郎識

凡例

- 一、本書は中等學校・青年學校・國民學校高等科等の郷土地理書として編纂した。
- 一、本縣々勢を地方的に最も簡潔に扱ふには地域的・綜合的に記載した第七章に依られ、他は地理教授中適宜臨機に扱はれるのも一方法である。
- 一、書中の九ポイント活字は教師側の敷衍資料である。又書中の分布圖は凡て最近の市町村別統計を用ひて製作したもので、その精密度から見ても半永久の價値をもつものと信ずる。
- 一、人口は原則的に昭和十年の國勢調査により、管轄の變更あるものは同様に修正した。蓋推計人口は小地域的に求め難く且不徹底な數字となるからやめた。
- 一、諸統計は原則的に昭和十三年のものを用ひ、凡て大量數字に止めて端數は之を切棄てた。蓋軍機及精神總動員機密に屬するものは場合によつては全然之を避け又は事變前のものを載せた。
- 一、軍機防諜並に精神總動員機密に屬する事項特に交通運輸狀況に就ては挿圖の全部又は一部を削除するか、又は文章に○●を用ひた所がある。かうした取締は今後とも一層強化されるであらう。しかし之を教授者によつて適宜口述し補足する事は毫も差支へない。

目次

第一章 概説	一
位置一面	一
積一人	一
口一區	一
分一生産	二
第二章 地勢	三
概観	三
一 山地	四
周防臺地一四	四
長門山地一六	四
阿武山地一八	四
二 丘陵附溫泉	九
周南丘陵一〇	九
宇部臺地一〇	九
響灘斜面一二	九
日本海斜面一二	九
附溫泉一二	九
三 河流・平野	二二
廣島灣斜面一四	二二
岩國川一四	二二
岩國川三角洲一五	二二
周防灘斜面一五	二二
島田川一五	二二
周南の諸川一六	二二
佐波川と防府平野一六	二二
樺野川一六	二二
長門の諸川一六	二二
響灘斜面一七	二二
日本海斜面一七	二二
大津平野一七	二二
阿武川一七	二二
徳佐盆地一八	二二
長門峽一八	二二
田万川・大井川一八	二二
四 海岸	二八
日本海海岸一〇	二八
響灘海岸一〇	二八
周防灘海岸一〇	二八
廣島灣海岸一三	二八
第三章 氣候	三三
目次	三三

概観.....三

一 氣 温.....三

沿岸温暖・内陸冷涼一三

二 降 水 量.....三

沿岸少雨・内陸冷涼一三

三 氣 候 區.....二六

周防部(瀬戸内氣候區)一六 長門部(北九州氣候區)一七

四 氣 候 の 影 響.....二七

日本海沿岸の體感不良一六 周防灘沿岸の夕風一六 梅雨禍一七 地方風土病一七

第四章 産 業

概 観.....三〇

一 農 業 附 養 蠶.....三一

耕地一水田卓越一三 農業經營一三 米一三 麥一三 甘藷馬鈴薯一三

大根茄子一七 葉煙草一七 蜜 柑一六 夏 橙一七 柿一七 楮 三極一四〇

蒟蒻芋一四 附養蠶一四

二 畜 産.....四

牛一四 鶏一四 蜜 蜂一四

三 林 業.....四

用 材一四 竹 材一四 木 炭一四 松 茸一四 筍と山葵一四

四 水 産 業.....四九

全國第四位一四九 内外漁場一四九 沿岸漁獲一五〇 遠洋漁獲一五一 水産製造一五二

水産養殖一五二 製 鹽一五三

五 工 業 附 發 電.....五五

長足の發展一五五 工業廊下一五五 特色ある工産物一五五 附發電一五五

六 鑛 業.....五九

宇部炭一五九 其の他一六〇

七 商 業.....六〇

商 圈一六〇 商業組合及市場一六〇 商工獎勵機關一六〇

第五章 交 通

概 観.....六四

一 道 路.....六四

國 道一六五 主要縣道一六五 交通量 六

二 鐵 道.....六七

中國環狀線の尖端一六六 主要 驛一六六 山陽本線一七〇 山陰本線一七〇 柳井線一七二

山口線一七二 美禰線一七二 關門連絡一七二

三 海 運 附 通 信.....七三

沿岸交通一七三 大島の海上交通一七三 下關の海上交通一七四 主要港一七四 附通信一七六

第六章 文 化

概 観.....七七

目次

一 沿革

古代一七 中 古一六 近 世一七 藩 領一七 明治以後一七

二 人口

人口の分希一八 人口の増減一八 職業人口一九 都市人口一九
出稼と移民一八

三 社會

教育一六 神 社一七 宗 教一七 兵 事一八 警 察一九 言 語一九 氣 風一九

四 郡 邑一七 都 邑一七 附 天 然 紀 念 物・ハ イ キ ン グ コー ス
郡 邑一七 天 然 紀 念 物一七 ハ イ キ ン グ コー ス一七

第七章 地方誌

地理 區

一 周 東 臺 地

二 周 南・大 島

三 周 防 海 岸

四 長 門 山 地

五 長 門 海 岸

六 阿 武 山 地

七 日 本 海 岸

參 考 文 獻

附 錄・山 口 縣 市 町 村 別 面 積 人 口 表

主要圖版目次

第一圖	縣下の人口分布	二	第三一圖	葉煙草の分布	三八
第二圖	山口縣の地形	三	第三二圖	蜜柑の分布	三九
第三圖	縣下の斷層群	五	第三三圖	柿の分布	四〇
第四圖	山口縣地塊圖	五	第三四圖	楮の分布	四〇
第五圖	山口縣地質圖	六	第三五圖	藨の分布	四一
第一一圖	縣下の河川と分水界	一三	第三六圖	生牛の分布	四二
第一五圖	夏季冬季の氣温	二三	第三七圖	乳牛の分布	四三
第一七圖	夏季冬季の雨量	二五	第三八圖	鶏の分布	四三
第一八圖	年氣温と年降水量	二五	第三九圖	蜜蜂の分布	四四
第一九圖	氣候 區	二六	第四〇圖	縣下の禿山	四四
第二〇圖	等田植線圖	二七	第四一圖	用材の分布	四五
第二一圖	米の分希	三二	第四二圖	竹材の分布	四六
第二二圖	米の反當收穫	三三	第四三圖	木炭の分布	四六
第二四圖	裸麥の分布	三四	第四四圖	松茸の分布	四七
第二五圖	小麥の分布	三五	第四五圖	筍の分布	四八
第二六圖	大麥の分布	三五	第四六圖	市町村別漁獲高	五〇
第二七圖	甘藷の分布	三六	第四七圖	縣下の工業地帯	五六
第二八圖	馬鈴薯の分布	三六	第五〇圖	縣下の商圏	六一
第二九圖	大根の分布	三七	第五一圖	縣下の道路網	六四
第三〇圖	茄子の分布	三七	第五二圖	歩 行 量	六七

目 次

山口縣地誌

第一章概説

位置 本縣は本州の西端にあつて、玄海を隔てた大陸へ最も近い優れた位置を占めてゐる。

極東 東經一三二度三〇分……大島郡油田村
極西 東經一三〇度四七分……豊浦郡蓋井島
極南 北緯三三度四三分……熊毛郡八島
極北 北緯三四度四八分……阿武郡見島

面積 本縣の面積は六〇八二方秆(三九四方里)で、全國道府縣中の第二四位を占め、上位は茨城縣、下位は三重縣である。延長は東西に長く南北に短い。岩國・下關間(約一七〇秆)の急行列車所要時間は約三時間である。

人口 昭和十年の國勢調査による本縣の人口總數は一一九萬〇五四人(男五九萬八四三四人、女五九萬二一〇八八人)で、全國道府縣中の第二五位を占め、中國では廣島・岡山兩縣に次いでゐる。

區分 本縣は山陽八箇國のうち周防・長門の二國から成る。行政上八市一郡(周防六郡、長門五郡)に區分され、縣廳は山口市に在る。郡市界は瀬戸内海及日本海斜面に各々分割されてゐる。

第五三圖 鐵道の主要驛	六八	第六三圖 天然紀念物の位置	九二
第五四圖 縣下の鐵道トンネル(削除)	七一	第六五圖 地理區市町村名入	九七
第五七圖 幕末大名領地圖	七九	第六六圖 山葵の分布	九九
第五八圖 縣下の人口密度圖	八一	第六七圖 蒟蒻芋の分布	九九
第五九圖 市町村別人口の増減	八二	第六八圖 三椏の分布	一〇四
第六〇圖 職業紹介所別出稼	八四	第六九圖 夏蜜柑の分布	一一六
第六一圖 廣島山口兩縣の海外渡航者	八五	第七〇圖 除虫菊の分布	一一六
第六二圖 署別犯罪相對數	八九		

(以上縣全體ニ關係アルモノ)

主要統計目次

本縣の海岸線	一九	山口縣主要遠洋漁獲物	五二
縣下各地の平均氣溫表	二二	製鹽	五四
縣下各地の降水量	二四	縣下の水力火力電	五八
山口縣郡市別生産總額	三〇	郡市別面積人口密度	五八
耕地と農産額	三一	職業別人口千分比	八〇
山口縣主要農作物附蠶繭	三三	職業紹介所別出稼	八三
山口縣の畜産	四二	海外在留者	八五
山口縣の林産物	四五	寺院神道教會基督教會	八八
山口縣水産狀況	四九	都市の國勢調査人口	九一
山口縣主要沿岸漁獲物	五一	山口縣の地理區	九八

下關市、宇部市、山口市、萩市、徳山市、防府市、下松市、岩國市、大島郡、玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、吉敷郡、厚狭郡、豊浦郡、美禰郡、大津郡、阿武郡

生産 昭和十三年末に於ける本縣の生産總額は五億四千餘萬圓に上り、全國道府縣中の第一〇位を占めてゐる。もと大正元年には七千萬圓足らず、昭和元年には二億圓であつたから、最近三〇年間足らずの間に素晴らしい躍進を遂げてゐる。

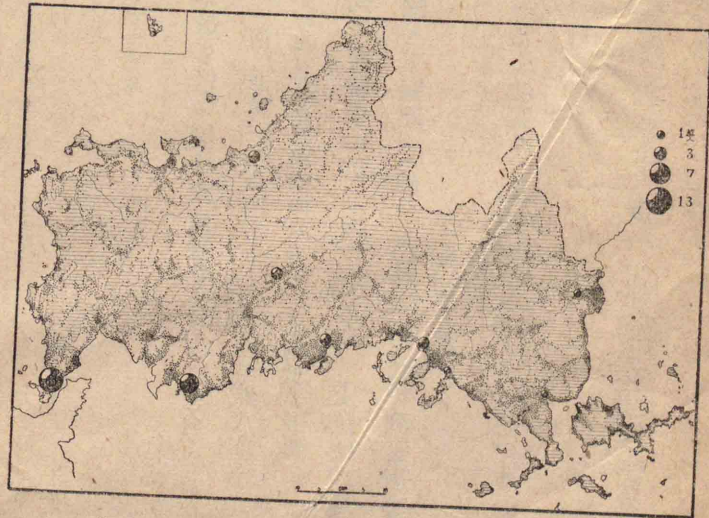
之を要するに本縣は大體全國各府縣中の中位を占め、特に最近生産額の躍進した事は稀に見るところである。その原因は本縣瀬戸内海沿岸の至る所に工業の勃興を見たからである。故に藩政時代の周防・長門は單なる農林水産國であつたが、今日の山口縣は新進の工業縣である事を知らねばならぬ。

第二章 地 勢

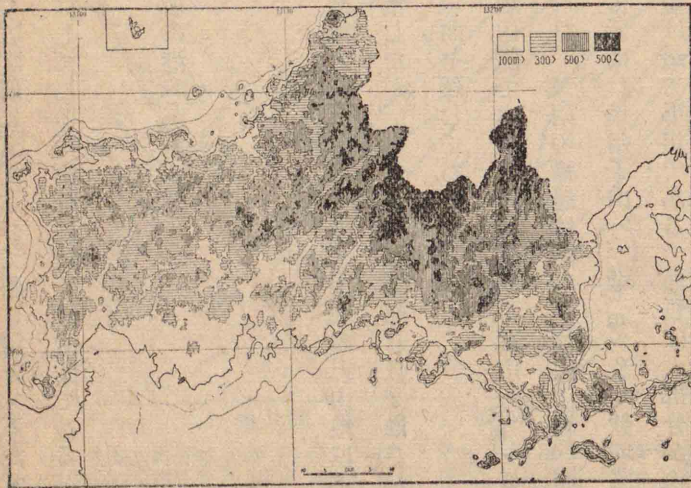
概 観

本縣は中國山地の西端に當り山陰・山陽の合體した地域であるから、一般に東が高く西に低く、北・西・南の三斜面を有し、山地が多い。

山脈 中國山脈は本縣に於て五枝に分れてゐる。本脈は防石二國の國境に幾多の峻嶺を起す寂地山脈で、中國最高本縣第一の高峯寂地山（一三三九m）がある。それより北西に走り石見・長門の二國の境界をなす一枝を徳佐峯山脈といひ、又西南に折れて周防・長門の境界をなすものを鳳翻山脈（西鳳翻山七四〇）と云ふ。鳳翻山以西の中國山脈は高度は低いが著しく日本海に迫つて長門の分水嶺をなし、其の一部は鯨岳山脈と呼ばれる。別に長門の西を限るものを豊浦山脈といふ。



第1圖 縣下の人口分布（昭和10年國調）（各點100人）



第2圖 山口縣の地形

河流 諸川は以上の分水嶺から必ずしも南北に流れる事なく、斷層に支配されて斜に流下するが常である。岩國川（錦川）佐波川、阿武川の三大河はよく之を現はしてゐる。平野は河流に沿ふてゐるが纏つて發達したものはない。

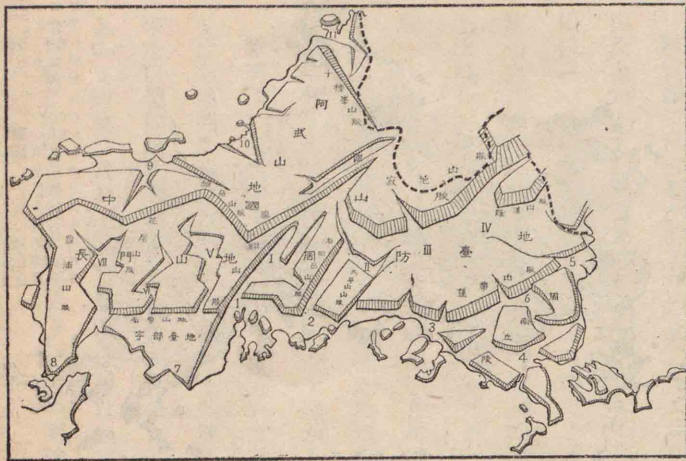
海岸 日本海及び周防灘共に出入の多い沈降性海岸に至る所に港灣がある。

一 山 地

本縣の山脈は山地又は臺地から成る。標高の稍々大な周防臺地・長門山地・阿武山地の三山地は本縣の胴體をなしてゐる。之らは前代に於て一度臺地（準平原）と化したのが、今日それが隆起し且侵蝕されて低く起伏してゐる。臺地は又斷層によつて切られ、諸處に平坦面を残してゐる。

周防臺地 周防臺地は藝北山地（廣島縣）の西に隣り、北は寂地山脈で本縣の最高峯たる冠山（寂地山）や肋岳（一〇〇四m）等に限られ、西は徳佐盆地及び山口盆地に斷たれ、又南の縁邊は防府―徳山―岩國間の一線によつて急斜してゐる。うち徳山―岩國間は蓮華山脈とも云はれ鳥帽子山（六九七m）及び欽明路峠がある。標高は平均四〇〇―五〇〇米で、徳山背後の須々万臺は最も平坦である。地質は大部分が秩父古生層から成る。

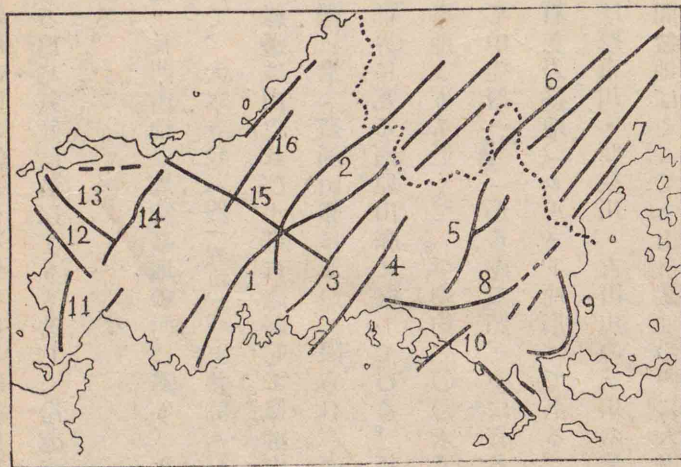
（地質）



第4圖 山口縣地塊圖

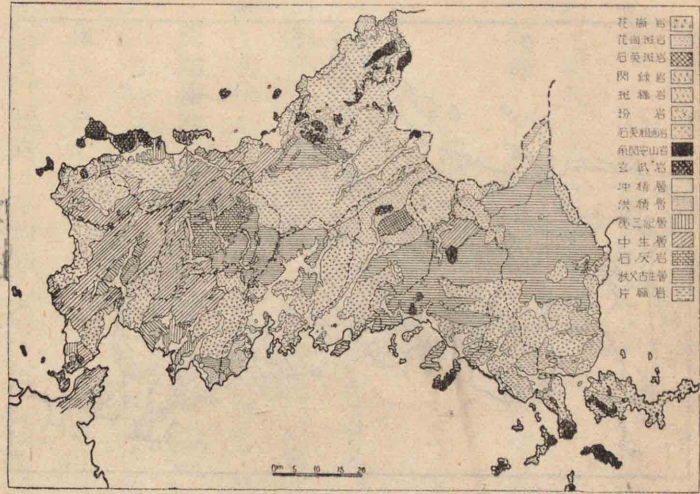
臺地は榎野川・佐波川・岩國川等の谷に切られて、
右田ヶ岳山脈・大平山脈・羅漢山脈等の地塊に分れる。
火山は青野山（島根縣）の南方に千石岳・金峯山・四熊岳（五〇四m）トロイデ式等がある。

周防臺地には四郡二五箇町村の農山村がある。臺地とは云



第3圖 縣下の斷層群

- | | | | |
|---------|----------|----------|-----------|
| 1 榎野川斷層 | 5 錦川斷層 | 9 錢坪山斷層 | 13 瀧湯部町斷層 |
| 2 津和野斷層 | 6 冠山斷層 | 10 鳥湯岳斷層 | 14 瀧湯三萩斷層 |
| 3 佐波川斷層 | 7 阿王山斷層 | 11 湯湯岳斷層 | 15 湯湯三萩斷層 |
| 4 千石岳斷層 | 8 岩國徳山斷層 | 12 湯湯岳斷層 | 16 湯湯三萩斷層 |



第5圖 山口縣地質圖 (依農商務省20萬分の1地質圖)

へ纏つた平野は廣瀬—鹿野—島地—堀等の小盆地が、津山盆地—三次盆地の西の續きをなしてゐるに過ぎない。而も標高が大なる爲め氣候は沿岸よりも著しく冷涼で、交通も亦不便である。

長門山地 長門山地は周防臺地の西に隣り、北は水分嶺の鯨岳山脈で、大寧寺峠(四一五m)や天井岳(六九二m)がある。東の縁邊は山口及び小郡に急斜して鳳凰山脈と呼ばれ、西は響灘に沿ふ豊浦山脈によつて限られ、南は凡そ厚狭・美禰兩郡界に互る南原山脈に終つてゐる。長門山地の標高は周防臺地よりも低くて、平均約三〇〇米である。地質は主として中生層(豊浦層)から成るが、中に有名な秋吉臺は古生層の石灰岩臺地(カルスト地形)である。

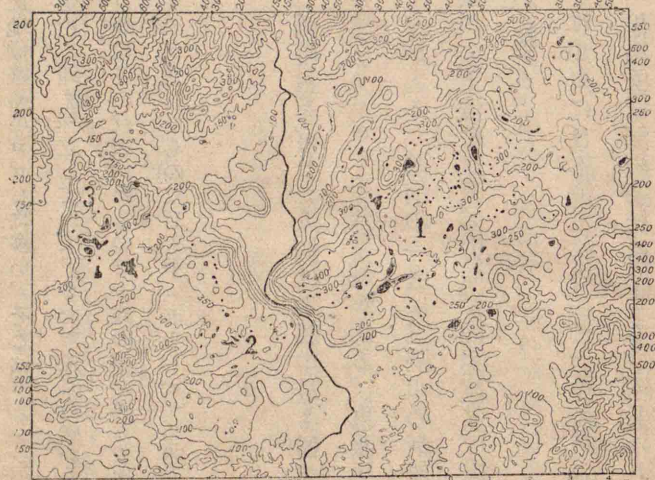
開け、其の間に秋吉臺・花尾山脈等が起伏してゐる。山間盆地はこゝでも山口盆地の西に大田・伊佐・

西市の如く東西に並んでゐる。

秋吉臺 秋吉臺が有名なのは、嘗て現在の石灰岩を被ふてゐた秋吉山脈といふ大山脈があつた事と、現に石灰岩臺地として我が國最大の規模(一八〇方軒)をもつてゐる事である。臺地は厚東川を中にして東の秋吉臺、西の雨乞臺に分つ。臺地面は地味が瘦せてゐる上に、地上水は石灰鉢(俗に地鉢と呼ばれる)といふ凹地に吸込まれて常に乾燥してゐるから、植物の成長の悪い荒地が多い。かゝる町村は二町九箇村に互り、窪畑と稱せられる特殊な畑を耕作してゐる。窪畑とは石灰鉢(ドリネ)の底に流れ込んだ土壌から成る窪地である。

秋芳洞 秋吉臺で世間に最も知られてゐるものは秋芳洞である。こゝは臺地面に滲み込んだ水が地下を伏流する間に石灰岩を溶かして出来た自然の一大洞窟で之を鐘乳洞と云ふ。奥行二・五軒、間一〇米といふ規模は我が國第一である。中は地下水が滔々と流れ、瀧穴から

地上水となつて厚東川へ注ぐ。天井や側壁からは水柱の様に垂下した鐘乳石や、筈の如く蹲つた石筍が千狀萬態の奇觀を呈してゐる。何れも溶けた石灰岩が再び結晶したものである。觀客は何れも電燈の明りを便りに此の自然の大傑作を



第6圖 秋吉臺(東部)雨乞臺(西部)のドリネ群

眺めるのである。

地獄臺 秋吉臺では尙遊覽者の注意をひかない地上の奇觀が見られる。即ち俗にジバスと云はれてゐる石灰鉢（ドリネ）は普通の開いた谷ではなく、臺地上にほゞ圓く窪んだ凹所で、特に地獄臺や馬コロビに多い。そこはカーレンフェルドとして轍の跡のやうな無数の溝と猛獸の牙を植ゑたかの様な石灰岩が白く鈍く林立してゐて、うたた荒涼の感を與へる。又數箇の石灰鉢が相合したものは石灰盆（ウバーレ）と云はれ、江原はその代表的なもので一般の谷と異り不規則な袋狀の盲谷をなしてゐる。石灰盆が更に大きく而も土砂に堆積されて平坦化したものは石灰平（ポリーエ）と稱する之等のうち地上水の有るものは若干の水田となる。

阿武山地 阿武山地は日本海に臨む凡そ四邊形の高原で二三箇町村を有し、人煙は本縣中最も稀である。東南は徳佐盆地及び鳳翻山脈に限られ、其の南縁に龍門岳（六八八m）や八丁越がある。東北は島根縣側へ急斜する十種峯山脈で、中に十種峯（九八八m）の主峯がある。西南の一邊は三隅川の斷層谷に切られてゐる。標高は平均三〇〇—五〇〇米で、丘陵は阿武川の上流や支流の方向に四列連り、海岸も亦急斜してゐる。地質は山陽側と異り、石英斑岩の火成岩から成る。

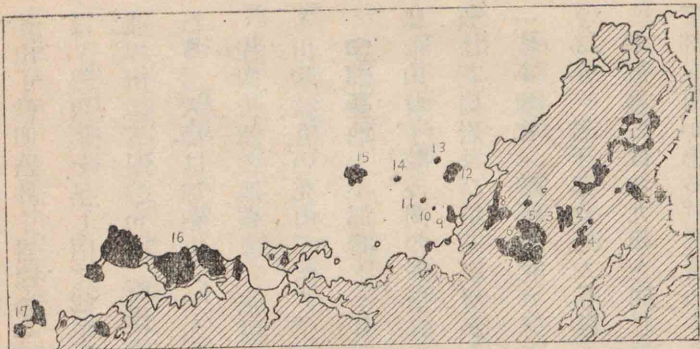
阿武山地には玄武岩が諸處に噴出して熔岩臺地群をなし、それが更に日本海上にのびて六島村の島々や遠く離れた見島に及んでゐる。之は日本海岸特有のもので、但馬玄武洞の系統に屬する。陸上の主な

るものは東臺・西臺・千石臺・長澤臺・羽賀臺等で、何れも熔岩臺地によさはしい名をもつ。又萩海岸では中ノ臺・鶴江臺があり、海上では大島・羽島・相島・見島等がそれで何れも見事な卓子狀を呈してゐる。臺地面では三種や除虫菊の栽培が試みられてゐる。

大島 六島村の主島大島はアスピーテ式玄武岩臺地で、海拔約八〇米の波浪原をなし、北岸は特に急な海崖に終つてゐる。臺地面は玄武岩堆土の地味肥沃な畑で、海と共に島民の生命である。

二 丘陵・附温泉

本縣は以上の三山地を胴體として周防灘に面する低い丘陵がよく發達してゐる。周南丘陵と宇部臺地とが之である。丘陵は切れくとなり數多の小平地を點綴してゐる上に氣候温和であ



第7圖 玄武岩臺地群

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 1 平山臺 | 2 東臺 | 3 西臺 | 4 伏馬山 | 5 千石臺 | 6 鍋山 |
| 7 長澤臺 | 8 羽賀臺 | 9 笠山 | 10 羽島 | 11 肥島 | 12 大島 |
| 13 櫃島 | 14 尾島 | 15 相島 | 16 雨乞岳 | 17 角島 | |

るから山地よりも多くの人口をもち、縣民にとつて特に重要な生活舞臺となつてゐる。

周南丘陵 廣島灣の兩翼をなす周南岳陵と藝南山地(廣島縣)とはよく似た姉妹地である。周防山地とは徳山—欽明路峠—岩國の一線によつて急に低下し、廣島灣及び周防灘に面しても斷層してゐる。全域はほぼ三角形を呈し南に熊毛半島(室津半島)を突出し、又大島瀬戸を隔て、大島に臨んでゐる。東岸の錢坪山(五四〇m)、西岸の烏帽子岳(四二二m)等を除けば概して二〇〇米未満の數多の丘陵に分れてゐる。大島は加納山(六九五m)を主峯とし島末に低くなつてゐる。

周南岳陵の地質は、花崗岩若くは花崗岩に似た片麻岩から成る。風化に對して弱い之等の丘陵は何れも山陽特有の禿山である。

宇部臺地 小郡灣と小月灣との間に突出する低臺地で、尖端に宇部岬がある。背後は南原山脈で、東縁は山口—岐波間の斷層によつて明瞭に境されてゐる。標高僅かに一〇〇米前後の低丘陵が參差し、地質は花崗岩及び第三紀層から成る。こゝも一度平坦化(準平原化)された後の地形であるが、若干孤立した丘陵もある。

宇部臺地は北九州と同じ地質で、南端に宇部炭田がある。炭層の主なるものは約六

名稱	層狀	厚さ	深度
第四紀層	砂		
	粘土		
	砂粘土		
	粘土		
第三紀層	砂岩	1.8	15.5
	砂岩		17.4
	二頁岩	3.0	
	砂岩		22.2
	大板炭	5.5	
	頁岩		
	砂岩		
	頁岩		
	頁岩	4.2	29.4
	頁岩	3.06	
古生層	砂岩	0.3	3.28
	砂岩	0.4	
	砂岩	3.58	
	二頁岩	2.0	
	三頁岩	2.7	38.0

第8圖 宇部炭田の炭層

層で、最も厚いものは五尺五寸に達する。炭層の一端は丘陵地に露出し、そこから南方海底に平均約三度傾斜してゐる。之が爲め現在稼行せる箇所は深さ二〇〇尺—六五〇尺に達してゐる。炭坑の主なるものは沖ノ山・東見初・本山・大浦等である。

響灘斜面 響灘斜面は豊浦山脈以西の地で殆ど要塞地帯に入つてゐる。こゝも丘陵で下關半島が南に突出してゐる。下關—小串間は響灘に面する斷層で、川棚温泉は此の延長線上に湧出してゐる。

日本海斜面 日本海斜面の東北部には既に述べた阿武山地が海岸迄迫つてゐる。西部では中國山脈の分水界を背にし、前に青海島・向津具半島の地塊を控へてゐる。従つて其の間仙崎灣—深川灣—大津平野—油谷灣に至る一線は、恰も中海—宍道湖—簸川平野間に似てゐる。異なるのは青海島及び向津具半島角島等に玄武岩熔岩臺地を噴出してゐる事である。

附 温泉 本縣には次の四温泉がある。

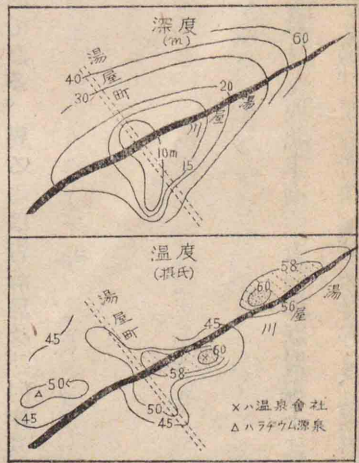
- 湯田温泉(弱鹽類泉) 湯本温泉(單純泉)
- 俵山温泉(アルカリ泉) 川棚温泉(單純泉)

之等は何れも縣下の西半部にあつて、山陰温泉群の延長上にそれ／＼西北—南西方向の斷層線上にあるものと見られる。即ち湯本及び俵山の兩温泉は湯本—大寧寺峠—湯町間の所謂湯町斷層谷に、湯田温泉

は樫野川斷層線に、川棚温泉は湯谷斷層線に沿ふて各々湧出してゐる。周防部は山陽道と共に殆ど温泉を存しないが、湯野鑛泉は鹿野―島地―湯野―富海間の斷層(千石岳斷層谷)上にある。縣下の諸温泉は一般に低温で且鑛物分の少い單純泉の程度に近い。

湯田温泉 湯田温泉は山口市内に存する平地温泉である。湯井は盆地の傾斜(東北―西南)に沿ふて流れる湯屋川筋に分布してゐる。

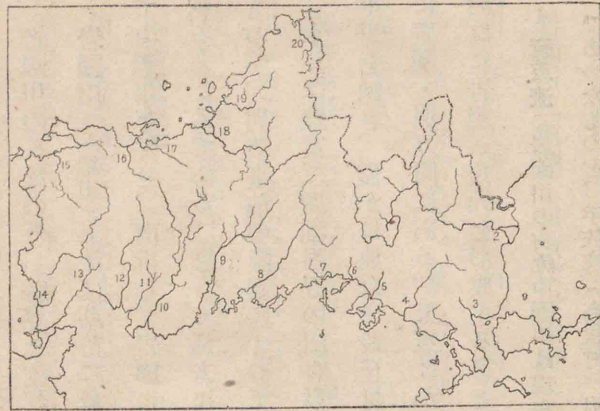
深度は之に直交する湯屋町筋に於て最も淺く、上流・下流共に深くなる。温度は湯屋町筋の上流に於て高く、下流に於て低くなる傾向がある。従つて深く且低温となる下流への發展は將來への望みが無いものと見られる。



第9圖 湯田温泉の深度と温度 (依館林寛吾氏)

三 河流・平野

縣下には長大な河川もなく、廣大な平野もない。然し其の数は少くない。各河川の流域は周防灘・日本海・廣島灣・響灘の四斜面に分たれる。一縣下に四斜面を有する事は稀で、之が爲め一部は廣島又は九州の文化に屬する。



第10圖 縣下の河川と分水界

1	小夫樫吉三
2	瀨野田川
3	川川川川
4	岩厚厚綾阿
5	國田東羅武
6	川川川川
7	川川川川
8	井市帆野井
9	柳夜有栗大
10	川川川川
11	川川川川
12	川川川川
13	川川川川
14	川川川川
15	川川川川
16	川川川川
17	川川川川
18	川川川川
19	川川川川
20	川川川川

河川の延長は、岩國川(二二一里)を初め佐波川(九九里)阿武川(八三里)樫野川(八二里)等が大である。流域面積は岩國川(五七方里)佐波川(二千方里)厚東川(二五方里)樫野川(二〇方里)等の順位となる。又平野では防府平野・山口盆地・柳井平野・岩國三角洲・萩三角洲・大津平野等がある。うち、瀨戸内海に面する沿岸平野の地先は古來人工によつて干拓された部分が少くない。



第11圖 周防灘の十大干拓地

流路の方向 流路の方向は殆ど斷層によつて一定されてゐる。岩國川と阿武川とは相反して流れるけども、その方向は同じ西北―東南である。又周防灘に注ぐ諸川は概して東北から西南の山陽一般の方向である。河水流量の變化は日本海斜面と周防灘斜面との間に相異があ

つて、前者では三月に増水する山陰型式で阿武川が之を代表し、後者では七月に極大を現はす内海型式の岩國川・佐波川・厚狭川等が之を代表する。流量の如何は灌溉・舟運・發電の外氾濫の傾向にもそれ〴〵の特色をもつに至る。

廣島灣斜面

岩國川の長流の外、縣界を流れる小瀬川（大竹川）がある。

岩國川（錦川）上流は勤岳に發して周防臺地を南下し、徳山の背後から一轉して北に向ひ、廣瀬に於て中瀬川を併せ、南折して岩國に於て海に注ぐ。かくの如く迂餘曲折する河川は中國地方以外には稀に見るところである。恐らく過去に於ては徳山背後の杉ヶ峠（四三〇m）及榮谷（サカエ）を経て徳山灣に注いでゐたものが、周防臺地の隆起によつて北流するに至つたものであらう。

水量は豊富で廣瀬附近の出合以下は昔から舟運及び筏流の便がある。然し流域は至る所峽谷をなして平野を缺き、僅かに鹿野の段丘盆地（海拔四〇〇米で、縣下最高の低地）と廣瀬の小河谷盆地があるに過ぎない。急流部は特に廣瀬・須万間にある。天恵はかゝる急流部に新舊の發電所が設けられて縣下第一の動力原をなす事と河口に岩國三角洲を形成する事とである。

奪取流 岩國川の支流中瀬川は現在冠山を巡る上流を容れてゐるが、此の最上流部は嘗つて高津川（島根縣）の上流であつたものを、宇佐郷（高根村）附近で岩國川が奪取したものである。かゝる事例は支流にも認められ、本流の轉向

と共に岩國川に於ける二つの異變である。

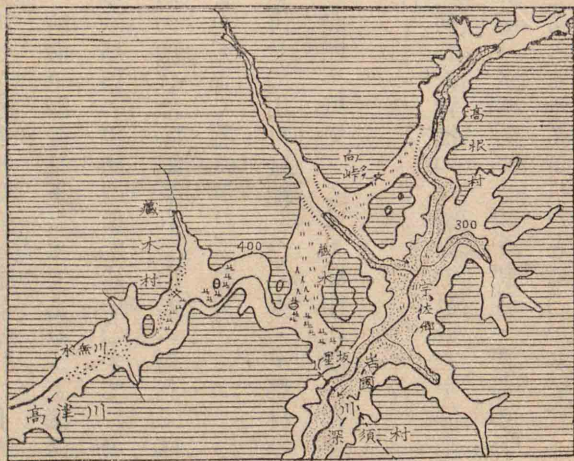
岩國川三角洲 扇頂は岩國町に初まり、岩國川は今津川・門前川に分れて美しい三角洲を展開してゐる。標高は分流部に於て僅かに七米である。蓋し扇端部は防府と共に標式的の州端干拓地である。

柳井平野 柳井平野は熊毛半島の陸頸部を流れる柳井川の小河川に沿ふてゐるが、成因上相反して流れる田布施川と協力して造つた灣頭冲積平野である。

周防灘斜面

周防灘斜面には長大な河川はないが、其の數甚だ多く下流三角洲の發達が著しい。長門部の諸川は河口が喇叭形をなす三角河口が多い。海岸地先に於ける人工開作は藩政時代以後こゝに最も多く見られる。

島田川 上流は玖珂盆地を潤ほし、周南丘陵を経て周南町に於て海に注ぐ。川口に臨んで小三角洲を造つてゐる。



第12圖 岩國川上流の爭奪

周南の諸川 徳山灣頭の地は背後直ちに周防臺地を負つてゐるから、諸川は何れも短く且急である。之が爲め下松に末武川、徳山に東川、富田に富田川、福川に夜市川が、各々扇狀三角洲を造り互に相接してゐる。河道は何れも左扇側に偏し、扇端はやはり開作されてゐる。

佐波川と防府平野 上流は防石の境に發し、堀に於て島地川を併せ、途中花崗岩地帯を流れ、下流に防府扇狀三角洲を沖積してゐる。佐波川は周防灘第一の長流で、防府平野は縣下最大である。下流はもと三田尻灣に注いでゐた形跡があるが、今は右扇側を流れてゐる。扇頂の標高は僅かに一〇米で、扇端迄七籽ある。扇端部は毛利藩歴代の開作によつたもので、田島山の如きは陸繋され、向島に面しては廣大な中關鹽田が開けてゐる。平野は扇頂から取入れた灌漑網によつてよく灌漑されてゐる。

樵野川 中流は大内村を迂廻し、山口市では天神川及び錦川を併せて山口盆地をつくり、上郷村の峽隘を出はづれると小郡平野を形成してゐる。平野は小郡灣に臨む灣頭平野で、こゝも開作に成つたところが頗る多い。

長門の諸川 厚東川・有帆川・厚狹川・吉田川の四川がある。何れも背地の長門山地を發し宇部臺地を経て海に入る。河道の勾配にも餘り變化がない。河谷は比較的によく開け、大田・伊佐・西市の各盆地がある。河口は喇叭形で宇部・小野田・厚狹・小月の各平野とも古來干拓されたところが多い。

響灘斜面

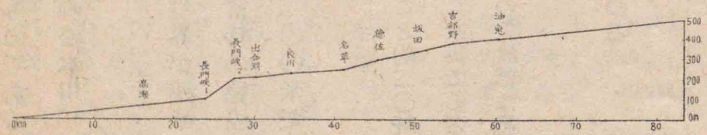
響灘斜面の背後は下關―小串間の海岸が急斜し、四斜面中最も狭く河流も亦短小である。綾羅木川は下關西郊に小平野をつくり栗野川は田耕盆地を發して分水界を先行し油谷灣外に注いでゐる。

日本海斜面

日本海斜面には阿武川以外に著しい河川はない。方向もまち／＼で多くは斷層の方向に従つてゐる。平野は大津平野と萩三角洲とを擧げる事が出来る。

大津平野 大津郡一帯の平野を指す。東は仙崎灣に注ぐ三隅川、中央は深川灣に注ぐ深川、西部は油谷灣に注ぐ掛淵川及び栗野川の各流域で、深川平野・古市平野の名がある。平野は内陸の丘陵と對岸の島々との間に地溝狀を呈してゐる。

阿武川 阿武川は岩國川・佐波川に次ぐ縣下第三の長流である。上流は野坂峠(島根縣界)を發して徳佐盆地を潤ほしつゝ、西南に流れ、長門峽に及んで急に西北に轉じ阿武山地を横斷してゐる。此の異變は阿武川の勾配にも現はれてゐる。即ちもとの阿武川は地福村を發し、之に反して津和野川は徳佐村に發して島根縣へ流れてゐた。然るに國境部に火山三原



第13圖 阿武川の傾度

山が噴出するに及んで津和野川の上流は切られ、後現在の如く阿武川に轉身するに至つたものである。長門峽が深い峽谷を穿つに至つた一因もこゝにある。阿武川の出口も亦岩國川のやうに東の松本川、西の橋本川に分れ中に美しい萩三角洲を造つてゐる。

徳佐盆地 東北は野坂峠、西南は杉峠に限られる細長な山間盆地で、うち徳佐・篠目の境界が狭まつてゐる。此の方向は津和野―山口―小郡線の斷層谷に當る。三原山が津和野川を截頭した當時の徳佐盆地は満々たる湖水を充したものと見られ、減水に應じて出來た段丘がある。盆地の標高は三〇〇米で鹿野盆地に次いで高い。

長門峽 阿武川の上流が其の支流に會して丁字形となり、急に北西の方向に轉じて阿武山地を横切ること約二〇〇杆に及ぶ峽谷である。成因は阿武山地の隆起に抗して流れ續けた上に、津和野川の上流を奪つて水量を増加した爲である。峽谷は石英斑岩の奇岩怪石に阿武川の奔流飛瀑を添へた美しさによつて春秋の遊覽者が絶えない。尙此の急流部は發電に利用されてゐる。

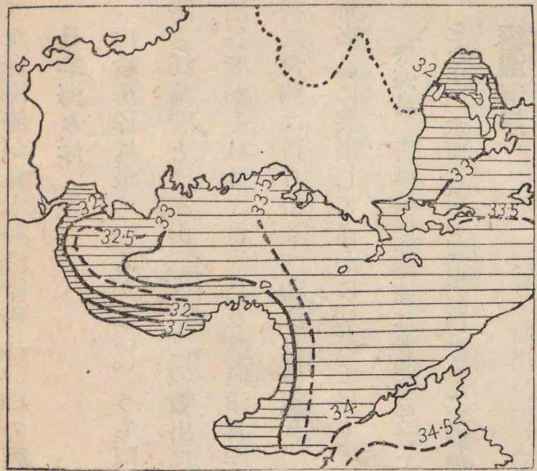
田万川・大井川 阿武山地の北部を互ひに相反して流れ、流路に細長な小平野を有してゐる。

四海 岸

本縣の地域は略々五角形を呈し、その四邊が何れも海に面し、面積に比して頗る海岸線が長い。總延長は六七三杆で廣島縣の約四倍に當る。成因から見ると何處も同じ沈降性海岸で一部に斷層海岸がある。沿岸に島嶼が相當にある事は沈降海岸の故であるが、日本海岸の島々は玄武岩の噴出せるもので島の少い山陰海岸の例を破つてゐる。瀬戸内海方面では藝豫叢島に屬する大島を初めとして島が稍々多いが、周防灘西部には殆どない。

本縣の海岸線

日本海岸	208.8杆
響灘海岸	〇〇〇
周防灘海岸	248.0杆
廣島海岸	79.2杆
山口縣	673.7杆



第14圖 周防灘表面水の鹹度 (昭和7年5月・數字は千分比)

水深は周防灘に於て淺く、日本海に深い。潮汐の干満は日本海側の約四〇種、周防灘方面は約三米で著しく異なる。潮流は下關海峽に於て最大〇節、大島瀬戸〇節、諸島瀬戸六節である。又豊豫海峽から流入する潮流は祝島を衝き、東に折れたものは大島を洗ひ、西に折れたものは宇部岬に至つて關門を東流する潮流に會する。鹹度は内海に於て徳山灣以西が淡く、又大島の内浦以東の廣島灣が淡い。海流

は對島海流が日本海沿岸約八〇浬の範圍を洗つて東流してゐる。

日本海々岸

山陰海岸は最も出入が多い。うち阿武山地の海に迫る部分は比較的單調で石見灣に似てゐる。須佐灣と江崎灣とは高山(五三三m)の噴出によつてつくられてゐる。萩以西の所謂北浦では仙崎灣・深川灣・油谷灣ユヤがそれ、青海島及び向津具半島に相對してゐる。又沖には六島村に屬する玄武岩の島々もある。萩三角洲は指月山及び鶴江臺に續き、小さい乍ら笠山は立派な陸繋島となつてゐる。一方仙崎の砂洲は青海島に突出して僅かに切れて居り、向津具半島の一部は古市の平野によつて陸に繋がれてゐる。

青海島 青海島の外海面は海蝕を受けて絶壁をなし、そこに玄武岩や石英粗面岩の柱狀節理を大規模に露はして奇勝をなす。水面に沿ふて波の躍り込んだ海蝕洞や洗ひ盡されて残つた離れ小島もある。人之を呼んで十六羅漢と稱する。

響灘海岸

一部は斷層海岸であるが、大體は出入の少い山陰海岸型式である。即ち小さい陸頭と小規模の砂濱とが互違ひに發達してゐる。島に角島(玄武岩)がある。

周防灘海岸

西は下關半島から東は熊毛半島に至る縣下最長の海岸である。うち西部は東部よりも深く沈降し、小

郡灣の如きは灣長一〇浬に及んでゐる。灣頭部は遠淺で幾多の開作が行はれ、良港は却つて岬角部の下關・宇部等にある。

小郡灣以東では沈降は少く島が多い。島の多くは自然の陸繋島を造るか、又は干拓されて陸に續いてゐる。秋穂町・防府市・櫛ヶ濱町・室積町・熊毛半島等が之である。秋穂では突出した砂洲が各小島を結んで掌狀をなし、防府では田島山を接續し、櫛ヶ濱は内陸に對して一條の水路を残し、室積に至つては規模こそ小さいが峨嵋山を繋いだ標式的の陸繋島である。良港は三田尻・徳山・下松(笠戸灣)・水場港・上ノ關港等で、長門部の岬港と異り何れも灣港である。

廣島灣海岸

岩國・柳井間の海岸は錢坪山斷層崖に沿ひ、狭い海岸平野が直ちに海に臨んでゐる。大島一帯は藝豫叢島の一部をなす多島海である。大島も主部と島末とは二つの島であつたものが、船越地峽によつて接續してゐる。島々のうちでは平郡(平)が稍々大きい。

第三章 氣候 概観

本縣は本州の西南端を占め、我が國の文化的氣温と稱せられるC一五度線上に横はつてゐる。日本海斜面は瀬戸内海斜面に比べて降水量が多く風が強い。

一 氣 温

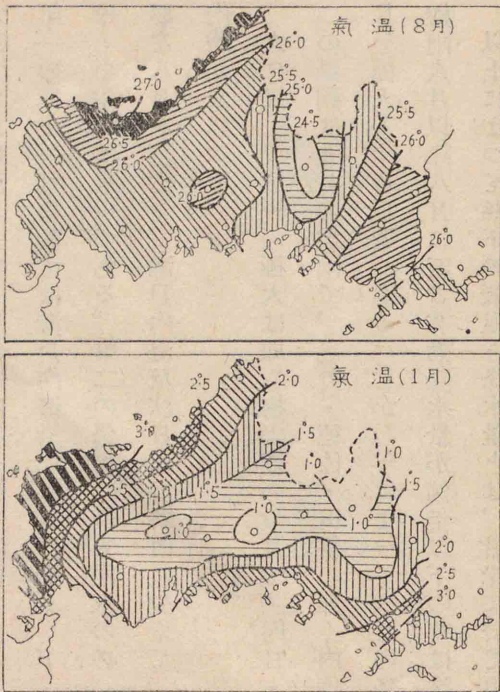
沿岸温暖・内陸冷涼 防長の内陸一帯は年平均C一四度内外で、中には鹿野・徳佐の如くC一三度内外の冷涼な所がある。

沿岸一帯は、日本海沿岸も瀬戸内海沿岸も頗る温暖で年平均C一五度以上である。特に仙崎・見島の如きはC一六度に達し、瀬戸内海方面よりも寧ろ温暖である。季節的にはどこも一月に最低で、八月に最高を示す。

縣下各地の平均氣温表

観測所	最低月	最高月	年平均	較差
日本海斜面	見田 7.05	27.20	16.26	20.15
	島耕崎 4.55	25.91	14.27	21.35
	萩 6.08	27.60	16.04	21.52
	須佐 5.66	26.51	15.48	20.85
内陸部	須佐 5.19	25.59	14.65	20.40
	木田 5.03	26.99	14.61	21.96
	大御 4.08	26.85	14.43	22.77
	堀 4.59	26.90	14.93	22.31
	野瀬 4.33	25.81	14.24	21.48
	徳佐 2.08	25.12	12.94	23.04
瀬戸内海斜面	鹿野 3.64	26.75	14.38	23.11
	徳高 2.08	25.99	13.37	23.97
	高松 4.24	27.44	14.96	23.20
	關府 6.11	26.81	15.65	20.70
	山松 5.71	26.74	15.40	20.03
	下松 5.20	26.64	15.11	21.44
	平小松 4.83	26.92	15.26	22.07
岩國 5.50	26.89	15.76	21.39	
下平小松 4.81	26.73	15.05	21.92	
岩國 6.28	27.30	15.96	21.02	
小松 4.41	27.73	15.40	23.32	

(最高月ハ8月・最低月ハ1月・昭和10年・C度)

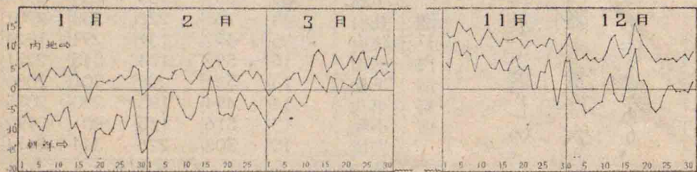


第15圖 夏季・冬季の氣温

臺地下に於て大である。冬季は朝鮮に於て發達してゐる三寒四温の影響をうけるのが特色である。

二 降 水 量

沿岸少雨・内陸多雨 内陸に於ける分水界一帯は年二〇〇〇耗以上の多雨地で、鹿野



第16圖 三寒四温 (上ハ下關・下ハ京城)

しかし日本海沿岸では二月も可なり低い。

縣下の最寒地は鹿野及び

徳佐の如く(一月、二〇八

度)内陸にある。又同様

最暖地は岩國・仙崎・高

森・小松(八月、二七度以上)

である。最高最低の差は

徳佐・岩國・高森・廣瀬

鹿野等で概して内陸又は

の如きは二六〇〇耗に達し縣下第一の多雨地である。沿岸部は若干少いが、瀬戸内海と雖も尙一五〇〇耗以上の降水量がある。うち萩及防府は最も少い。

季節的に見ると、縣下一般に一月と八月に最も少く六月と九月に最も多い。これは山陽一般の特色である第一の極少一月に於ては瀬戸内海沿岸に特に少く、下松—平生等は最少である。第二の過少は最も用水の必要な八月を選ぶと、瀬戸内海及び日本海斜面に少く内陸が之に次ぐ。

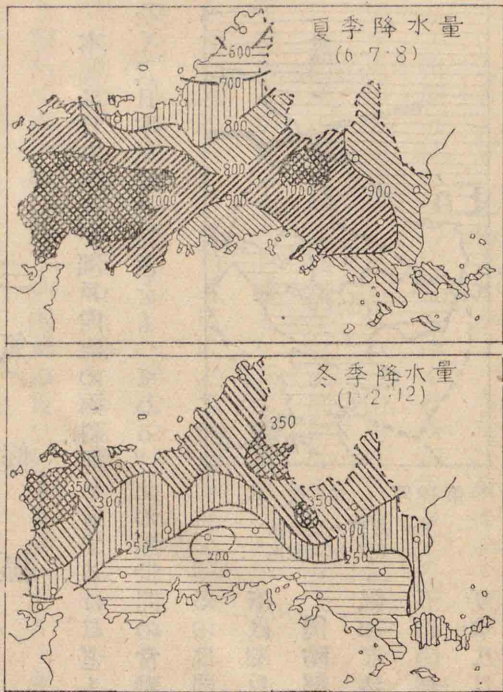
之に反して第一の極大は即ち梅雨期の六月で、内日・長府・田耕の如く長門に於て著しい。第二の過剰は九月の霖雨で、鹿野・徳佐・田耕の如く内陸部に於て著しい。通じて縣下の降水量は六月九月を極大とする夏型である。しかし年によつて六月の降水量が尙七月に互つて多い時は不作となり、又梅雨六月以降八月に至る有効降水量が例年以下の時は早魃を招く患がある。

以上によつて縣下の気温と降水量とは、沿岸に於て温暖少雨、内陸に於ては冷涼多雨である。云ふ迄

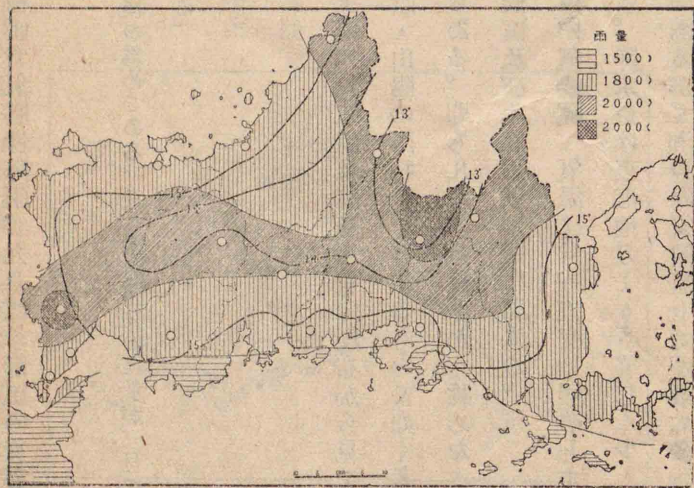
縣下各地の降水量（昭和10年・耗）

観測所	極少月(1月)	極大月(5月)	過少月(8月)	過剰月(9月)	全年
日本海斜面					
見島	52	359	161	259	1729
田耕	79	677	299	482	2559
仙崎	55	495	139	405	1875
萩	65	511	130	303	1755
須佐	57	357	139	427	1762
内陸部					
内日	49	767	294	300	2473
船木	30	619	178	231	1976
大田	50	649	215	308	2143
御堀	27	556	203	287	2129
堀	29	594	218	346	2191
鹿野	80	640	251	424	2655
廣瀬	53	623	138	411	2376
高徳	22	580	224	340	2314
徳佐	73	524	207	423	2147
瀬戸内海斜面					
下關	39	659	183	234	1970
防府	43	735	227	233	2201
徳山	25	497	131	291	1924
山松	16	592	174	343	2251
平松	13	521	208	301	2086
小松	14	494	195	290	2015
岩國	13	516	173	401	2192
	15	508	226	344	2114

×印=限リ10月、過少月=8月ヲトリタルハ有効月ナルガタメナリ



第17圖 夏季・冬季の雨量



第18圖 年気温と年降水量

もなく内陸は海拔が大で中國に於ける高冷地域の西端に當ると共に、分水界が濕氣を遮つて他よりも降水量が多いのである。縣下に於ける之等の分布は等温線及び降水量圖が明かに之を示してゐる。

本縣降雨の凡ての原因が季節風によるものでない事は、極

大月が六月及び九月にある事によつて知られる。即ち六月は梅雨で氣壓性降雨、九月は季節風の交替期に於ける颱風性降雨である。

降雨と流量 周防灘諸川の流量が七月に極大を現はすのは六月梅雨後の爲めである。又日本海諸川の流量が三月に極大を示すのは、背後高冷地方に於ける冬季の雨雪が流下するからである。

三 氣候區

本縣は日本海及び瀬戸内海の兩斜面を有するけれども、以上述べた氣温及び降水量の配布から見ても全く表日本氣候の特色をもつてゐる。此の點世間の常識で山陰・山陽の兩特色を有するもの、如く考へ

るのは間違つてゐる。即ち凡ての氣象上から眺めた本縣

下は瀬戸内氣候區及び北九州氣候區に屬する。

周防部—瀬戸内氣候區 氣温はC一五度を標準とする

温和な地である。降水量は東海地方よりも著しく少く一

五〇〇耗程度であるが、瀬戸内氣候區中では最も多い。

夏季八月の有効降水量はやはり少い。降水量の極大は六



第19圖 氣候區
Em 瀬戸内氣候區
En 北九州氣候區

月、九月に第二の極大を示す。冬季は最もよく乾燥し、且晴天が多い。さるかはり霜は晴天に應じて多く、山間部は年一〇〇日に達する所がある。夏季は海軟風・陸軟風がよく發達する。しかし之が爲め永い夕風の蒸熱に苦しめられる。山間は夏季の朝霧が深い。

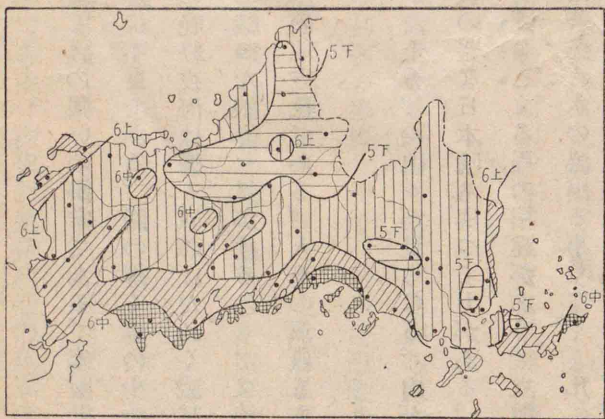
長門部—北九州氣候區 氣温はやはりC一五度を標準として温

暖であるが、最寒月と雖もC五度以上を示し周防部よりも温暖である。見島の如きはC七度以上で對島海流の影響を多分に受けてゐる。降水量は一五〇〇—二〇〇〇耗となり周防部よりも多い。

六月極大、九月に第二の極大を示す事は同じであるが、七月も引き續いて多い時は屢々梅雨禍の災ひを見る事がある。最深積雪は萩の一五糎である。霜日数は沿岸では少いけれども周防と共に山間部に稍々多い。

四 氣候の影響

縣下は概して恵まれた氣候のもとにあるけれども、尙内陸部は氣温の昇降が稍々苛烈で、田植の如き



第20圖 等田植線圖

も沿岸部に比べ三〇日も早い。植物帯から見ても内陸高冷地方は不連続的に榲帶に入り東山地方に似てゐる。氣候の影響としては次の事項を擧げる事が出来る。

日本海沿岸の體感不良 冬の日本海沿岸は天低く冷雨又は雪模様で風の強いのが常である。寒暖計は寧ろ内海方面よりも昇つてゐるに拘はらず、人の受ける體感は遙かに不良である。陽の輝く事の少い爲めに土は乾かず、常に人の出足を澁らせるものがある。特に時化の晩終夜海は鳴り風のためく感じは北陸や山陰の海岸と共通してゐる。外出するに襟巻をしマントを羽織つた娘姿を見かけるのも、又綿入の袖無を着たり、或は風に面する防風垣の見られるのも日本海沿岸の地方色である。人々の氣質も亦周防灘沿岸に比べて若干異なるものがある。

周防灘沿岸の夕風 周防灘沿岸はいつ見ても明るい氣候で、乾いた土禿げた山々が見られる。山が禿げるのは花崗岩のやうに地質や土性にもよるが、空氣が乾燥し蒸發の盛な日本晴も與つて力がある。冬は日本海岸に比べて必ずしも暖くはないが、日中戸窓を開けて日向ぼっこする程の相違がある。立派な庭園も容易にさびがつかぬ。迂りさうな庭石もなければ踏みつけた苔から水の泌出る事もなく、凡て乾いてゐて明るい。かうした環境の中に育つ人の氣質は朗かで快活である。

しかし周防灘沿岸にも缺點がある。暖いから蚊や蠅がいつ迄も跋扈する。腸チブスの豫防注射も年中行事である。特に夏の夕風の酷しさは格別で内海人士ならでは想像がつかない。日没と共にびたりと風がおちたら、夜半にならねば風らしい風はなく、煽風器も徒らに熱風を送るに過ぎない。瀬戸内海特有の油を流した様な夏の海に往きも戻りもせぬ眞帆・片帆の船影を眺めるのも此の時である。しかしさうした土用の暑さによつて晩植の米が立派に實る。結局日本海沿岸は冬が問題となるに反し、周防灘沿岸では夏が問題である。

梅雨禍 本縣は概して安定した氣候で、火災保險の掛金も全國中最低地の一つである。しかし豫期せぬものに梅雨禍がある。梅雨禍とは六月の梅雨がのびて七月も尙雨が多い事によつて、河川は氾濫し稲は分蘖せず、虫害・稻熱病等に襲はれて凶作の憂目を見るのみならず、「刈取十日」と稱せられる麥作の豊凶にも至大な關係があり、橋梁土木方面の被害も亦古來の統計に徴して此の期に最も多い事を指すのである。

地方風土病 全國乳幼児死亡率は千人中一〇七人であるが、本縣は千人中一〇〇人で若干良好である。又全國的趨勢である腦出血・肺炎・呼吸器結核・下痢等の死亡率は本縣に於ても同様に高率であるが、特に下痢及腸炎の死亡率は千人中七一人（全國は五五人）で頗る高率である。消化器系統疾病の高率は本縣と限らず山陽一般の風土病と見られるが、之が爲めか本縣には諸處に民間の斷食療養所が設けられ他

府縣人にも知られてゐる。

縣下では玖珂郡及下關市の死亡率が高い。下關は之を都市性と見られるが、玖珂郡は氣温の昇降苛烈な所で流行性感冒もこゝに最も多い。將來の研究が必要である。

第四章 産業

概観

本縣の生産總額は五・四億餘萬圓(昭和13年)に上る。之を一世帯當りに見れば二〇八五圓である。産業別では工業・農業・鑛業・水産業・林業・畜産業・蠶繭絲の順になる。特に工産額は生産總額の約六七%を占め、又農産は一七%、水産は六%に當る。三者は全國的に屈指の地位を占めるもので、本縣は明かに農工水産縣である。但鑛産額は水産額を凌駕するに至つた。

山口縣郡市別生産總額 (昭和13年 單位10萬圓)

郡市名	農産	蠶繭糸	畜産	林産	水産	工産	鑛業	計
下關市	13	-	4	-	151	476	-	646
宇部市	12	-	3	-	13	546	215	792
山口市	7	-	3	1	-	22	-	34
萩市	9	-	1	2	38	25	-	77
徳山市	3	-	-	-	-	478	1	484
防府市	26	-	1	-	10	272	-	311
大島郡	28	2	1	2	10	25	-	70
玖珂郡	89	5	9	19	4	531	5	664
熊毛郡	61	-	3	3	8	26	-	105
熊波郡	57	-	4	9	13	1075	1	1162
佐波郡	34	-	2	8	1	16	-	63
吉敷郡	104	9	4	7	7	43	6	178
厚狭郡	60	-	2	4	5	258	60	393
豊浦郡	76	-	4	9	15	22	-	129
美濃郡	37	-	2	12	-	47	48	148
美津郡	37	-	2	25	32	12	-	110
阿武郡	61	1	2	15	14	16	-	113
計	718	21	55	122	328	3897	343	5487

各郡市の生産總額は、都濃郡・宇部市・玖珂郡・下關市(以上五千萬圓以上)等が上位を占め、山口・大島・萩・美禰等が下位に在る。

一 農業・附養蠶

耕地—水田卓越 本縣の耕地は一〇・一萬町歩で、廣島縣の下位、三重縣の上位、全國の二三位にある。耕地は全面積の一七・五%に當り全國の平均以上にある。耕地の七七%は水田で七・八萬町歩ある。畑は周防に割合に多い。水田卓越縣としては全國屈指である。土性は山地丘陵間に發達せる埴土が最も多い。耕地の大な所は玖珂・豊浦・吉敷・阿武の四郡(以上一〇萬町歩)である。

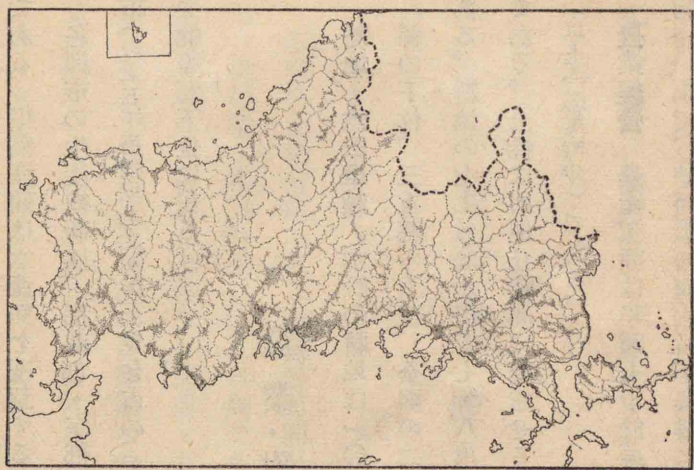
耕地と農産額 (昭和13.百町歩.萬圓)

郡市名	田	畑	計	農産總額
下關市	10	7	18	133
宇部市	8	3	12	121
山口市	7	0.8	8	72
萩市	6	6	12	91
徳山市	3	1	4	33
防府市	22	2	24	263
大島郡	20	21	42	288
玖珂郡	98	47	146	892
熊毛郡	65	25	90	614
熊波郡	66	19	85	578
佐波郡	41	7	48	346
吉敷郡	93	16	109	1010
厚狭郡	69	11	81	607
豊浦郡	95	15	110	768
美濃郡	50	11	62	377
美津郡	46	7	53	376
阿武郡	79	26	106	610
計	785	231	1017	7186

農業經營

農産價額は年額七千餘萬圓、全國第十九位を占めてゐる。縣下總戸數約二六萬中農家戸數約一一萬で、總戸數の四六%が農業に従事してゐる。故に縣民が如何に農業に依存し、農業が如何に縣下の基礎産業であるか之によつて知られる。一農家當平均耕地は九段歩となり、全國平均の一町九畝

歩に對し遜色がある。特に大島郡は五段未滿で著しく劣つてゐる。もと自作兼小作農が多かつたが近來

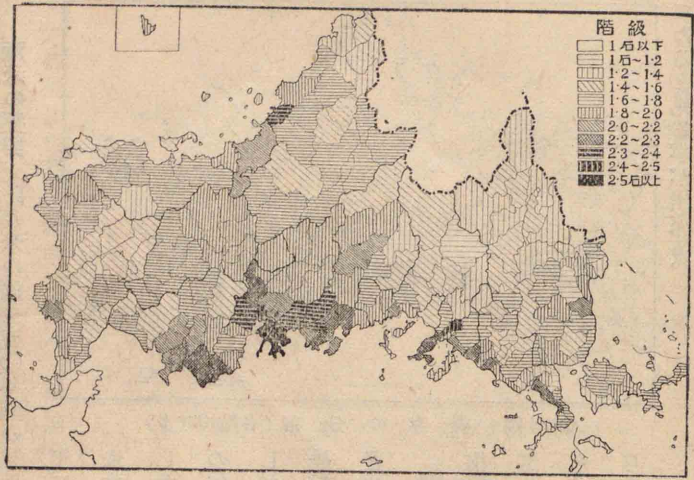


第21圖 米の分布(各點 200石)

は自作農が多くなつた。農作物の被害は從來旱害・風害・水害等が無いではないが、農業經營は全國的に見て安定してゐる。二毛作は到る所適さざる所なく牛馬耕共に行はれる。主要農作物は次の十余種を擧げる事が出来る。

米 米は農産價額の五分の三を占め古來防長米として有名である。縣下例年の産額は約一五〇萬石である。藩政時代は移出が多かつたが近年の移出高は年約三五萬石に過ぎない。而も一方では朝鮮米・臺灣米を年平均二〇萬石を移入するが常である。縣下産米の分布は小郡・防府・宇部・柳井・小月正明市等に分散してゐる。一般に河谷の開けた周防灘斜面の産額が多い。反當收穫高は海岸部に二・八石の所さへあるが高冷地の周防臺地では一・三石の所がある。縣下平均して例年二石である。品種は「光」が一般に多く、「農林六號」は

に高冷地の特色をもつ。周防臺地の一部では米の不足



第22圖 米の反當收穫

山間部及び中間部に、「旭一號」は海岸部に多い。何れも増收を目指す小粒種である

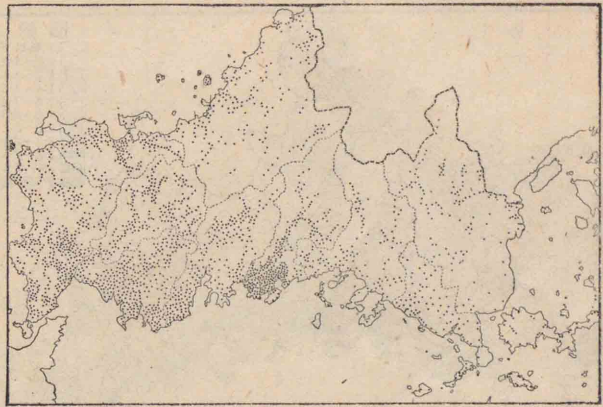
田植多は阿武山地の五月初旬を最初に、中間地六月上旬海岸部六月下旬である一般に山地部は東山又は山陰と共に

山口縣主要農産物附蠶繭(昭和13.單位萬圓)

郡市名	米	麥	大根	甘藷	蜜柑	葉草	煙草	馬鈴薯	蠶繭	楮	夏橙	茄子	柿	蒟蒻
下關市	65	7	14	3	—	—	4	—	—	—	—	3	—	—
宇部市	66	10	4	5	—	—	3	—	—	—	—	1	—	—
山口市	47	7	3	1	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—
萩市	44	6	9	1	—	—	—	—	—	—	22	—	1	—
徳山市	21	3	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
防府市	191	34	3	3	4	—	2	—	—	—	—	—	—	—
大島郡	140	30	4	11	55	6	3	7	15	1	—	—	—	—
玖珂郡	590	93	16	21	4	2	17	5	24	1	—	—	4	25
熊毛郡	448	48	10	14	6	9	5	3	12	—	—	1	1	—
濃郡	412	44	13	9	1	14	4	1	4	—	—	2	2	1
佐波郡	257	46	3	3	6	—	1	4	—	—	—	1	2	—
吉敷郡	712	32	17	11	1	28	4	1	—	—	—	3	2	—
厚狭郡	453	54	11	6	—	2	3	—	—	—	—	3	1	—
豊浦郡	561	88	14	8	1	—	4	1	—	—	—	3	5	—
美津郡	283	40	5	5	—	—	1	1	1	—	—	1	1	—
大阿武郡	286	48	3	3	—	—	1	1	—	—	1	1	1	—
阿武郡	452	47	8	10	—	1	2	8	—	—	8	1	2	—
計	5039	744	145	121	87	68	62	57	49	38	31	28	26	—

(麥は裸麥・小麥・大麥等の計)

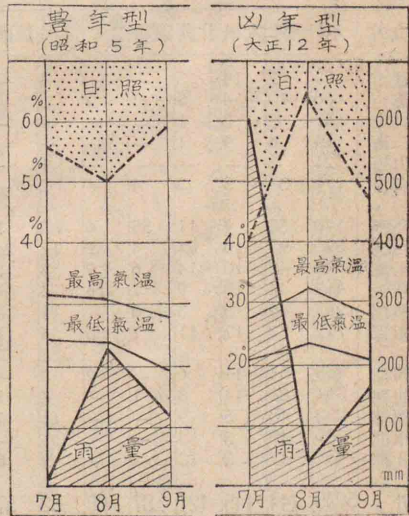
する所があるが、海岸部は暖地性晩稻の増進地帯である。
産米の豊凶 防長米の過去五〇年間の豊凶を見ると、昭和一四



第24圖 裸麦の分布(各點10町歩)

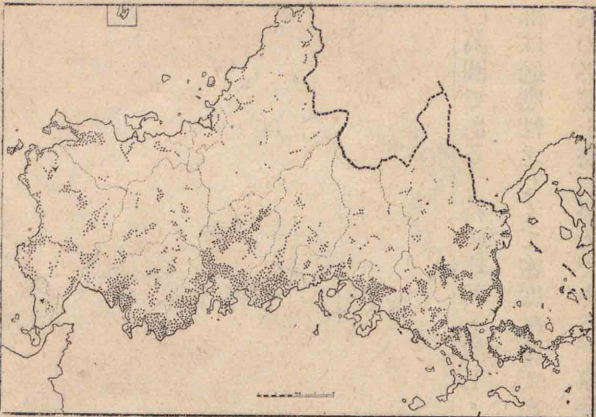
てみると見る事が出来る。

年に於ける六割減といふ未曾有の大旱魃がある。しかし之を除けば最凶作の年も三割減以上には達してゐないのみならず、最近大正十年以後はほとんど安定してゐたのである



第23圖 米作氣候の比較

過去の最豊作は昭和五年の七・八・九月の最高気温は他よりも高く、降水量は梅雨後の七月に少くして八月は却つて例年よりも多く、九月に於て減少してゐる。然るに明治三三年の最凶作年に於ては七月極めて低温で、降水量は梅雨後引續き多くて所謂梅雨禍を呈し、而も八月に入つては旱魃であつた。故に日照は八月に入つて恢復したけれども一方旱魃の爲め稻は回生し得ないまゝ、凶作に陥つ

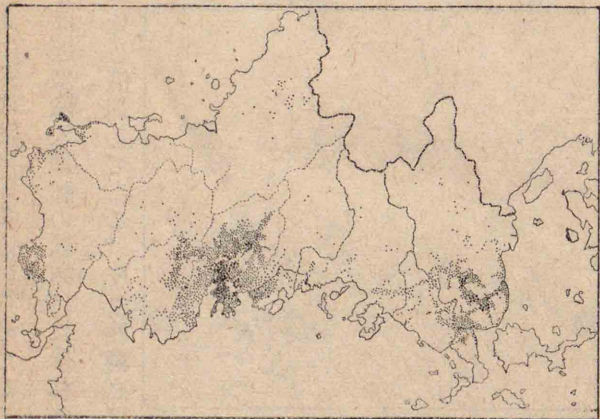


第25圖 小麦の分布(各點5町歩)

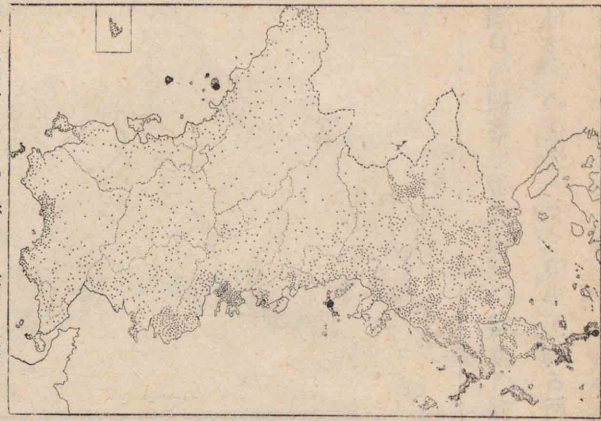
瀬戸内裸麦地帯の西部に當り、裸麦の産は全國第九位である。作付は稻の後作として田麦が到る所に見られ、北九州菜種地帯の東

之を要するに本縣のみならず瀬戸内海一帯は元來旱魃の傾向にあるけれども、昭和十四年の如き稀有の現象は恐らくは大週期の氣候異變と見られる。しかし之に次ぐ週期的凶作と思はれるものは所謂梅雨禍の現象である。勿論之以外に水害―風害―冷害等が無いではないが、之等は殆ど局地的のものである。梅雨禍はひとり縣下のみならず晩稻地域たる瀬戸内一帯に及ぶものと考へられるのである。

麦 麦は裸麦・小麦・大麦共に年産額約四〇萬石、(昭和)を産する。特に本縣は



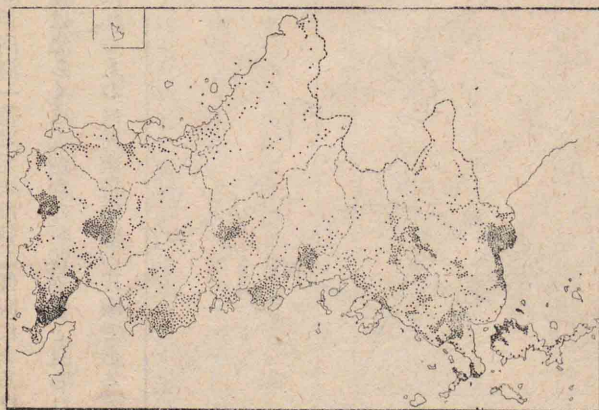
第26圖 大麦の分布(大點10町歩・小點2町歩)



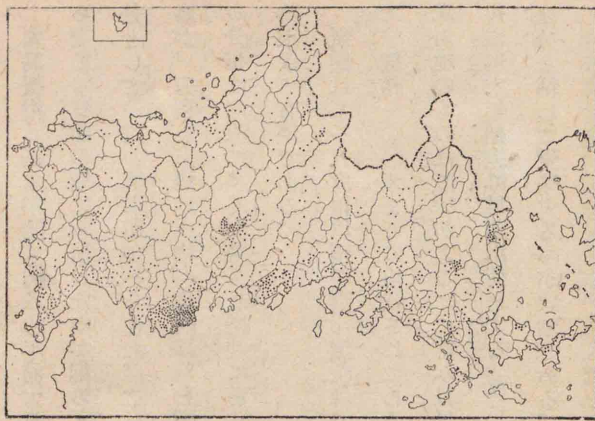
第27圖 甘藷の分布(大點5町歩・小點1町歩)

部としての菜種や紫雲英と共に春の野を赤黄緑に染めてゐる。産額は長門部に多い。小麦は近來輸入抑制の爲め特に農林省が奨励し、その作付は以前に比し倍加してゐる。反當收穫高は平均一・三石内外である。周防臺地阿武山地は其の産が少い。

甘藷・馬鈴薯 甘藷は沿岸部に於ける代用作物の一つである。縣下の産は一〇〇〇萬貫に近く價額も近時騰貴して約一二〇萬圓である。特に玖珂・熊毛・豊浦の三郡に多い。一般に山間部は適應性乏しくて密度稀薄であるが、大島郡や六島村の如きは其の必要上密度最大である。事變後は酒精原料として國策の見地

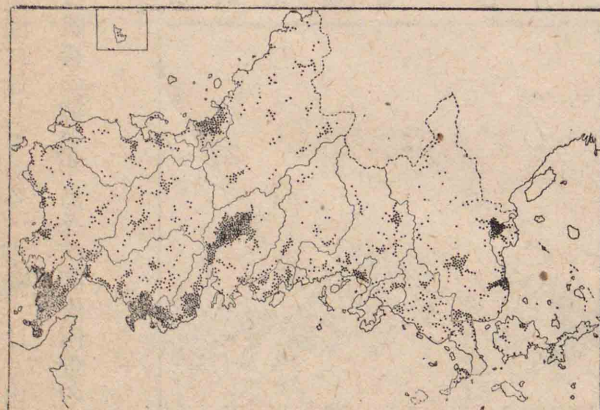


第28圖 馬鈴薯の分布(各點200圓)



第29圖 大根の分布(各點1000圓)

から奨励されてゐる。切芋は大島に若干行はれてゐる。馬鈴薯も又國策に沿ふて奨励され、周防灘沿岸及内陸盆地に多い。
大根・茄子 生大根は吉敷・玖珂・豊浦の三郡に特に多い。大根は縣下の沿岸工業都市の需要を充す上に、前記の米・麥・甘藷と共に四大作物(何れも一〇〇萬圓以上)の一つである。吉南地方の農家には澤庵漬の副業が諸處に見られる。茄子は夏の野菜を代表し、やはり都市附近



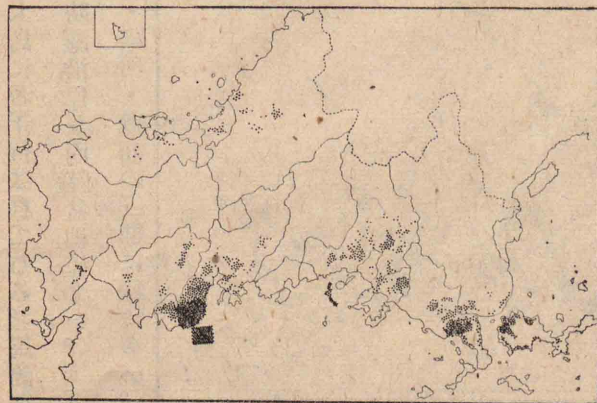
第30圖 茄子の分布(各點100圓)

に多い。
葉煙草 近年各地に栽培されるやうになつたが、吉南地方(次頁参照)はその中心である。種類は黄色種である。

蜜柑 蜜柑は果實類の首領を占め、産額二、三六萬貫(昭和一三)八七萬圓に達してゐる。市場へは「山口蜜柑」の商標が附せられるけれども、産額の六割は大島の産で、他は隣接の熊毛半島及び防府附近の如く局地的である。近年一般に増植される傾向にある。

大島蜜柑 嘉永年間(約八〇年前)日良居村の藤井彦右衛門が苗木を大阪から需めて日前の地に栽植したのが創めとされてゐる。明治三七年以後は特に郡是として一段の奨励が加へられた。之は既に人口に比し耕地の極めて乏しい大島が、有利な市場性作物の集約經營を選ぶに至つたものである。現在の蜜柑樹の分布は内海に多く樹勢も最盛期にあるが、外浦のものは尙未熟園であるから將來益々有望である。

氣候はC一五度線以南の沿岸温暖地で、多くは花崗岩丘陵を所謂段々畑として、標高一〇〇米までに栽植されてゐる。品質は花崗岩地特有の甘味(一部片麻岩地のは酸味がある)に富み且早熟であるから、市場へは宇和蜜柑等と共に年末年始迄に早期出荷をする。蓋し貯藏性に乏しいため、春になれば所謂死味と稱して變味するのが缺點である。

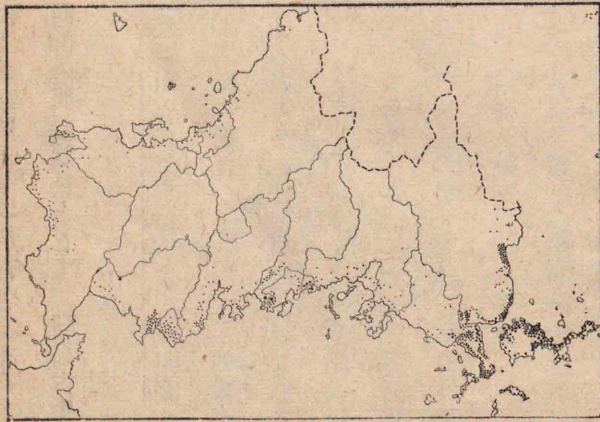


第31圖 葉煙草の分布(各點500担)

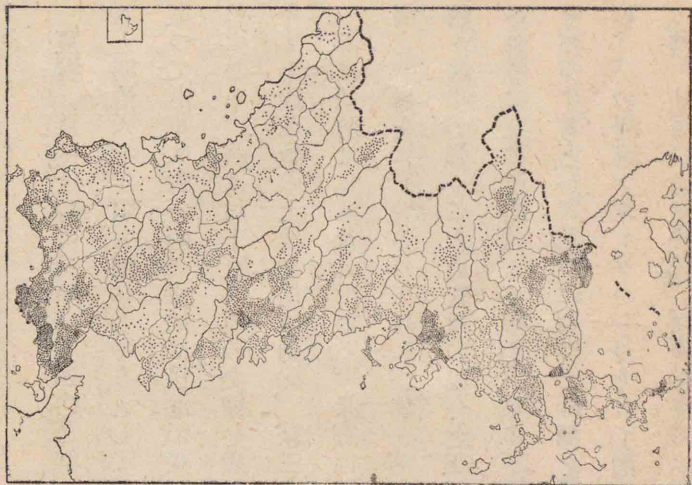
出荷先は現在広島・下關・釜山等が多く、將來は滿鮮支の第一線に立つ地の利を利用して大いに販路を擴張する必要がある。

夏橙 夏橙近時の産額は約四〇萬圓に達する。分布は萩を中心とする附近沿岸數箇村に互つてゐる。もと明治六七年頃食酸にしようとして栽植したのが動機となつた従つて沿革は古い、産額は後進の愛媛縣及び和歌山縣に凌駕されてゐる。萩は城下町共通の金儲を賤しみ徒食の風があつたが、今は土族屋敷の土地利用は勿論、萩三角洲の至る所に栽植され、一部は傾斜地にも及んでゐる。果實は越冬するから、冬の最低氣温と寒風とに影響されて時に寒害・落果等の被害がある。品質は稍々酸味が強くて大島蜜柑の場合と反對である。しかし貯藏に富み長期に互つて出荷する事が出来る。食べ方も重曹を加へて酸味を軽くするか、二つに切つて砂糖を用ひ匙で食べる事等を宣傳し、夏の清涼フルーツの一つとして漸次家庭に進出してゐる。

柿 柿は広島縣(全國第一)に隣接する玖珂郡に最も多い。縣下の年



第32圖 蜜柑の分布(大點1萬貫・小點1千貫)



第33圖 柿(生柿)の分布(各點50圓)

地半紙」「山代半紙」として盛に手漉が行はれたものであるが、

額二八萬圓である。澁柿には横野柿(郡豊浦)が有名である。

楮・三極 楮は石見山間部の西の延長として、同じ古生層

の周防臺地に卓越し、

玖珂郡には楮祖神社(チヨコ)

中内馬之丞)さへある。

三極は阿武山地に多く

焼畑式の小川村の産は

造幣局特約のものであ

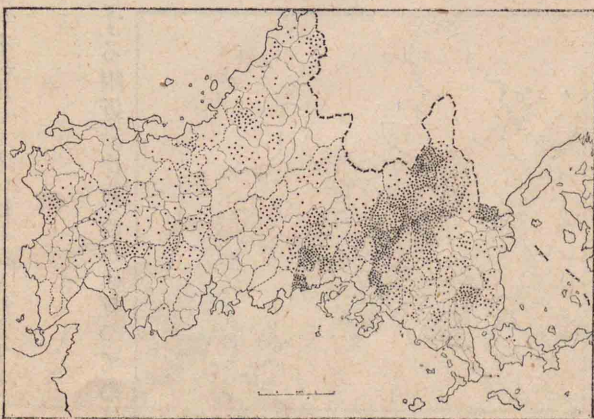
る。楮の産額は三極の

倍額を示し、併せて四

九萬圓である。製紙は

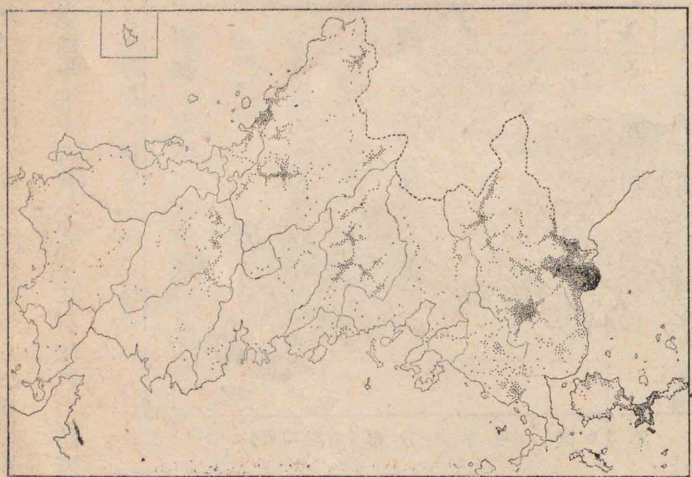
古來毛利藩の奨勵によ

り周防の山間部に「徳



第34圖 楮の分布(各點100圓)

今は岩國郊外に日本紙業薬防工場がある。



第35圖 蔘の分布(各點5圓)

蔘 蔘は楮・三極と共に山間部の農業經營上重要

なものである。玖珂郡は縣下二六萬圓の九割を産し、廣瀬・

深須等はその主産地である。蔘は山陽山間部の陰地に適

應し、周防臺地のもは正に備前・備後の西端産地と見られ

る。普通植えてから四年生のものを收穫するが、輪作を忌む

分から爾後十年間は休閑をする必要がある。用途は蔘にする

ばかりでなく、オブラート・フィルム・セルロイド代用品から

各種の粘着材となる等、近時益々その用途を擴大してゐる。

附・養蠶 本縣の桑畑は總畑の僅か一〇%、二一四町歩に

過ぎない。由來中國の養蠶は山陰に於ては可なり重要視しざ

れてゐるが、山陽は他に恵まれてゐる爲めか山陰程の依存性

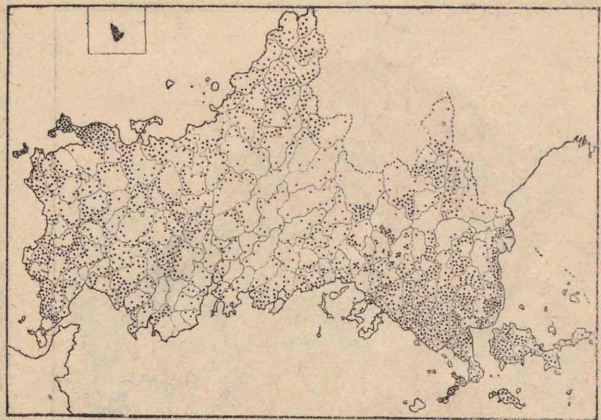
はない。而も本縣はその末梢部に當る。主産地は玖珂(岩國の

特に)・阿武の兩郡で、恰も東山地方の如く山間高冷地方の農

家副業として重要性をもつてゐる。もと普及してゐた大島郡の如きは桑畑を蜜柑園とする者が多い。製絲は小郡・久賀(下田)に行はれ、防府には蠶業試験所がある。

二 畜産

本縣の畜産總額は約五五〇萬圓で、うち中國地方特有の牛が主要な地位を占め、他は一般に不振である。縣下では周防臺地が凡ゆる畜産を網羅してゐる。



第36圖 生牛の分布(各點30頭)

牛 昭和十一年の牛の總頭數は六・六萬頭で全國の第八位、中國では廣島・岡山の兩縣に次ぐ。縣下では玖珂・豊浦阿武(特に六島)の三郡に多い。都濃牛は古來肥牛として

山口縣の畜産(昭和十三年×印十年)

郡市	×牛乳牛		×馬成鶏		蜜蜂
	百頭	頭	百頭	千羽	
下關市	3	168	3	16	13
宇部市	3	36	7	8	7
山口市	2	171	3	5	9
萩市	5	38	1	8	28
徳山市	1	29	1	8	5
防府市	-	45	-	18	3
大島郡	27	32	-	20	22
玖珂郡	117	99	11	60	149
毛郡	66	31	3	49	22
熊波郡	54	48	13	42	93
佐波郡	29	12	24	13	53
吉敷郡	24	78	45	48	74
厚狭郡	39	43	16	18	54
豊浦郡	92	45	7	42	71
美濃郡	46	57	9	12	36
大津郡	49	26	3	13	15
阿武郡	85	19	12	22	142
計	651	977	163	408	803

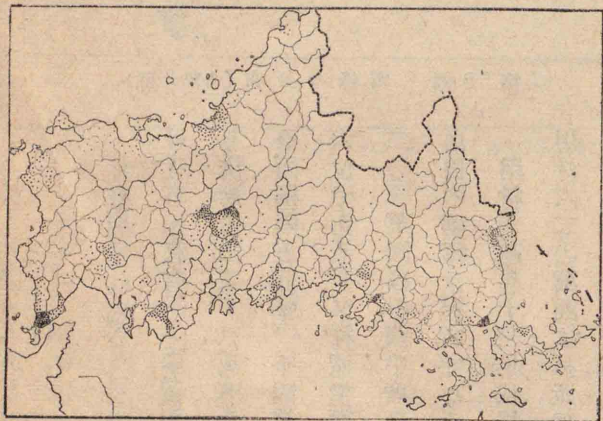
聞え阿武郡の無角牛は全國的に有名である。殆ど舍飼式であるが、周防臺地では放牧が見られる。

乳牛は下關市・玖珂郡・都濃郡・山口市(綾木村は牛乳を湯田へ出し、バターも作る)等に多い。之は都市附近の需要を充すものである。屠畜は牛の約四〇〇頭が主で玖珂郡(高森)及び宇部市のものが主である。

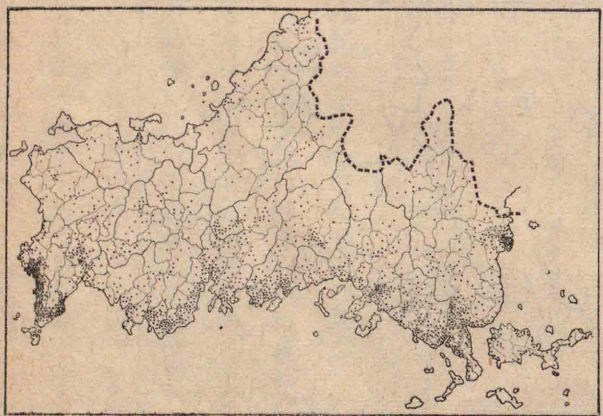
鶏 約四〇萬羽に達し豊

浦・玖珂の兩郡に多く市部では下關市・防府市に稍々多し。

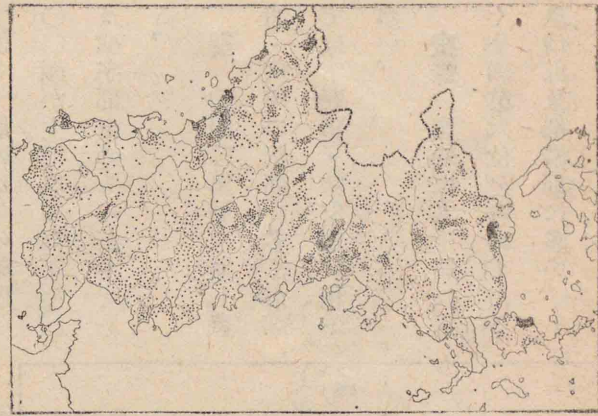
蜜蜂 蜜蜂は九千箱に近く全國第六位を占めてゐる玖珂郡及都濃郡に多い。



第37圖 乳牛の分布(各點1頭)



第38圖 鶏の分布(各點成鶏300羽)

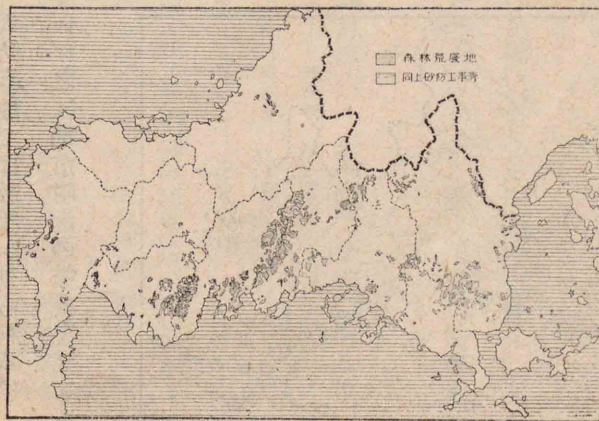


第39圖 蜜蜂の分布(各點3箱)

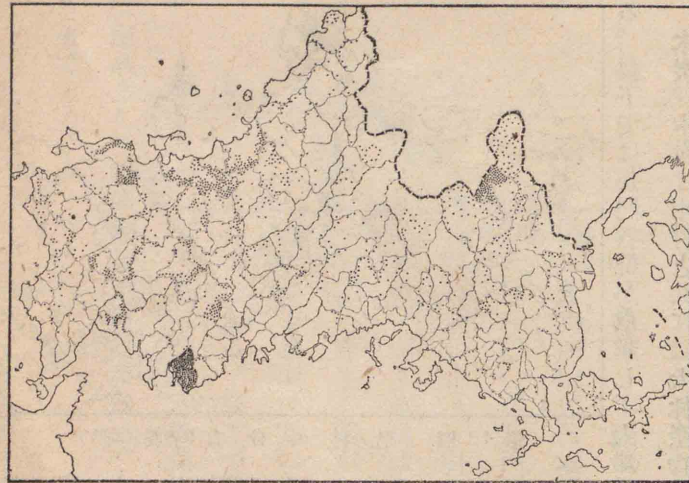
三 林 業

林野面積は國有・公有・社寺有・私有(二・五萬町歩)を併せて三三・三萬町歩で面積の五五%、全國第二位である。又林産價額一〇〇萬圓は中國中廣島・島根の兩縣に次いでゐる。

樹種は松の三八七萬圓、杉の二〇四萬圓が筆頭で、扁柏は二九萬圓、桐の三萬圓、栗の二萬圓等が主である。主産地は阿武郡・玖



第40圖 縣下の禿山



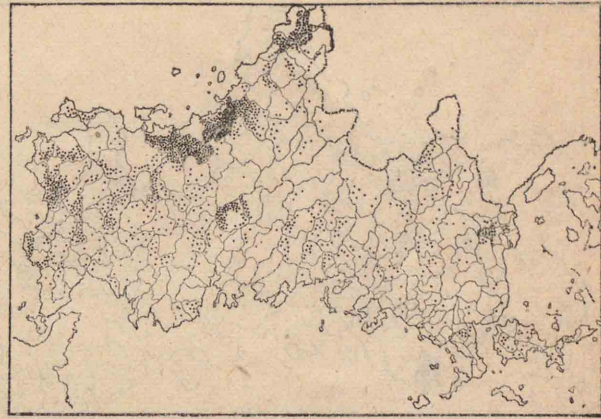
第41圖 用材の分布(各點1000圓)

珂郡・美禰郡等で、大島郡及び熊毛郡に最も少い。一般に沿岸部は林野が乏しい上に、花崗岩の禿山(惡地)は山陽特有の荒地となり、未だ砂防工事の届かないものが多い。縣下林業の中心は「錦川林業」の名に聞えた桑根村及び廣瀬村外數ヶ村である。元來森林は古生層の地に適する上降水量の多い周防臺地は之等の條件に叶つてゐる。もと明治二十年頃から造林されたもので、現在は杉の丸太を岩國川を利用して下し、岩國から廣島及び阪神地方へ搬出される。他の中心は阿武川下流川上村一圓の美林である。土質は同じ古生層

山口縣林産物(昭和13年)

郡 市	用材		竹材	木炭	松茸	筍	山葵
	高円	千円					
下關市	—	—	—	—	—	25	—
宇部市	—	—	—	—	—	1	—
山口市	—	—	—	—	—	1	—
萩市	15	9	5	—	—	4	—
徳山	—	—	—	—	—	—	—
防府	—	—	—	—	—	—	—
大島郡	11	3	1	2	2	—	—
玖波郡	84	7	31	138	96	120	—
美禰郡	16	4	2	19	7	—	—
熊毛郡	25	7	36	6	12	34	—
厚狭郡	31	5	29	21	6	9	—
吉敷郡	43	3	8	14	10	—	—
厚狭郡	25	10	10	3	22	—	—
狭浦郡	30	22	38	3	20	—	—
美禰郡	57	17	32	2	7	—	—
大津郡	197	29	29	—	6	—	—
阿武郡	77	32	45	—	4	—	—
計	620	174	275	219	232	177	—

(用材は針葉・闊葉樹の計)

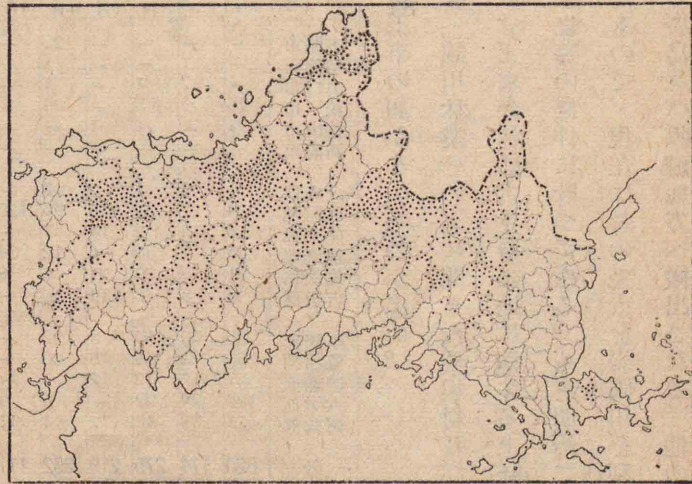


第43圖 竹材の分布(各點100點)

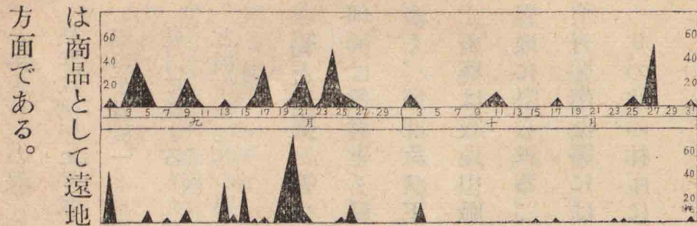
地帯で 日清戦後造林され、錦川と同じやうに阿武川に後流し、萩市場から滿・鮮へ送られる。又官營には周防に滑山官林、長門に鷹ノ羽官林(天井岳)がある。

竹材 竹材は年額三〇萬束、一七萬圓であるが、之が各府縣第一位を占めるもので、例年福岡縣と伯仲してゐる。縣下では長門各郡が卓越し、大津郡の産が最も多い。

木炭 木炭は用材と共に二大林産物である。年額約二〇〇萬圓で阿武山地と周防臺地とが最も優れ、山間部農家の副業



第42圖 木炭の分布(各點1000圓)



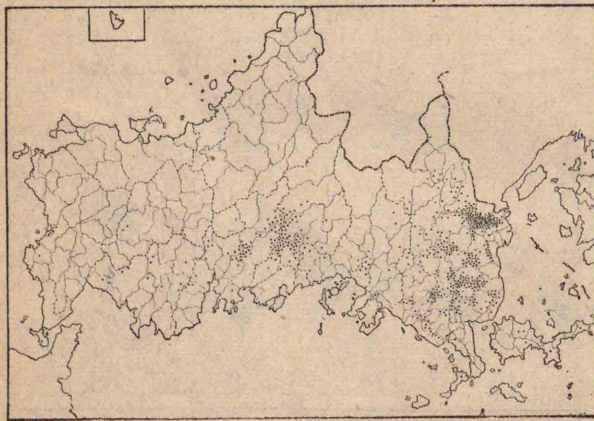
第44圖 松茸と九・十月の降水量 (上)豊年型(昭和9年)・(下)準豊年型(昭和2年)

として重要な位置を占めてゐる。品質は既に定評があつて朝鮮・内地各府縣に移出されるもの約七〇〇萬貫に達する。

松茸 本縣は岐阜縣以西山口縣に至る松茸主産地の西端に當つてゐる。例年の産額は一〇〇萬斤内外で、昭和十三年には二二萬圓に上り、林野副産物の王座を占めてゐる。而も産地は山陽獨特の花崗岩禿山地帯に一致する觀がある。かゝる疎林地は弱酸性土壌で松茸の繁殖が之に適してゐるからである。縣下では玖珂郡の産が傑出し、柳井・岩國・高森は其の集散地である。松茸は商品として遠地輸送が困難な爲め、出荷先は主に下關及び九州方面である。

松茸の豊凶

松茸は其の發生期に於ける降雨の如何によつて甚だしく豊



第45圖 松茸の分布(各點500圓)

凶がある。昭和九年の如き九月十月に於て四〇〇耗以上の降雨があつた爲めか未曾有の豊作であつたが、昭和五年の如き同様僅か八耗に過ぎずして松茸は例年に半減してゐる。しかし單に雨が多いだけでなく、俗に「五日雨に十日風」と稱せられて、周期的の降雨と風の強い事とが必要とされる統計に徴するも九月に於ける烈風・強風の多いほど豊作である。故に松茸と稲作とは其の要求する氣候が全く相反してゐる。

筍と山葵 筍は都市近郊に多く、山葵は山間僻地に適する。玖珂郡は兩者とも縣下第一である。筍は岩國市近郊の數ヶ村に最も多く、宇部及び下關附近が之に次ぐ。

山葵は寂地山脈の谷頭水源地域に産し、清冽な流水をもつ火成岩地に限られる。深谷川上流や鹿野村等がそれで、宇佐郷・小山須万・南桑等には山葵市が立つ。産額は約一七萬圓で中國としては島根縣の産に匹敵してゐる。其の他の林産に樟腦・五倍子等の特産が若干ある。

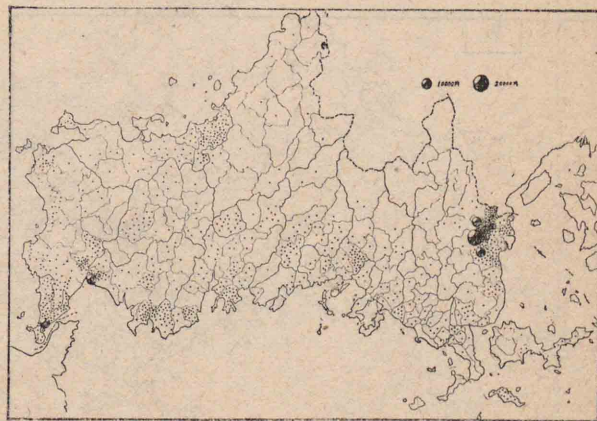
四 水 産 業

全國第四位 縣下の水産額は工・農・鑛産に次ぎ、年額三二〇〇萬圓を超へ、正に北海道・長崎・静岡に次ぐ全國第四位を占め、且中國五縣の水産總額の半ばに當つてゐる。特に本縣水産業の誇りは沿岸漁獲高よりも遠洋漁獲高が遙かに多い事である。遠洋漁獲高は一六七八餘萬圓で北海道に次ぐ全國第二位である。

内・外漁場 縣下の漁場を外海と内海の二大別にすると外海の水産額は内海の三倍半で、うち沿岸漁獲は約一倍半遠洋漁獲は正に十六倍に當つてゐる。又水産製造も八倍に當るが、水産養殖のみが劣つてゐる。特に下關は水産總額の半ばに近く、又遠洋漁獲の九〇%を占めてゐる。故に外海の優れてゐる事は、玄海から朝鮮・黄海等に互る廣大な漁場を控へてゐるのみならず、獨り本縣のみならず他府縣の漁獲物も下關へ陸揚げされるからである。

山口縣水産狀況(昭和13年、萬圓)

郡市名	漁撈者 (千人)	水産 總額	沿岸 漁獲	遠洋 漁獲	水産 養殖	水産 製造
外海						
下關市	48	1512	38	1294	-	179
豊浦郡	27	159	71	59	2	24
津和野市	20	322	225	5	-	91
大森市	7	386	116	221	-	48
阿武郡	20	141	110	7	-	23
合計	122	2520	560	1586	2	365
内海						
島郡	17	103	65	-	-	37
玖珂郡	4	44	21	-	7	16
毛郡	25	87	52	4	-	30
熊野郡	11	137	61	49	-	26
徳山市	-	2	1	-	-	-
佐波市	1	12	7	-	1	4
防府市	4	103	33	35	-	33
敷郡	3	77	65	-	8	3
吉敷郡	-	1	-	-	-	-
山口市	4	58	38	-	8	11
厚狭市	2	136	79	-	2	54
宇部市	-	-	-	-	-	-
美濃郡	71	760	422	88	26	214
山口縣	200	3288	990	1678	32	579



第46圖 筍の分布(各點100圓)

沿岸漁獲

昭和十三年の沿岸漁獲高は九九〇萬圓で、うち内海四二二萬圓、外海五六〇萬圓である。主要魚類・動物は次の十種を擧げる事が出来る。うち鯛・鰯・鰯はその主位を占むるものである。

鯛・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯

内海の主要漁獲物は鯛・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯等である。特に大島郡は鯛・鰯に優れてゐる。各魚族のうち鰯・鰯・鰯・鰯は内海特有の定着性魚族で、其の漁獲高は外海よりも遙かに多い。鰯は諸處に養殖場があつて宇部市は其の中心である。又鰯は吉敷郡・鮭は大島郡平郡に最も多い。

外海の主要漁獲物は鯛・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯・鰯等である。特に鰯・鰯・鰯の如きは外海特有の回游性魚族で、其の漁獲高は内海に比して絶對に多い。又鯛と鰯とは内海にも少くないが、外海の産は更に多く、實に本縣魚族の王座を占めてゐる。殊に大津郡一帯に於ける冬の大羽鰯

の豊漁は有名である。又鰯は豊浦郡に、烏賊・鰯は大津郡に鰯は阿武・大津兩郡に最も多い。

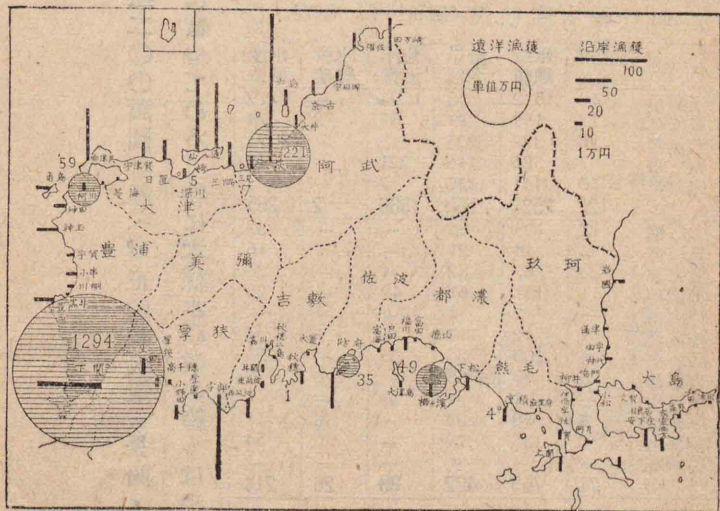
遠洋漁獲

昭和十三年の遠洋漁獲高は一六七八萬圓で、外海一五六萬圓、内海八八萬圓である。故に遠洋漁獲は遙かに沿岸漁獲を凌駕するところに本縣水産業の面目がある。元來遠洋漁業とは五噸以上の漁船によるものを云ひ、現在の動力船は〇〇〇隻、無動力船二六隻(内海のみ)、乗組員七五八八餘人である。又漁場は内地沖合が漁獲の九〇%を占め、他の一〇%が朝鮮・關東州・青島・臺灣の諸方面で漁獲され、勘察加へは出動してゐない。

外海の遠洋漁業こそ本縣水産業の花形で、動力船六六九隻・乗組員七〇〇〇餘人が之に従事してゐる。出漁者は下關市を初め萩市・小串町・向津具村・神玉村・三見村等の二市一町三村に互つてゐる。漁獲物は鯛と鰯(何れも百萬圓以上)とが最も多く、鰯・鰯・鰯が之に次ぐ。

山口縣主要沿岸漁獲物(昭和十三年・單位千圓)

郡市名	鯛	鰯	鰯	鰯	いか	鰯	鰯	鰯	鰯	かいらい	その他
外海	81	35	7	32	47	11	—	5	32	8	9
下關市	44	78	128	15	39	43	10	1	15	27	10
下豊浦郡	323	299	223	8	176	101	189	—	17	94	24
大萩市	320	102	168	10	28	200	60	—	5	42	90
阿武郡	90	144	219	—	82	109	108	—	7	23	9
外海計	878	658	745	65	372	464	367	6	76	194	142
内海	250	237	—	3	12	5	—	2	34	12	12
大島郡	42	17	—	3	7	2	—	15	22	4	10
玖珂郡	122	110	7	10	10	1	—	30	33	13	17
熊毛郡	61	267	4	20	17	4	—	19	30	6	21
徳山市	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—	—
佐波郡	4	—	—	10	2	6	—	8	1	—	6
防府市	37	7	7	44	12	9	—	6	14	10	17
吉敷郡	61	4	—	51	15	—	—	96	32	7	18
山口市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山厚郡	13	—	—	94	28	—	—	18	16	—	5
宇部市	50	—	—	195	8	—	—	45	15	1	17
美祿郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
内海計	640	644	18	430	111	27	—	250	196	53	123
山口縣	1503	1307	766	501	491	497	361	262	279	254	270



第47圖 市町村別漁獲高

内海の遠洋漁業は動力船五二隻、無動力船二六隻、乗組員五四六人の小規模なもので、殆ど内地沖合で行はれる。唯防府市・櫛ヶ濱町・室積町・秋穂村の一市三町村が朝鮮及び青島方面へ出漁してゐる。内海の漁獲物は鯛が最も多

下關漁港 下關は漁港として世界一と稱せられる。市の漁撈者は四八〇〇餘人、水産總額一五〇〇萬圓である。うち沿岸漁獲高は僅かに三八萬圓で、遠洋漁獲高は一三〇〇萬圓に達する。特に近來は南極捕鯨及び南米・南洋へも進出してゐる。

水産製造 水産製造高は五七九萬圓で全國第八位、長崎及び静岡縣と伯仲してゐる。製造高も亦内海よりも外海に多い。主なる製造物は蒲鉾類（二五〇萬圓）、

鰻の各種製造物（一四七萬圓）、鯖鹽藏物・乾海苔・鰯素乾・鰻煮乾・雲丹等である。うち蒲鉾は下關

- 一、蒲鉾・竹輪 二五二萬圓 下關・宇部・防府・萩・大津
- 二、鰻各種製造物 一四七萬圓 大島・都濃・大津・熊毛
- 鰻煮乾 一〇四萬圓

- 鰻 粕 一八萬圓 大津・阿武・萩
- 鰻 鹽 乾 一四萬圓 大津・玖珂
- 鰻 鹽 藏 八萬圓 下關・萩
- 鰻 油 三萬圓 阿武・大津
- 三、鯖鹽藏 二四萬圓 下關・阿武
- 四、乾海苔 二二萬圓 厚狹・宇部・豊浦
- 五、鰻煮乾 二〇萬圓 大津・阿武
- 六、鰻煮乾 一九萬圓 宇部・防府・熊毛
- 七、雲丹 八萬圓 下關・豊浦

萩・仙崎等に盛に作られ全國屈指の産に上る。原料は多肉魚の鱧が多く用ひられる。鹽鱧は支那、鹽鯖は米國へ向けられ、乾鰻は皮を除き食料及び調味料として鮮滿支に販出され、雲丹は下關名物の河豚と共に有名である。内海に優れたものは流石に鰻煮乾と乾海苔だけである。

水産養殖 水産養殖は僅かに三二萬圓で、甚だ不振である。特に外海方面に振はないのは鮮魚に恵まれてゐる爲めでもある。紫菜の一二萬圓は厚狹郡に多く豊浦郡が之に次ぐ。鰻の一萬餘圓は主に玖珂郡に行はれる。

山口縣主要遠洋漁獲物（昭和13年・千圓）

郡市名	鯛	鯖	鰻	鮪	鰻
外海	2390	331	573	-	-
下關市	39	49	13	4	-
豊浦郡	25	9	1	-	10
大萩市	803	820	210	120	88
阿武郡	21	5	8	-	10
計	3278	1216	805	124	108
内海	-	-	-	-	-
大島郡	-	-	-	-	-
玖珂郡	2	-	-	-	-
熊毛郡	22	-	-	-	-
都濃市	-	-	-	-	-
徳佐市	-	-	-	-	-
波佐市	80	-	14	17	-
防府市	5	-	-	-	-
吉敷郡	-	-	-	-	-
厚狭市	-	-	-	-	-
宇部市	-	-	-	-	-
美禰郡	87	-	14	17	-
計	3366	1216	822	141	109

製鹽 製鹽だけは内海周防灘に於て獨占してゐる。古來藩は「防長三白」(米・紙・鹽)の政策によつて諸國へ積出したが、三田尻は之がため鹽の代名詞となつた程である。縣下の鹽田は七五八ヘクタール、三四箇所 七六〇〇萬斤、賠償金三五六萬圓で、全國では香川縣に次ぐ第二位 岡山・廣島兩縣を凌駕してゐる。縣下では防府市を初め吉敷小郡灣熊毛(柳井)兩郡に多い。

製 鹽 (昭和13年)

郡 市	場所	ヘクタール	萬斤	萬圓
下關市	24	54	506	27
防府市	132	258	2234	126
大島郡	1	44	432	23
玖珂郡	11	24	207	2
熊毛郡	41	98	732	40
都濃郡	27	82	729	38
佐波郡	33	65	633	25
吉敷郡	65	129	1128	62
計	334	758	6605	356

(金額は賠償金)

然るに一方專賣局は防府市向島及び下松に製鹽工場を設け、關東州青島・臺灣等の粗製鹽を輸入して真空蒸發法によつて盛に再製してゐる。其の産鹽高は縣下の製鹽高を稍々凌駕してゐる。内地の收納鹽は吠の表面に①②③④のマーク、再製鹽は同じく⑤⑥の商標を附して等級を區別してゐる。

中關鹽田 今の防府市内最大の鹽田は中關にあつて、三田尻地内は少い。もと慶長二年毛利藩によつて創められ、爾來藩の重要な財源であつた。現在は蛸蜒三〇〇町歩、古濱・鶴濱・大濱一ノ榭・同二、三、四ノ榭に亘つてゐる。鹽田は所謂入濱法で海水を入れてから約三日すると鹽がつく。旗が揚ると濱子は一齊に出動してそれを沼井(ヌイ)へ寄せ、潮水をかけて溶かす。溶けた潮水は導管を流れてタンクに集り、之を煎熬するのである。鹽がよく砂につく(結晶)と

否とは天氣の如何にもよるが、庄屋の手腕にもよる。庄屋の下を上脇といふ。濱子は炎天下の激しい労働で胃腸病に罹り易い。

五 工業・附發電

長足の發展 本縣の縣勢を一變せしめたものは最近長足の發展を遂げつゝある工業の爲めである、工業總額は三億八九〇〇餘萬圓(昭和)で、之を第一次歐洲大戰前の大正三年一六〇〇萬圓に比較すれば正に二四倍餘の増加である。今や職工五人以上の工場約〇〇〇〇、之に働く職工及び労働者數も少くないもと藩の奨勵に依るものに綿織物・麻蚊帳及び和紙等があつたが、明治三十七年徳山に煉炭所が出来、又小野田にはセメント工業が起つた。爾來歐洲大戰を契機として造船工業を初め各種の工業が勃興して今日に及んでゐる。

工業廊下 元來本縣は瀬戸内海の門戸に位して、對外的に原料製品共に吞吐し易く、動力の石炭及び電力の供給も圓滑である上に内海沿岸至る所海運に恵まれ、且豊富な用水を有してゐるが爲め、工業の地方誘致の波に乗り、遂に今日の大をなすに至つた。工業地區は岩國―柳井間 徳山―下松間、防府―宇部―小野田間、下關の五區となり、最近益々工業を充實して内海沿岸至る所連續的に工業廊下の觀

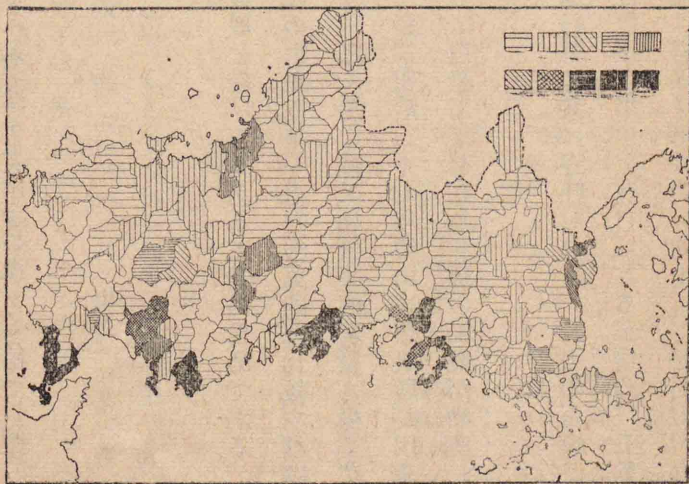
を呈するに至つた。

特色ある工産物 縣下の主要工産物は工業藥品・人造絹絲・鑛物油・鐵板・肥料・セメント・清酒・造船・和紙・漁網・菓子・醬油・綿織物・木製品等に互つてゐるが、今や非常時局に際し數量又は其の所在を明示する事を避けなければならぬ。

工業藥品 徳山市内外及び小野田町・彦島を中心として苛性曹達を製す。原料を國外に仰ぐけれども、製品を盛に輸出してゐる。

人造絹糸 岩國(帝國人絹)防府市(福島人絹・鐘紡)に人造絹糸・ステープルファイバーを産す。岩國川と佐波川とは何れも良質の工業用水を供給し、新港と三田尻港とはその原料製品を吞吐してゐる。

セメント 福岡縣に次ぐ我が國第二位の産額を擧げ、宇部市及び小野田町に産する。後者は實に明治十三年笠井順八氏の創業にかゝる我が國最初の歴史を有してゐる。盛に外國へ輸出される。



第48圖 縣下の工業地帯(職工數に依る)

清酒 年額一〇〇餘萬圓、山陽醸造地帯の西端をなすもので、防府市・柳井町・徳山市をもつて本縣三大醸造地とする。酒造に熊毛杜氏の名がある。

和紙 年額四五〇萬圓で、中國五縣中では第一である。もと藩の貢租の一として重要視されたが、尙山間地の手漉を主とし、古來徳地半紙・山代半紙の名がある。機械工場は岩國郊外に日本紙業藝防工場がある。縣下和紙の九五%が此の工場で生産される。

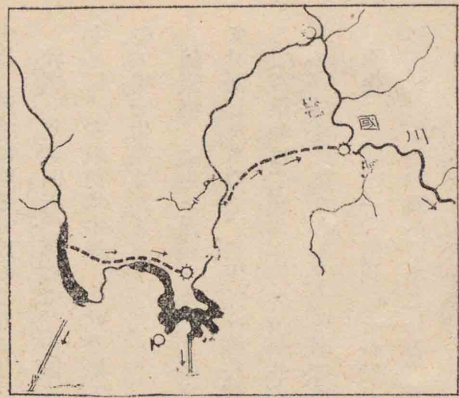
綿織物 岡山・愛媛・福岡・廣島の隣接縣には及ばないが、年額一八八萬圓を産す。もと藩主が綿布着用を藩是として奨励したもので、岩國縮・柳井縮・小倉織等から現在擬麻布・代用麻織・洋服心地等が時代の波に乗つて發達してゐる。機業地は岩國から柳井・平生の周東地方から大島郡(久賀)へ互つてゐる。代表的工場は明治六年の創立にかゝる岩國町の義濟堂である。大島郡には今尙多くの手織機がある。擬麻布は朝鮮へ盛に移出される。

漁網 年額四一〇萬圓、その殆ど全部が下關の日本漁網船具會社の産で、製氷と共に流石に水産王國を反映してゐる製品は内外各方面へ販出される。

特産品 其の他縣下の特産品として誇つてゐるものに次の數種がある。萩燒は文祿年間高麗から歸化した陶工によつて創められ、萩及び深川等の手工品として専ら茶器に名を得てゐるが、産額は五萬圓程度である。大内塗は山口市の産でお盆類に特技を有し年額五萬圓。赤間關硯は最も古い歴史を有する。現在厚狹町郊外萬倉村から船木町にかけて輝緑凝灰岩を採掘加工し主に下關で販賣される。年額五萬圓。蚊帳は岩國郊外藤河村字關戸に産し、古來九州諸侯が參覲道中の買上用品として關戸蚊帳の名が宣傳されたものである。現在年額三萬圓。船木櫛は三韓征伐の時神功皇后に三枚の櫛を奉獻したといふ由緒をもち、櫛材又は竹材を用ひて三つ櫛(荒櫛・中櫛・梳櫛)を産する。年額四萬圓程度である。

木製玩具 山口に大内人形、萩に小萩人形がある。年額四萬圓。マーマレードは萩の夏蜜柑を原料とせるもの、年額一九萬圓である。

附・發電 逐年躍進する工業に必要なものは電力である。縣は大正十三年から民間電力會社を逐次買収して縣營となし、以て電力需供の統制を圓滑にする事とした。現在發電所は水力〇箇所、火力〇箇所



第49圖 岩國川流域の發電所

で、其の常時出力は五萬キロワットで更に特殊出力一・一萬キロワットである。うち水力發電力は僅かに七〇〇キロワット(昭和十年)で到底縣下の需要を充し得ないが、幸ひに宇部炭を使用する火力電氣によつて之を補ふ事が出来る。現に宇部第二火力電氣の二萬キロワットの如きは他に例のない低廉な發電原價である。電力を最も大口に需要してゐる工業は化學工業である。

營第一發電所は大正十三年岩國川曲流部に設けられ電力最大出力四

電力		水力		縣下の(昭和十年)	
		常時出力		K.W	
水	力	川第一	1650	小瀬川	1200
		武第二	2400	同阿大	1200
		同武第一	300	同大井	200
		同武第二	200		
		同武第一	200		
		6950			
火	力	宇部第一	2000	田山	1000
		同前	1000	庄島	15
		同下	15	伊保	15
		同德	15	伊見	15
		3,3315			

〇〇〇KWを得てゐる。その他同じ岩國川の第二發電所の外、阿武川及び小瀬川にも水力發電所を加へてゐるが何れも規模が小さい。こゝに於て昭和十三年以來岩國川第一曲流部にダム式發電工事を施行中で、之を縣下工業地帯に供給しやうとしてゐる。又厚東川上流にも計畫中である。

六 鑛 業

本縣の鑛産總額は三〇〇〇餘萬圓(昭和一二)に近く、農・工産額に次ぎ、石炭が其の大部分を占めてゐる。宇部炭 縣下の石炭は鑛産額の六〇%を占め、其の大部分が宇部炭田の産である。宇部はもと毛利藩の家臣福原氏の采邑で、延寶年間に石炭を發見し、それが製鹽煎熬用となつて、釣瓶式採炭をなし、文化文政の頃は捲上装置を考案して一層盛になつた。然るに炭層は陸上に其の一端を露出するも、次第に南方(海面)へ傾斜してゐる爲め、今日では海底六〇〇尺の下で採炭を續けてゐる。炭層は主なるもの十層、うち大派炭の如きは五尺五寸の厚層である。炭坑は沖山、東見初・本山・大浦等である。炭質は揮發分に富み、よく燃焼して家庭用に適するが、動力用としては熱度が稍々低い。新川港には之等の石炭を搬出する帆船が蟻集し、その大部は大阪安治川口へ向ふ。

宇部以外には大嶺に中世層の無烟炭が出る。産額は宇部の一〇%、山陽大嶺の炭坑がある。

其の他 本縣は金屬礦物に乏しいが、青野山から南下して四熊岳に至る火山地域は若干の諸礦物を埋藏してゐる。

花崗岩 石材として年額四一萬圓。徳山沖の大津島・黒髪島及び秋穂町の岬角島嶼は海運の便を得て斯業の中心である。

大理石 秋芳洞附近を主産地とし、其の色澤の美麗なる事は伊太利産に劣らない。産額は近年激増して年額四四萬圓、全國第一位である。建築・裝飾・配電盤・石版等の外、種々の日用品として需要される。

砂利 年額三八萬圓、下關市及び大津郡に多い。

陶土・粘土 年額一七萬圓で、宇部市及び厚狹郡の陶器に使用される。

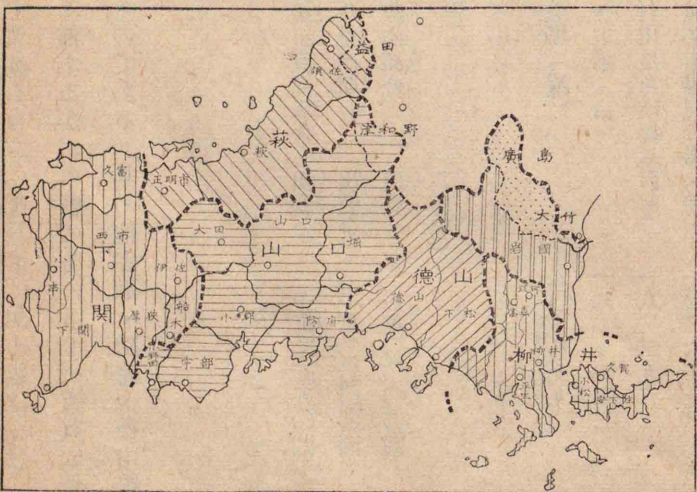
七 商 業

商圈 商圈は商店・會社・銀行・産業組合等の勢力が、その位置及び地形によつて各々異なる範圍を劃したものを云ふのである。縣下の商圈は周東及び大島地方が廣島商圈に屬し、岩國・柳井の二つの地

方中心がある。又中央部では山口・宇部・防府・徳山の各地方商圈が各々其の後背地を争つてゐる。又西部では下關の商圈が關門一帯に勢力を有し、北部には萩の小商圈がある。

商業及び金融會社數は、商業會社最も多く、次で工業會社・運輸會社が多い。下關には〇〇〇の諸會社があつて縣下の三〇%を占め、玖珂郡(柳井)・防府市・山口市が之に次ぐ、産業組合は玖珂郡・都濃郡の資金が大であるが、何れも剩餘金は少い。銀行預金及び貸付の〇〇%は下關市、九%は宇部市が占め、他は至つて少い。郵便貯金は下關市・玖珂郡・宇部市に多い。蓋一人當預入額は移民の送金による大島郡である。郵便爲替は内國外國とも下關に最も多く、玖珂郡・宇部市が之に次ぐ。振替貯金も亦下關玖珂郡に多く、山口は學生の多い爲め其の拂出が少くない。以上によつて下關は本縣第一の商勢力をもち、玖珂郡は柳井・岩國に實力があり、中央部では宇部市・防府市を推すことが出来る。蓋し商工會議所は下關・宇部・山口にある。

商業組合及市場 商業組合及び市場(魚市場・青物市場)の



第50圖 縣下の商圈

大小は其の地の商業勢力を反映するものと見られる。縣下の商業組合は二〇を算し、魚市場は一〇〇餘青果市場一一〇餘に達してゐる。市場の經營は自營と請負の二種あるが、自營のもの多く、賣買は皆糶賣である。左表下關の魚市場及青物市場の如きは全國有数のものである。其の他宇部・防府・徳山等が重要な地位を占めてゐる。

商業組合（昭和十年）

下關唐戸青果乾物商組合	出資金	五萬七〇〇〇圓	下關新炭小賣商組合	出資金	一萬〇五五〇圓
宇部市穀物商組合	出資金	五萬〇〇〇〇圓	防府市牛乳商組合	出資金	一萬〇〇〇〇圓
下關鱒・鮭卸商組合	出資金	一萬六〇五〇圓	徳山米穀商組合	出資金	一萬〇〇〇〇圓
下關穀物肥料卸商組合	出資金	一萬二〇〇〇圓			

（以下略）

魚市場（昭和十年）

下關市中央魚市場（自）	八四一、九〇八二	通村魚市場（請）	二〇、八九九〇
萩市三魚市場（請）	一〇〇、九九二三	徳山市魚市場（自）	一八、九四四二
仙崎漁業組合共同販賣所（自）	六四、一〇八一	向津具村川尻魚市場（自）	一八、二九五二
防府市三魚市場（自）	三七、〇八四〇	下關市魚菜市場同分場（請）	一七、六三一六
宇部市新川魚市場（請）	三〇、一五四〇	山口市魚市場（請）	一六、五二〇〇

西岐波床波魚市場（自）	一五、〇〇〇〇	小野田町木戸刈屋魚市場（自）	一四、七七五二
大華村魚市場（請）	一五、〇〇〇〇	小郡町魚市場（請）	一四、一七〇〇
下松町漁業組合共販魚市場（自）	一一、八八九〇		

（以下略）

下關市魚菜市場（卸・小）	四三五、六九六九	吉見村青果市場（卸）	六、七五二〇
安岡町農會青物市場（卸・小）	三〇、八四〇八	廣瀬産業組合青物市場（卸）	五、一六九五
宇部青物市場（小）	一〇、〇〇〇〇	防府市周南生産物公設市場（小）	四、七二二六
萩市農會青物市場（卸）	八、八八六五	柳井町農會青物市場（卸）	四、四九三五
徳山市農會生産市場（卸）	六、八二八九		

（以下略）

商工獎勵機關

縣下の商品及び商業の獎勵機關として商工會があり、又柳井には染色試験場、山口には工業試験場がある。又對滿貿易施設は、縣が團體から費用を得て駐在員を派遣し、以て商工品の進出を斡旋し又は宣傳に力めてゐる。又東京及阪神に於ても宣傳即賣會を開催してゐる。

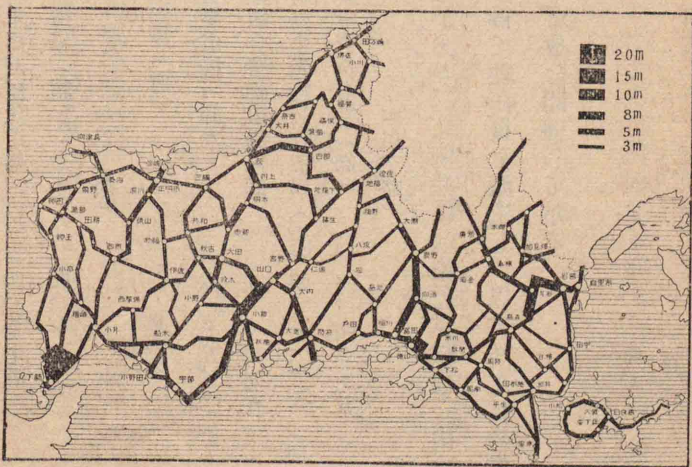
第五章 交通

概観

本縣は本州の交通尖端にあたるが故に種々重要な交通機能を帯びてゐる。即ち陸上に於ては山陰・山陽の兩街道が合體し、海上に於ては對岸九州及び大陸に連絡する要衝である。しかし縣下としては尙山間部に交通不便な所がある。

一道路

道路の總延長は國・縣・市・町村道併せて一萬四三〇四軒ある。うち國道は廣島―下關の山陽を走り、他の一線は島根縣から徳佐に入り、山口を経て小郡に於て山陽街道に接してゐる。かく山陽・山陰の兩街道が丁字をなすと共に、他の縣市町村道は幾多の多角形を描いて之に潮流してゐる。



第51圖 縣下の道路網

國道 總延長は二三一軒、路線は第二號、第一七號、第一八號の三線ある。うち第二號は略々古來の山陽街道に沿ふてゐる。上代の交通は周防八驛、驛馬一六〇疋。長門五驛、驛馬一〇〇疋(延喜式)といふ天下の大路であつた。又徳川時代は九州各藩の參觀交替の通路となつて、各宿驛には一軒宛の本陣と脇本陣とがあつて各々繁昌したものである。

國道二號 和木村―下關岬之町間一六八・六軒の所謂山陽街道である。幅員は四・五米である。欽明路峠(海拔二二〇m)は岩國・玖珂間の難所で、之が爲か周東は廣島文化圏に入つてゐる。將來は下關・門司間を早鞆海峡の海底トンネル(内務省の工事中)によつて連絡する事となる。

國道一七號 小郡―山口間二二・一軒のコンクリート舗装の坦道で、幅員一〇米、縣廳の玄關路として立派なものである。

國道一八號 徳佐―山口間四六・一軒の所謂長門街道である。島根縣界の野坂(三五五m)の外、徳佐盆地―山口間には木戸峠(三七〇m)があつて地形・風土上の自然的境界をなしてゐる。幅員は四・一米、最大勾配は一二分の一である。

主要縣道 縣道の總延長は二二一軒。その主要なものは前記國道に潮流する横斷性の河谷道路、又は海岸道路・内陸縦貫道路等である。延長の方向が期せずして斷層谷と一致するところが多い。幅員は三・六米のものが最も多い。

1、横断性道路

岩國・津和野線……………	二六六	小郡・大田線……………	一五九
富田・鹿野線……………	一三九	大田・深川線……………	一三九
徳山・廣瀬線……………	一七九	船木・伊佐線……………	四九
防府・津和野線……………	四三九	小月・西市線……………	一七九
山口・萩線……………	四三九	西市・深川線……………	二二九
萩・三谷線……………	三三九		

2、海岸道路

田万崎・萩線……………	四七九	下松・室積線……………	一五九
萩・小串線……………	七四九	室積・平生線……………	一三九
小串・下關線……………	二八九	平生・柳井線……………	四九
小郡・宇部線……………	二一九	柳井・岩國線……………	二七九
宇部・船木線……………	一四九	徳山・下松線……………	六九

3、内陸縦貫道路

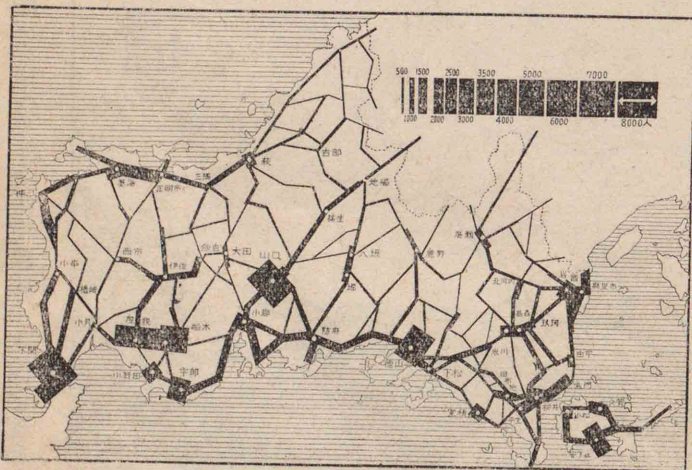
周防……………本郷―廣瀬―鹿野―島地―堀―仁保―宮野
 長門……………山口―大田―伊佐―西市―瀧部―特牛

交通量

縣下の道路網はそれ／＼縣民の産業・福祉を増進する上に貢献してゐるが、其の交通量は生産・文化に比例して各地共必ずしも同じではない。縣下では昭和八年に交通調査を行つてゐる。尤も土木課の目的は道路の幅員や耐久力等を問題とするものであるが、之によると、交通量の多いのは下關市・山口市・宇部市・岩國市・徳山市等で、一般に山陽の交通量が大きい。又各路線に於ても自然上の分水界は同時に交通上の分水界ともなつて何れも人口稠密な海岸部へ肥大してゐる。

二 鐵 道

國有鐵道の總延長は四〇八軒ある。他に國有自動車路二二〇軒、私鐵及び輕便併せて二二〇軒、合計七二〇軒である。山陽本線と山陰本線とは本縣の腹背を繞つて下關に終る。横斷線に山口線・美禰線 周東の海岸に柳井線がある。國有自



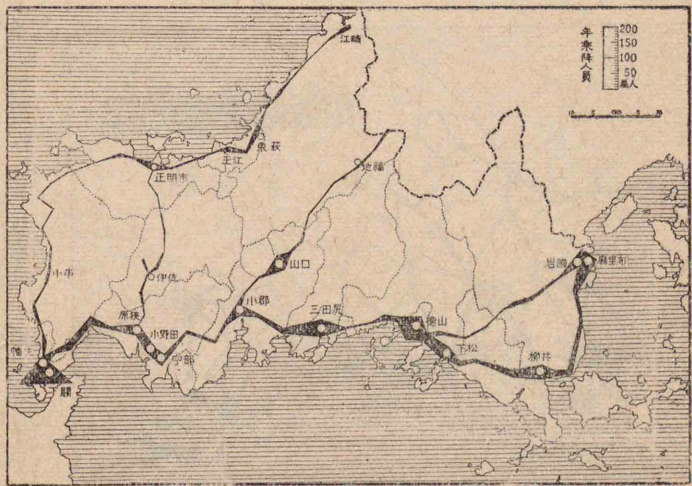
第 52 圖 歩 行 量 (依昭和八年交通調査)

動車路線は、三田尻―山口―萩間と、岩國―廣瀬―日原(縣島根)間で、之によつて横斷線の不備を緩和してゐる。他の防石・宇部・長門の三私鐵は何れも山陽本線を起點としてゐる。

中國環狀線の尖端 縣下の鐵道は大阪を中心として下關を他の一端とする中國海岸環狀線の西端に當ると共に、九州環狀線に相對してゐる。故に關門は本州及び九州の交通尖端として海陸交通上の重要な位置を占めてゐる。

交通量は山陽線の欽明路トンネル、山陰線の人形トンネル山口線の白井トンネルを境として、以東は大阪へ、以西は關門へ集中してゐる。故に本縣の大部分が關門の交通圏内におかれ、周東地方だけが廣島地方の交通圏内となつてゐる。

主要驛 縣下諸鐵道の總収入は、旅客六七二萬圓、貨物五四四萬圓(昭和十年)で、兩者は略々追隨してゐる。縣下の主要驛



は乗客數及び貨物賃銀から見て次の通りである。

驛名	乗車人員(順位)	貨物運賃(順位)
下關驛(山陽線)	〇〇萬人(1)	〇〇萬圓(1)
徳山驛(同)	〇〇萬人(2)	〇〇萬圓(4)
麻里布驛(同)	〇〇萬人(3)	〇〇萬圓(3)
三田尻驛(同)	〇〇萬人(4)	〇〇萬圓(7)
山口驛(山口線)	〇〇萬人(5)	〇萬圓
柳井驛(柳井線)	〇〇萬人(6)	〇萬圓
小郡驛(山陽線)	〇〇萬人(7)	〇萬圓
厚狹驛(同)	〇〇萬人(8)	〇〇萬圓(5)
宇部驛(同)	〇〇萬人(9)	〇萬圓
正明市驛(山陰線)	〇〇萬人(10)	〇萬圓
大嶺驛(美禰線)	〇萬人	〇〇萬圓(2)
則吉驛(同上)	〇萬人	〇〇萬圓(6)

(以上昭和十年)

之に依ると下關驛は縣下の大驛で乗客・貨物とも全國有數である。徳山驛と麻里布驛とは柳井線の分

岐點として乗客多く、同様に小郡驛及び厚狹驛の多いのも山口線及美禰線の分岐點だからである。又山陰本線では正明市が最も乗客が多い。

貨物驛としては下關・大嶺・麻里布の三大驛となる。大嶺や則吉の兩驛は石炭の積出が多い爲めであるが、宇部驛の閑散なのは石炭を海運に依るからである。麻里布・徳山・厚狹は乗替驛として後背地も廣く工業地でもある。

山陽本線 麻里布―下關間一六〇・九籽の急行列車は三時間を要し普通列車は四時間を要する。途中欽明路トンネルは舟坂・入野兩トンネルと共に山陽本線に於ける三つの箱根である。岩徳間は昭和九年十二月に開通したもので柳井廻りに比し二二・七籽、時間に於て二〇分乃至三〇分の短縮となる。トンネルの勾配は、國有鐵道の標準勾配である。本線中の主要驛は麻里布・徳山・三田尻・小郡・厚狹・下關等である。超特急の櫻は麻里布・小郡・下關の三驛、同じく富士は三田尻・小郡下關の三驛に停車する。

山陰本線 島根縣界の佛坂トンネル及び大刈トンネル等を経て、日本海岸及び響灘を縫ひ下關(幡生驛)に至る一四〇・〇籽、普通列車約四時間の區間である。主要驛は萩・正明市等で、正明市から仙崎臨港線がある。

柳井線 麻里布・柳井・櫛ヶ濱間六六・四籽で、周東地方の海岸を迂回する點は藝南地方の三吳線と同型である。列車の直通運轉には柳井線經由もある。

山口線 山陰・山陽を結ぶ横斷線で、小郡―徳佐間四九・九籽、普通列車一時間四〇分を要する。徳佐・津和野間には白井トンネルがあり、山口盆地―徳佐盆地間には田代トンネルがある。小郡・山口間には普通列車以外に一日十一本のガソリンカーを通じてゐる。

美禰線 同じく横斷線で厚狹―正明市間四六・〇籽で、中國各横斷線中最も短い。分水界には大ヶ峠トンネルがある。途中大嶺から伊佐へ二・八籽の支線がある。

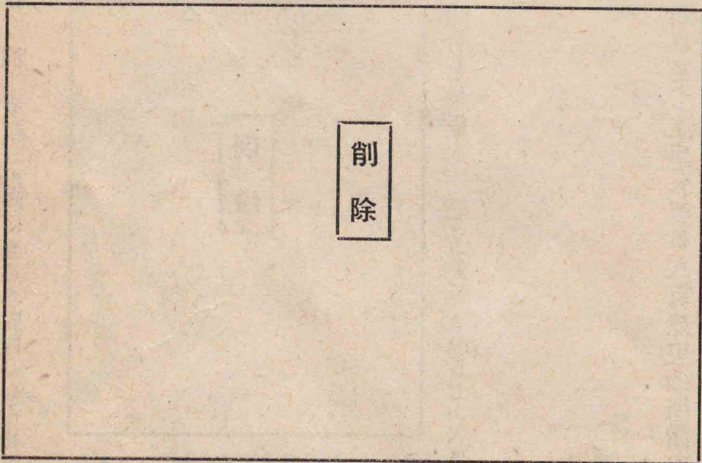
防石鐵道 省線三田尻驛から佐波川筋を堀まで一八・七籽を通ず。

宇部鐵道 省線小郡驛から宇部新川へ至り、更に省線宇部驛へ至る

U字コース三三・二籽を通じ、更に船木鐵道へ通じてゐる。

船木鐵道 省線宇部驛から有帆川流域を縫ふて吉部へ至る一七・七籽の私鐵。

長門鐵道 省線小月驛から吉田川筋を縫ふて西市へ至る一八・二籽の私鐵である。



第54圖 縣下の鐵道トンネル

山陽電軌 山陽電氣軌道は下關—幡生間、及び下關市内に於て唐戸—壇ノ浦—省線長府驛に至る本縣唯一の市街電車である。

關門連絡

關門間の鐵道連絡には下關丸(五二八噸)を初め外〇隻を用ひ、片道十五分、一日三十餘回往復し、又貨車航送も五〇〇噸級汽船〇隻を用ひて貨車〇輛づつが下關・大里間を頻繁に發着してゐる。かゝる貨客の輻輳を一氣に解決すべく關門海底トンネルは昭和十一年着手、同十六年には竣工する豫定である。海底の部分は彦島から若干の勾配で下り、再び同じ勾配で對岸小森江に達する。之が完成すれば列車は五〇分を短縮し、貨車航送の要がなくなるのである。

三 海運・附通信

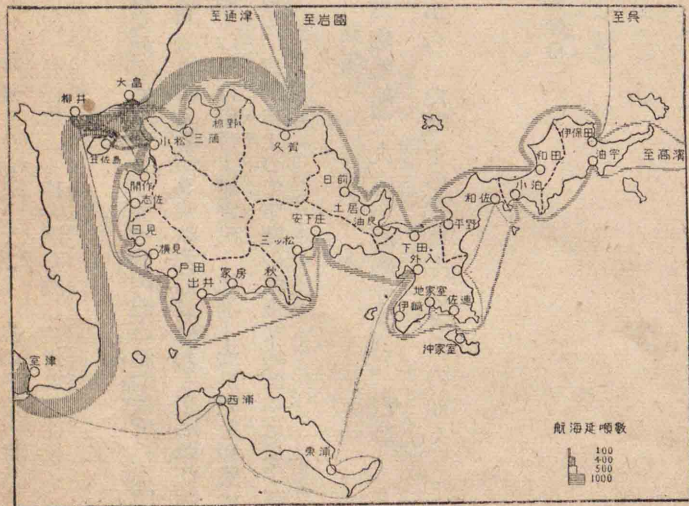
江戸時代河村瑞軒は、出羽の酒田以西の諸船をして下關を迂回させて江戸へ至る八百餘里の所謂大廻航路を開いた。故に下關港は其の當時から上り下りの帆船が輻輳し、海岸の中關・上關も亦繁昌した。

今日汽船時代となつては單に近海航路のみならず外國航路船も亦必ず通過せねばならぬ要地であり、又同時に滿鮮支へ連絡する第一線に立つてゐる。

沿岸交通

縣下の沿岸交通は山陰線が開通して以來、多年の傳統をもつ山陰定期航路が海上交通の幕を綴じるに至つた。しかし瀬戸内海沿岸の定期航路は依然として活潑である。即ち山陽航路(大阪商船)、大阪關門線(攝陽商船・尼崎汽船共同經營)の二線が、新港・久賀・柳井・室津・室積下松・徳山・三田尻・宇部・小野田・下關の各港に寄航し主として運輸上に多大の貢獻をしてゐる。又下關及び柳井を中心としては定期小型汽船がよく發達してゐる。横斷航路には柳井—三津濱間の防豫航路、宇部—別府間の別府航路等がある。又日本海方面では萩を起點として孤島見島へ至る縣の命令航路がある。

大島中心の海上交通 大島は大島—小松間の縣營渡船によつて



第56圖 大島の海上航通量

削除

第55圖 關門鐵道及國道海底トンネル (依鐵道省內務省原圖)

便利に内陸に連絡されてゐるが、流石に「島」として瀬戸内海特有の海上交通を生命としてゐる。島の各港へは古來柳井港を中心として、大島商船の小型汽船が就航してゐる。航路は内浦線・外浦線とも柳井港を發して折返し往復し、又別に島方から外浦經由の柳井行がある。

下關中心の海上交通 下關も亦關門間及隣接地との海上小型汽船の交通が盛である。先づ關門間の渡船は唐戸―門司間に行はれ、下關―彦島間は岬之町―後山(彦島)間が市營によつて行はれてゐる。又海峡汽船は唐戸を中心にして江浦(彦島)―小倉―若松間及び唐戸―宇部間に就航してゐる。又關門汽船も同様に唐戸―岬之町―江浦―大里間を頻繁に連絡して貨客共に輸送してゐる。その他彦島及び六連島への小航路もある。以上によつて下關の海上交通圏は東は宇部、西は若松へのびてゐる。

主要港 縣下各港の入港船舶は延噸數にして汽船二〇三九萬噸帆船二九六一萬噸である。汽船よりも帆船の出入の多いのは瀬戸内海の一一般型式である。入港船舶から見た縣下の主要港は次表の如く、下關宇部の二大港が知られ、兩港とも汽船帆船共に多い。

港名	入港汽船噸數(順位)	入港帆船噸數(順位)
下關港	〇〇萬噸(1)	〇〇萬噸(1)
宇部港	〇〇萬噸(2)	〇〇萬噸(2)
柳井港	〇〇萬噸(3)	〇〇萬噸(7)
新港	〇萬噸(4)	〇萬噸

久賀港	〇〇萬噸(5)	〇萬噸
徳山港	〇〇萬噸(6)	〇〇萬噸(5)
下松港	〇〇萬噸(7)	〇〇萬噸
三田尻港	〇〇萬噸	〇〇萬噸(6)
上關港	〇〇萬噸	〇〇萬噸(4)
小野田港	〇萬噸	〇〇萬噸(3)

(昭和十二年)

又柳井港・新港・久賀港の如きは汽船が多く、上關・小野田の兩港の如きは避難又はセメント積出の爲め特に帆船が多い。徳山・下松・防府の如き工業港は汽船・帆船共に伯仲してゐる。

日本海方面では萩港(汽船〇〇萬噸 帆船三一萬噸)及び仙崎港(汽船〇〇萬噸 帆船八萬噸)の如き漁港としては優秀であるが、商港としては甚だ振はない。蓋し縣下の開港場は下關・徳山・萩の三港である。

下關港 縣下の主要港も之を移出荷物噸數から見直すと下關・宇部・小野田・下松・仙崎・徳山・新港の順となる。何れにしても下關港と宇部港とは縣下の二大港として動かぬところである。特に下關は汽船が縣下入港延噸數の五〇%、同様帆船が七〇%を占めてゐる。又移出入價額に於ては縣下の七三%を獨占してゐる。昭和十五年七月から門司・小倉を併せた海峡一帯が關門港となり、其の實力は名實共

に我が國の三大港に次ぎ、支那事變後は以前の約五倍の膨脹と見られる。

下關港の昭和十二年輸移出入總額は、移出四・八億圓、移入四・一億圓で、兩者は略々折衷してゐる。貿易は内外の仲繼・對滿・對鮮・對支及び臺灣の各方面に及んでゐる。貿易品は魚類・海肥・果物・砂糖米・小麥粉・セメント・漁具・大豆・牛乳等凡ゆるものに互つてゐるが、特に海産物が多く、對鮮貿易は殆ど之を獨占してゐる有様である。又下關港の對内分配圏は日本海の濱田港・瀬戸内海の尾道港に及んでゐる。

附 通信 縣下の郵便局數は二八二箇所で八市二六町一七〇餘村合計二一〇餘の市町村數よりも七〇局多い事となる。郵便と小包とは下關・山口の兩局に多くて、一は商業都市として、一は官衙學生都市としての特色をもつ。電信・電話・爲替は下關・徳山・宇部に多く、貯金と爲替とは下關市・玖珂郡に多い。海底線は下關・釜山間、室積・國東半島間、に敷設されてゐる。ラヂオは廣島(FKO)放送局の管轄下にあるが、周東以外では小倉放送局(SJKO)の感受が良好である。近く防府放送局が設けられる。

第六章 文 化

概 観

本縣は古來毛利藩の治下にあつて勤王大義の英傑を出し、縣民は其の傳統を繼いで實質剛健の所謂防長精神を堅持してゐる。人口は山陽沿岸に稠密で著しく沿岸文化の特色を發揮してゐる。又大陸に近い爲め或は出稼に或は文化の上に、滿鮮支相互の影響に支配される事が大である。

一 沿 革

古代 本縣は古代出雲民族が南下し、又九州に住んでゐた宗像族が本縣を東上したものと考へられる。宗像族は銅劍や銅鐙の遺物を残し、又柳井附近の山上には昔として神籠石を存し、曾て彼等の有力者が住んでゐた事を想像する事が出来る。

歴史時代となつて、景行天皇の御代日本武尊は大和から海路防府の地を経て熊襲建を平げたまひ、次いで出雲建を誅し給ふた(古事記)のである。下つて推古天皇の御代新羅征討將軍として筑紫で薨ぜられた來目皇子(天皇の御弟)は防府桑山の地に御殯葬された。又仲哀天皇の新羅御親征にあつては今の長府の地に

豊浦宮を營ませられ御行在七年の後筑紫香稚宮で御崩御になり、凱旋後の神功皇后は此の地に御親祭あらせられた。更に齊明天皇の御代新羅は百濟・任那を亡して我が國を離れた。従つて新羅の外寇に備ふる爲め長府四王寺山(大唐横山の説もある)に城を築いたといふ。

大化改新後大島國・周芳國・都怒國の三國を合して周防國とし、其の國府を防府に置かれ、阿武國・穴門國の二國を合せて長門國とし其の國府を長府におかれた。國府所在地には國學・國分寺・軍團・惣社(祭神・天照大神)がおかれ、惣社へは國司が參拜した。

中古 平安朝時代には藤原氏に左遷された菅公が防府の地に上陸され、土豪土師氏は之に仕へた。今も菅原道眞を祀る天満宮は縣下を初め參拜者が多い。平安朝時代は綱紀のやゝ弛むと共に、國司の勢が衰へ武士が興起した。瀬戸内海は海賊が横行し、世は源平盛衰の舞臺となつた。平家が壇ノ浦におちたのも、平忠盛以來瀬戸内海は平家の舊任地であつたからである。鎌倉時代には百濟歸化人の後と云はれる大内氏(多々良氏)が州の名族として勢力を得た。元寇の亂後幕府は長門に警固使として北條實政を任じた。

近世 大内氏の全盛時代は義弘・義隆の二代の間である。世は戰國爭亂の疲弊の中に獨り山口の文運は京都を凌駕し、戸口は六萬を超へたと云はれる。彼は關門の要衝を扼して大島・伊豫の海賊衆を屬せしめ、又海外貿易によつて内外の富を一身に集めたのである。然るに義隆父子は陶氏の爲めに殺され、次で毛利元就は逆臣陶晴賢を討つて大内氏の舊地を領した。元就は關ヶ原役後封を削られて防長二州のみを保ち萩に居城を構えた。文久三年毛利敬親は新に山口に居館を移し、爾來内には文武を勵み、外には勤王の大義を守つて維新回天の人材を雲の如く輩出した。

藩領 山口は元就以後の居館となつて防長二州の大部を領し 山口藩 三六・九萬石の藩名は今日の縣名となつた。元就の孫秀元は長府に移され豊浦藩五萬石の祖となり、輝元の次子秀隆は徳山藩四萬石の領主となつた。藩領は徳山の外に飛地があつた。次で秀元の次子元知は長門の清末に封ぜられ、清末藩一萬石の祖となつた。又維新後毛利氏の附庸吉川氏も亦藩屏に列し、廣家を藩祖として岩國藩六萬石を領した。かくて縣下は五藩に分れてゐるものの何れも毛利藩及びその支藩である。

明治以後 明治四年徳山藩は廢されて山口藩に合し、同年山口・豊浦・岩國・清末の四縣となつたが同年末四縣を合せて山口縣一縣となり、初代知事は毛利元徳であつた。當時は一市(赤間關市)十二郡を管轄したが、明治二九年見島郡を廢して阿武郡に併せ十一郡となつた。明治以後の變革も他國と異り何



第57圖 幕末大名領地圖
1 山口藩 2 岩國藩 3 豊浦藩 4 徳山藩 5 清末藩

等地域の加除は行はれてゐない。

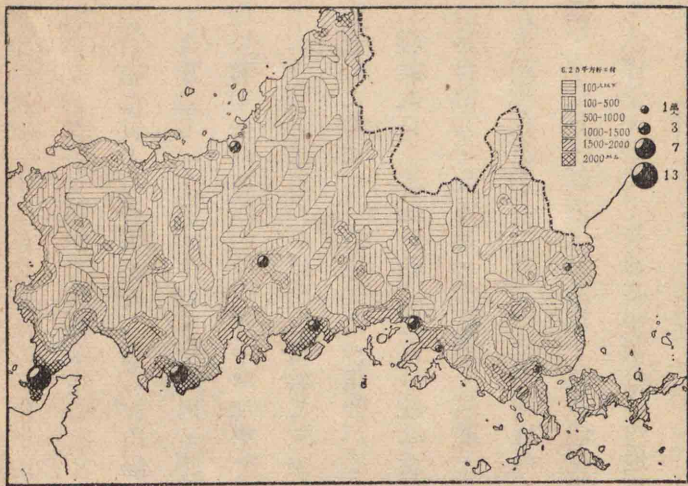
之を要するに本縣は古來我が國西陲に於て重きをなし、特に藩政時代の勤王の大義といひ、殖産興業の實踐といひ、其の文化は決して低くなかつたのである。

二 一 人 口

昭和十年の國勢調査に於て本縣の世帯總數は二五萬九〇〇〇（全國第二〇位）、總人口は一一九萬〇五四二人（全國第二五位）、每方籽の人口密度は一九六八（全國第一九位）である。

郡市別に見れば、市部に於て下關の人口最も多く萩が最も少い。郡部では玖珂郡の人口が最も多く佐波郡が最少である。人口密度は宇部に最も高密度で、萩市が最も疎である。又郡別では大島郡最も高密度で阿武郡が最も稀薄である。

人口の分布 縣下人口の自然的分布は中央部に稀薄で海岸部に密である。之を東西南北の人口密度断面圖に徴すれば地形の凹凸と反對になる。南北の最凹所は分水界にあたり人口密度六、七〇人の値に過



第58圖 縣下の人口密度（昭和10年國調）

ぎない。然し東西の断面に現はれる一高一低の起伏は幾つかの地塊と、地塊間の盆地の人口を現はしてゐる。即ち鹿野—堀—山口—伊佐—西市等の山間盆地のバッチ状の人口分布を見る事はやはり臺地（津平原）に於ける特色である。

人口分布の大勢は著しく沿岸に偏し、その核心は下關・小野田・宇部・小郡・防府・徳山・下松・柳井・岩國等で、山口の位置はそれ等の中央集権的力は無い。特に沿岸工業の盛な今日では山地の人口は益々沿岸都市に吸収される傾向にあつて、本縣の文化は正に山陽沿岸にあると云ふべきである。

人口の増減 大正九年の第一回國勢調査の人口は一〇四萬一〇一三人であつたから、昭和十年に於ては正に一二萬九五二九人を増加してゐる。即ち二〇年間の増加率は一四%で、中國各府縣中では廣島縣の一七%に次いでゐる。

縣下の地域的増減を見ると、阿武山地及び長門山地は一〇%以上の減少を示し、周防臺地は一〇%、

郡市別面積人口密度（昭和10年國調に依る）

郡市	面積 (方籽)	人口	密度
下關市	154.34	17,1290	1112
宇部市	38.83	7,6642	1974
山口市	48.91	3,4803	712
萩市	79.34	3,2587	411
徳島市	23.78	3,2062	1333
防府市	72.59	5,5389	759
松山市	62.87	2,8283	449
國府市	59.48	4,3509	737
大島郡	158.04	5,5553	352
玖珂郡	919.08	10,6308	116
阿武郡	307.08	7,5824	249
熊波郡	510.25	6,2891	123
佐波郡	440.21	3,3534	76
吉厚郡	442.01	8,0779	183
厚狭郡	375.61	7,7055	205
浦津郡	559.45	6,2565	112
美津郡	443.16	4,1259	93
美大郡	359.60	5,0753	141
阿武郡	1027.48	6,9456	68
山口縣	6082.11	119,0542	196

（現在の市制管轄により面積人口修正）

大島郡は二%の減少を示してゐる。又日本海岸及び山陽の中間地は増加一〇%迄の遅々たる停頓地域となり、山間盆地の村落都市に於て僅かに緩慢な増加を示してゐるものがある。山口市は其の一つである。然るに山陽沿岸は不連続的乍ら何れも増加し、下關・宇部・小野田・防府・徳山・下松・柳井麻里布等何れも四〇%内外の増加率を示してゐる。之を要するに本縣の人口増減は山地に於て減少し、沿岸工業都市一帯が急激に増加し、沿岸文化の趨勢がこゝにも見られる。

職業人口 本縣の職業別人口數は無業・農業・工業・商業・公務自由業・交通業・水産業・鑛業・其の他有業者・家事使用人の順位を示してゐる。うち内地の平均率以上の職業は農業・水産業・鑛業・交通業・其の他有業者・無業の六種のうち水産業・鑛業・交通業の割合は内地平均率よりも著しく高率である。

農業では阿武郡が最も高率で千人中三八四人を示し、美禰郡・熊毛郡が之に次ぐ。水産業では大島郡が最も高率で千人中四五人を示し、豊浦郡・大津郡が之に次ぐ。他は其の他有業者が下關に多く無業が萩に多い。

以上職業別人口から見た縣下の地方文化は、阿武郡の農業文化、大島の水産文化、宇部の鑛業文化、下關の交通文化、萩の城下文化等を擧げる事が出来るが、全縣下としては農工水産文化階梯にあると云ふべきである。特に工業者は最近急激に増加してゐる。

都市人口 人口一萬以上を都市と見るならば、縣下には下の十五都市(但昭和十年國調)がある。うち人口十萬以上の

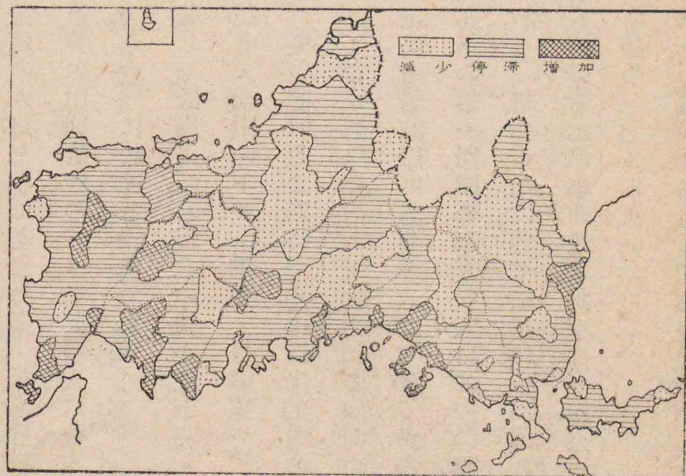
市(都會)	人口
下關市	17,1290
宇部市	7,6642
山口市	5,5389
萩市	4,3509
大島郡	3,4803
玖珂郡	3,2787
熊毛郡	3,2062
都濃郡	2,8283
佐波郡	2,0178
吉敷郡	1,6373
厚狭郡	1,2653
豊浦郡	1,0782
美禰郡	53,4551
大津郡	
阿武郡	
山口縣内	

(昭和10年國調修正)

都市は下關、五萬以上の宇部・防府、三萬以上の岩國・山口・萩・徳山の四都、一萬以上が尙五都ある。

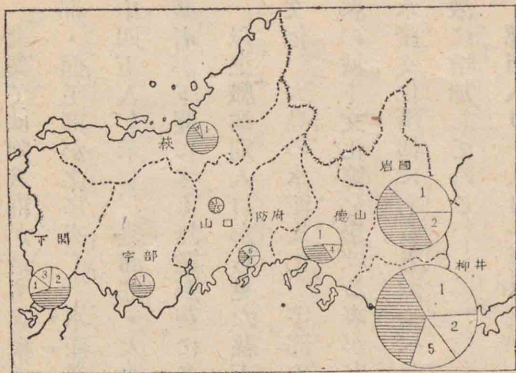
職業別人口千分比(昭和5年國調)

郡市	總數	農業	水産	鑛業	工業	商業	交通	公務	自由	家事	他	無業
下關市	1000	18	5	3	90	125	76	53	19	21	593	
宇部市	1000	53	13	124	90	83	33	25	10	13	553	
山口市	1000	76	—	—	90	104	12	108	18	13	578	
萩市	1000	95	43	—	64	88	20	32	17	9	632	
大島郡	1000	249	45	1	59	41	19	17	4	3	565	
玖珂郡	1000	293	10	1	67	55	13	23	7	7	524	
熊毛郡	1000	305	24	—	46	43	15	19	4	3	539	
都濃郡	1000	249	14	3	75	59	20	25	7	14	534	
佐波郡	1000	261	12	—	71	57	19	24	8	7	542	
吉敷郡	1000	320	16	2	49	44	20	24	6	5	516	
厚狭郡	1000	260	8	16	87	50	26	26	8	20	499	
豊浦郡	1000	294	28	1	52	55	19	26	10	6	510	
美禰郡	1000	359	—	38	42	41	12	21	6	7	473	
大津郡	1000	262	26	—	50	49	12	21	9	5	536	
阿武郡	1000	384	22	1	36	34	11	18	6	5	484	
山口縣内	1000	237	21	11	66	62	24	29	9	10	535	
内地	1000	222	10	5	92	77	15	32	13	2	532	



第59圖 市町村別人口の増減(昭和10年+對昭和5年國調)

蓋し其の後市制を施行したものに限り管轄内の修正を加へた。
 縣下總人口一九萬〇五四二人から前記諸市の總人口五三萬四五一人を除く六五萬五九九一人が村落に住む事となる。即ち村落人口五五%、都市人口四五%の割となる。最近は都市人口が益々村落人口を蠶食してゐる事は想像に難くない。



第60圖 職業紹介所別出稼
 (1)工業 (2)商業 (3)水産 (4)土木 (5)戸内使用人 (6)雜業

出稼と移民 昭和十三年中に於ける出稼者總數は、約四萬二〇〇〇人で、職業別に見れば、工業出稼が〇〇%で、商業者・戸内使用人・土木業者等が之に次ぐ。男女別では男二萬八五〇〇人、女一萬三四〇〇人で女が少い。工業出稼は縣内を初め廣島・福岡・朝鮮等へ向ひ戸内使用人は朝鮮・廣島・大阪・福岡等へ多く、商業者も亦朝鮮・大阪・東京方面である。朝鮮へ出向く者の多いのは流石に本縣の特色である。由來出稼とは「市町村を單位として市町村外に就勞の目的を以て移動する者」で、厚生省の調では一時的の者と通年の者とを併せて

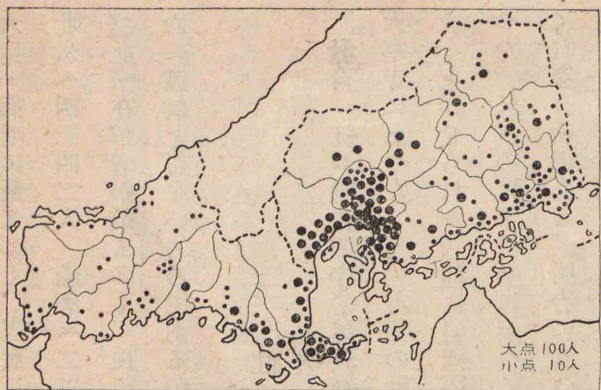
職業別出稼人員 (昭和13年)

職業	人員
〇〇木業	1,4603
〇〇木業業產人業	939
〇〇土商農林水使	3311
用業	6502
雜	2640
計	217
	2025
	4629
	7128
計	4,1994

ゐる。之によると出稼者の最も多いのは縣下柳井紹介所管内で、縣下の三四%一萬二千餘人に達してゐる。こゝには大島・熊毛・玖珂の小部を含んでゐる。勞務の種類も凡ゆる方面に互つてゐる。柳井に次いで岩國・下關・徳山の三管内に多い。

職業紹介所別出稼 (昭和13年)

紹介所	出稼者
山口部	1413
下關	3064
岩國	5104
柳井	9306
柳井	1,2650
萩	3867
防府	1639
徳山	4951
一時的	1,1088
通年	3,0906
計	4,1994



第61圖 廣島・山口兩縣の海外渡航者
 (大點100人・小點10人・大正14年)

岩國は柳井と同型の出稼輩出地で、下關は水産出稼、徳山は工業出稼に優れてゐる。之を要するに周東から周南にかけて、縣下の最大出稼地が認められる。熊毛杜氏の如きは古來定評のあるものであるが、數の上から見れば今日の殷賑工業に應ずる者が最も高率である。
 次に海外移民の總數は、下の海外在留者の七〇%、一萬九三九七人が移民で、他の三〇%が非移民と見られる。出身別に見ると出稼と同様玖珂

海外在留者 (昭和11年)

郡名	留者在	同送金高
大島郡	6915	萬85
玖珂郡	9548	211
熊毛郡	3539	20
濃郡	1094	8
佐波郡	497	4
吉敷郡	1036	2
厚狭郡	243	0.5
豊浦郡	1182	2
美濃郡	237	2
大津郡	313	0.2
阿武郡	1196	0.8
計	25,800	335.5

×市部ヲ含ム(防長海外協會)

大島・熊毛に最も多く、周廣島灣沿岸移民地帯の一部をなすものである。行先は布哇へ一萬二五〇八人、北米へ四三四二人、滿洲へ二三五九人、支那へ一六五二人等が主である。うち周東地方出身者は布哇及び北米在留者が最も多く、長門からは滿洲及び支那行が専ら多い。前者は既に移民の老衰期にあつて新たに渡航を得ないものであるが、後者は興亞の聖業進展と共に益々有望な將來をもつてゐる。

三 社 會

教育 江戸時代の寺子屋教育と見らるゝものは鹿野の漢陽寺、長穂の龍文寺、小鯖の禪昌寺、深川の大寧寺にあつた。毛利吉元の世には萩城下に明倫館を興して塾生を薰陶し、防長の藩學は江戸・京都に次ぐと評せられた。他に岩國の養老館、徳山の興讓館、清末の育英館、長府の敬業館の五藩立學校があつた。又萩の松下村塾に至つては吉田松陰が士規七則の道を説いて維新の偉材を育英した事は天下にかくれなき所である。明治に入つて山口明倫館の後が山口高商となり、大正・昭和を經た今日では山口の學都を初め各地に近代的の學校が普及してゐる。

今日小學校は三九五校(昭和一三)、児童二〇・八萬、教員五一〇〇餘人である。又中等學校は公私立とも七三校、生徒二萬七〇〇餘人。他に高商・高校・高工の三専門學校がある。縣は夙に防長教育縣を標榜して終始一貫教學の刷新に努めてゐる。學窓の特色としては滿鮮支の留學生が割合に多く、又一部には半島人の子弟も少くない。之は本縣の位置が然らしめるもので、將來も本縣教育界に課せらるべき使命の一つであらねばならぬ。

神社 官幣大社赤間神宮(祭神安徳天皇)は下關市に、同じく官幣中社住吉神社(祭神表筒男命荒魂)は下關市勝山に、國幣中社玉祖神社(祭神玉祖命)は佐波郡右田村に、國幣小社忌宮神社(祭神仲哀天皇・神功皇后・應神天皇)は下關市に、別格官幣社豊祭神社(祭神毛利元就)及び別格官幣社野田神社(祭神毛利敬親)は共に山口に祀られてゐる。(以上官社六社) 諸社には縣社四二社、郷社九七社、村社二八一社、無格社四三五社があつて總數八六一社ある。

特に藩祖元就公を祀る豊祭神社は、國亂平定の功勞者を祀る別格官幣社で、城の人柱に代へた「百万一心」の礎石が奉納してある。又縣社のうち、山口の大神宮は大内義興の創建である。又維新前後の功臣を祀る松陰神社は萩に、乃木神社は長府に、伊藤神社は熊毛郡束荷村に、兒玉神社は徳山にある。防府にある縣社松崎神社(防府天滿宮)も亦近國に有名である。祭神別に見ると縣下神社の七割弱が八滿宮である。

宗教 宗教の發祥地たる近畿地方から見れば本縣は其の外縁地域である。佛教は比較的盛で、眞宗寺

院数は總寺院數の半ばに當る。特に玖珂郡に多いのは所謂「安藝門徒」の延長と見られる。眞宗に次ぐ曹洞宗も周防部に多い。

神道教會數は寺院總數の三分の一で天理教會二三一、金光教會六一が主である。神道教會も周防に多く長門に少い。基督教會は市部に偏してゐる。以上によつて縣下の宗教は眞宗が絶對に多く、一般的に長門よりも周防の宗教熱が高いものと見られる。

兵事 藩政時代は軍事教育に精銳隊(少年)・報國隊(農民)・輕騎隊(諸士)・大砲隊、一新隊、御楯隊等の編制が整備されて士風誠に旺なものがあつた。世に「薩長」並び稱せられた。従つて軍人に大先輩をもつ本縣は、その傳統と刺戟によつて縣下の青少年をして舉げて陸海軍人志望者たらしめたと云ふも過言ではない。事實陸士・海兵の志願者及び入學率は全國的に高率縣であり、海軍志願者も亦青少年の輝やかしい希望で、其の入隊者數は近年全國第一位である。志願者は玖珂・都濃・吉敷・豊浦・阿武の諸郡に特に多い。又同様陸軍壯丁の甲種合格率も少くない。

のである。かく軍人志望者の多い反面には實業學校の希望者が割合に少く、且その大先輩も稀である。

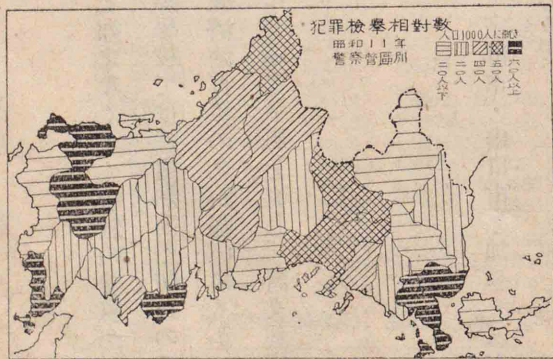
警察 本縣には二九警察署がある。うち下關署は同水上署と共に、我が國警備陣の先端を承はるため水陸共に多大の人員を配し、船車の移動警察をも完璧を期してゐる。

縣下の犯罪件數は昭和十一年に於て三萬八千餘件あつた。主要なものは業務上横領罪九四〇〇餘件(二五%)を初めとして文書偽造罪・詐欺罪等の如き智能犯が多く、賭博・窃盜・傷害等が之に次いでゐる。犯罪件數の最も多いのは下關署・宇部署・徳山三署に於て正に縣下犯罪總數の五〇%を占めてゐる。

言語 方言區分から見ると縣下は本州西部區の瀬戸内海地方の西端に當り、九州區の豊日地方に接してゐる。瀬戸内區の方言は近畿方言の指定の「や」「やらう」が、こゝでは「ぢや」「ぢやらう」となり、理由を示す助詞「さかい」は消滅して「けに」又は「きに」代り、本縣では語尾に「のう」をつける。關門海峡は古來大和言葉と筑紫言葉との境界とされてゐる。

寺院・神道教會・基督教會數 (昭和12年)

郡市	眞宗	曹洞	淨土	眞言	臨濟	日蓮	神道	キリスト
關門市	26	11	6	4	6	4	54	12
下關市	5	1	2	1	1	2	16	4
山口市	11	7	5	2	2	2	12	3
萩市	23	4	10	4	8	3	10	2
徳山府	3	2	2	1	1	1	8	1
防府市	13	10	2	5	1	1	15	2
大島郡	20	11	16	4	2	—	18	2
玖珂郡	118	30	31	20	20	3	72	4
毛郡	69	23	17	7	3	—	28	—
都濃郡	42	36	14	10	7	2	27	2
波佐郡	12	28	3	1	2	1	9	—
吉敷郡	32	26	7	12	8	2	21	—
厚狭郡	53	8	11	2	1	3	28	—
豊浦郡	87	14	19	6	1	1	12	—
美濃郡	47	3	3	—	—	—	12	—
大津郡	41	4	6	—	—	—	7	—
阿武郡	31	37	6	—	—	—	24	—
計	635	255	160	83	76	30	368	34



第62圖 署別犯罪相對數 (檢舉總數を管内人口にて割りたるもの)

山口言葉 は、あのそにこのそ、ねえま(姉)にいま、(兄)ごうま(お嬢さん)つばやさん(悪戯)ちゆな、いけんちあー、いんだら(歸)おかゝに云ふちやげる。せんぎん、ごんごう(化物)、たいがたい(氣の毒)ようそけない(うるさい)ほうとけない(きたない)ちゆう(大變)に、ごつぼう(大變)しやちきりに(非常に)やんくも(やむくも)ほろける(落ちる)國訛り。

氣風 縣民性を具體的に表はす事は六つかしいが、一般に氣風高邁で如才なくよく統制の美風が認められるけれども、性伶俐で利己觀念強く根氣に乏しい缺點がある。中等學校では武道熱高く防長の兵は勇敢である。又郷黨の先輩をよく尊敬し、好んで軍人を志望する。又經濟的打算の念が強いにもかゝらず實業家として大をなさない。之を要するに防長人は我が國温暖地に共通な氣風を有し、詩文藝術は必ずしも盛でない。

四 都 邑

都邑 大正九年第一回國勢調査の際には下關市の一市、第三回に至つて宇部市・山口市を加へて三市となり、今秋第五回國調の曉は實に八市を算する事となり全國的に稀である。

昭和十年國調現在によると、縣下には人口壹萬以上の都邑が二三ある。その過去の過去四回の國勢調査

に遡つて増加率を見ると平均して一五%となる。うち最も高率なのは麻里布町の二一%、宇部市の二〇%、下關市の一八%、徳山市の一七%、下松市の一五%等である之に反して低率なのは萩市及び深川町の一一%、岩國町及び柳井町の一二%である。尤も今日では市制を施行して市域が變更してゐるから一様には言へないが、前者は活潑に増加する壯年都市で、後者は特別な刺戟が發生しない限り老衰都市と言ふべきである。

都市を發達原因別に見ると、舊城下町は山口・萩・徳山・岩國・長府(今の下)の五で、他は何れも生産都市で、その大部分が新進の工業都市である。

都市の毎國調現在人口
(現在人口1萬以上の都邑)

都 邑	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	増加指數
下關市	7,2300	9,2313	9,8549	13,2737	18%
宇部市	3,8063	4,8750	6,1171	7,6642	20%
山口市	2,7868	3,1010	3,1322	3,4803	14%
徳山市	2,9922	3,3225	3,2104	3,2587	11%
岩國市	1,9114	2,0615	2,2745	3,2062	17%
萩市	2,1325	2,3212	2,4373	3,0606	14%
柳井町	1,5887	1,4913	1,6812	2,0178	14%
麻里布町	1,3378	1,4753	1,5859	1,673	12%
長府町	7431	8326	1,2646	1,5724	21%
下松町	1,1008	1,1798	1,2476	1,3225	12%
厚狭町	8192	8580	1,0171	1,2689	15%
深川町	9925	1,0946	1,1811	1,2653	13%
×長府町	9633	1,1086	1,1105	1,1488	10%
×中關町	1,0361	1,0528	1,0778	1,1207	12%
×深川町	9217	9445	1,0061	1,0782	11%
計	30,9923	34,9545	38,2986	46,3756	15%

國勢調査ニヨル×印長府ハ下關へ、中關ハ防府へ合併サル。印市制施行ノ年次

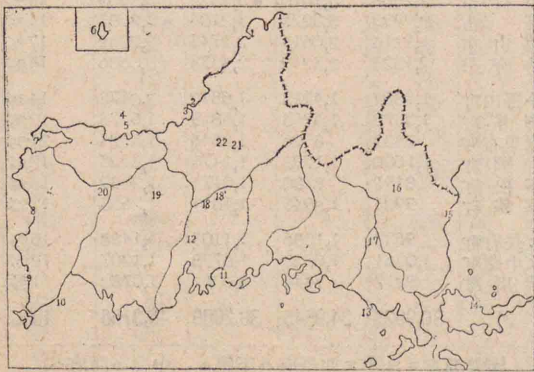
- 下關市……………商業・交通・水産
- 長 府……………舊城下町
- 厚狭町……………交通都市
- 徳山市……………舊城下・工業
- 下松市……………工業都市
- 柳井町……………商業都市

小野田町……………工業都市	岩國市……………舊城下・商業
宇部市……………工業・鑛業	麻里布町……………工業都市
山口市……………舊城下・商業	萩市……………舊城下・水産
防府市……………商業・工業	深川町……………交通都市
中 關……………製鹽	小郡町……………交通都市

天然紀念物 天然紀念物は名勝史蹟と共に人々が杖を曳き遊客を招く。だから地元は之を保護し宣傳して遊覽上にも學問文化の上にも意義あらしめる必要がある。

日本海及び響灘方面

- (1) 須佐灣の風致 神山(高山とも云ひ五三三m)の南西麓の湧れ灣で、幾條もの交叉斷層によつて陥没して生じたものである。神山は斑禰岩の噴出したもので山嶺の岩石は磁力を有し磁針が効を爲さぬ所がある。灣外の絶壁及び岩礁は風景に富み、白黒互層から成る頁岩の奇觀や粒狀安山岩の岩脉等が見られる。
- (2) 明神池 萩市の東、玄武岩の鐘狀火山笠山の頂上に徑三〇米の火口がある。明神池はこの火山の東麓にあつて三千四百坪の天然鹹水池である。池



第63圖 天然紀念物の位置(番號は本文参照)

水は地下から外海に通じて潮の満干を感じ、附近の磯附魚の殆ど全部を網羅して自然の水族館をなしてゐる。風景又明媚である。

- (3) 橋自生北限地 笠山の雜木林中にある。橋は南支の特産で、九州南部紀伊等にあるが、こゝはそれ等の北限をなす。當地では古來山蜜柑と云つてゐる。
- (4) 青海島 既述(二〇頁)に譲る。
- (5) 大日比夏蜜柑原樹 青海島大日比にある。原樹は海流によつて漂着したものとされてゐる。
- (6) 見島村 孤島の見島村には到る所にクサガメ(龜)が蕃殖し、田地の四周に龜垣を施してその侵入を防ぐ所もある。又見島牛は大陸から渡來せしまゝの純日本和牛で、性温順敏活頗る強健である。一戸平均三頭乃至八頭を繋養し婦女子によつてすら農耕に使用される。
- (7) 俵島 油谷灣に臨む向津具半島の尖端にあつて、玄武岩の柱狀節理及び玄武洞がある。満潮の際は離れて島となる。風景も亦頗るよし。
- (8) 小串の紀念物 一は小串海岸の蝙蝠洞、他は西浦と共に「エヒメアヤメ」自生地の南限である。蝙蝠岩は花崗岩の岩窟内に無数の蝙蝠が棲息してゐる。エヒメアヤメは朝鮮に自生するもので、可憐な藍紫色の美花をつく。愛媛縣温泉郡及び佐賀縣のものと共に南限界をなす。大陸植物區系の指標植物である。小串の隣村川棚村には樟の森がある。温泉の北四軒小野臺に地面を覆ふこと一千坪の巨大なものである。
- (9) 横野柿原 今の下關市安岡地内に自生してゐる。澁柿の優良種で横に太い。澁味は極めて強いが、澁ぬきをすれば甘味多く風味佳良となる。漸次他府縣へも増殖される傾向にある。

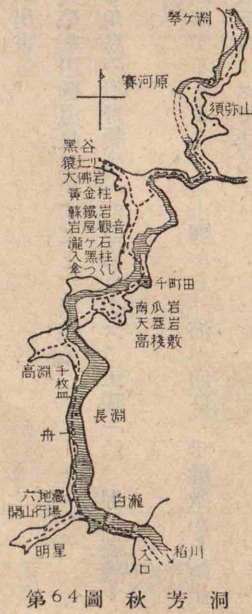
周防灘及廣島灣沿岸

- (10) 満珠・干珠 長府沖の二島で、史蹟の外銀杏や原始植物ちしやの木は準天然記念物である。
- (11) 西浦のエヒメアヤメ 防府市に近接する西浦にある。
- (12) 向島の狸棲息地 防府市對岸の島で錦山に棲息する。狸は別に珍らしい動物ではないが絶滅する恐れがあるため保存に確實な此の島が指定された。餌料となるヒサカキの實が豊富である。
- (13) 小郡町の竹柏 小郡の東端にその自生地がある。竹柏は一位科に屬し、臺灣・琉球・九州南部・土佐・伊豆等に稀に自生してゐるが、本縣のものはその世界的北限に位置してゐる。成長は極めて遅々としてゐる爲め庭園樹及び社叢樹となる。
- (14) 室積の峨媚山 峨媚山は主に硅岩から成る島で、内陸からする流砂の爲に室積半島と化したところ、暖地性の常緑落葉の混林として指定された景勝地である。
- (15) 久賀の幸松 大島郡久賀町の名松で、枝の伸展壯大を極めてゐる。
- (16) 麻里布の白蛇 麻里布今津及び川下村の一部にかけ約五〇〇町歩内の地に棲み、青大将の白化したものである。眼は白化動物の特徴として眞紅である。主として倉庫又は人家内に棲み、性質溫和で人に危害を加へず、鼠を捕へて食ふ。

内 陸 部

- (17) 錦川の川眞珠 主として桑根村附近の錦川に棲み川眞珠として有名である。又桑根村は河鹿の指定地でもある。

- (18) 八代村の鶴渡來地 八代村は徳山の背後周防臺地の一角である。毎年十月下旬から春三月上旬まで二、三〇〇羽の鍋鶴が渡來する。シベリヤ若くは蒙古東部のものであらう。尙須々方には大玉杉の老杉がある。
- (19) 山口附近の紀念物 法泉寺部落に榎柏の老樹があり、榎野川畔は螢の名勝地である。又宮野常榮寺の池庭は雪舟の手になつたものである。又平川村には大杉がある。
- (20) 秋芳洞 秋芳洞は我が國第一の石灰洞で、秋吉村廣谷にある。又共和村には地獄台として石灰岩地特有の地形があり、赤郷村には景清穴・大正洞、共和村には中尾洞がある。又同じ共和村に櫻の巨樹一本が遠望恰も一大森林の如く見える。イチキガシである。
- (21) 石柱溪 吉田川支流荒川は雁飛山麓に發し西市町今田に於て中生層の石英斑岩地帯を流れ、そこに美しい柱狀節理をあらはすこと河岸二料に互る。其の間碧潭と小瀧とが連続する。河床には甌穴が極めて多い。
- (22) 長門峽 阿武川の中流に於ける同じく石英斑岩の侵蝕谷である。「斷魚下れば龍宮も近く、夢の仙境出合淵旅愁なつかし雪景色」と謳はれてゐる。全峽は延長一二料ある外、阿武山地を西流する各支流の溪口にも侵蝕が及んで生雲川の出雲峽、藏目來川の金郷溪があり、別に佐々並川の上流に漣溪がある。漣溪には大鍋小鍋の甌穴がある。
- (23) 木槿の群落 むくげは暖地性の植物で南清地方のものとしてゐる。阿武郡川上村に阿武川兩岸四料に互つて自生し、開花期の盛夏は美觀を呈す。自生地の地質は石灰岩で、所々にカルスト地貌を現はしてゐる。



ハイキングコース 週末日歸りの近郊跋涉は遊覽・保健・學術探究等の上から大いに意義がある。ハイキングは都市に近くて日歸り又は一泊の出来る距離と風景又は休養保健の對象物とが條件となる。廣島鐵道局の選んだ縣下のコースには次のものがある。

秋 穂……小郡から入る。半島八十八箇所の靈場があつて風景もよい。

長 府……家族向きの史蹟探究コースである。

石柱溪……湯本温泉と併せて一泊コースによい。

長門峽……秋の史蹟と併せて新緑の一泊コースによい。

秋吉臺……自然科學探究コース。山口又は小郡から日歸りが出来る。

狗留孫山・川棚……狗留孫山の山岳跋涉の健脚家コース。疲勞を川棚温泉に癒すことが出来る。

附野薬師・角島……特牛から船で日本三薬師の一と云はれる角島の附野薬師への信仰コース。土曜一泊、翌日遊覽するがよい。

油谷灣・千疊敷・龍宮ノ潮吹……人丸驛から向津具半島を跋涉するもよく、古市驛から外海へ向ひ、千疊敷から斷崖に下つて海蝕洞から噴きあげる數十尺の噴水を見る。一般向コースである。

青海島……仙崎から島へ渡り、觀光道路の先端象鼻の大觀を恣にする一般向日歸りコース。島に淨土宗の名刹西園寺があり、男子禁制の尼寺にはうら若い尼僧が讀經三昧に目を暮してゐる。

第七章 地方誌

地理區 地誌を述べるには郡市別に記す事もあるが、地理上では自然・文化の共通してゐる所を地理區として研究する。こゝでは既に述べた地勢區及び氣候區に應じ且實際生活上の文化區をも併せ考へて縣下の地理區を決定した。

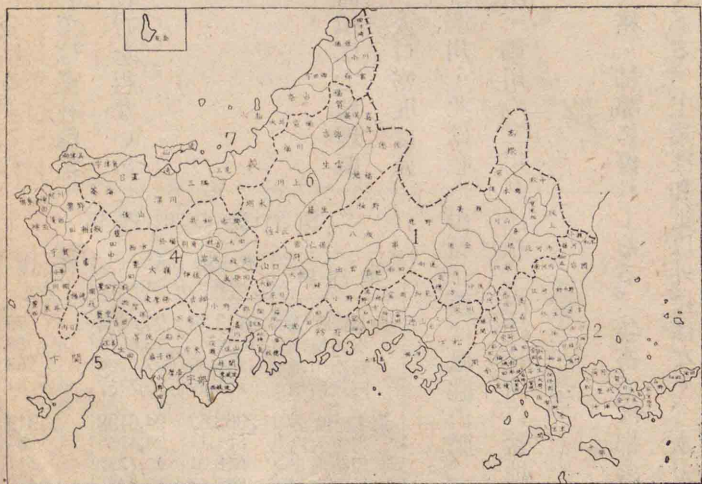
自然區……地勢區・氣候區

文化區……都市界・農會支所區・營林區・運輸區・裁判所區・

郵便配達區・土木管區・小學校研究部會區・徴兵區・警察

管區・司法登記區・稅務管區・電氣管區・職業紹介所管區

本縣海岸部の氣候は北岸・南岸に於て殆ど相違はないが、内陸は急に海拔三〇〇米以上の高冷地方となる。故に先づ縣下を内陸と海岸部との二大別とし、内陸を更に周防臺地・長門山地・阿武山地の三區に分け、同様海岸



第65圖 地理區

- 1 周防臺地
- 2 周東大島
- 3 周防海岸
- 4 長門山地
- 5 長門海岸
- 6 阿武山地
- 7 日本海岸

地方を周東大島・周防海岸・長門海岸・日本海岸の四區に分ける。これは郡を多くは南北に兩分する結果となるが、内陸と海岸とは農林漁業及び工業・交通・人口上非常に差異が認められるが故に已むを得ないのである。

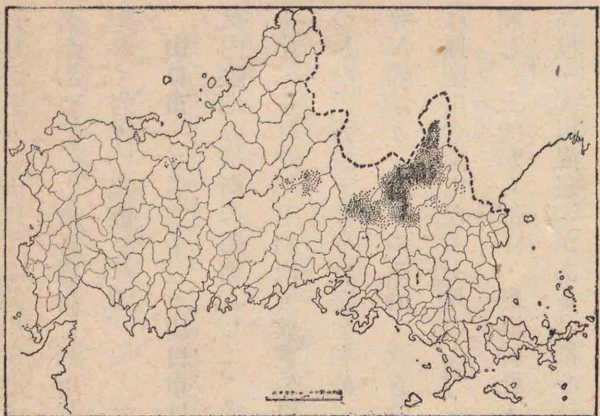
一 周防臺地

概観 山口市及び吉敷・佐波・都濃・玖珂の北部で、面積は七地理區

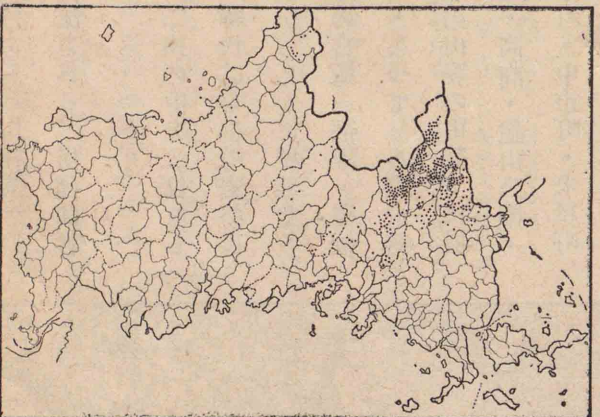
中最も大で一五〇〇餘方軒あるが、人口は一三・六萬人、人口密度は僅かに八九人である。臺地は海拔四〇〇米の高原で、東は小瀬川・北は寂地山脈、西は鳳凰山脈、南は蓮堀・島地・鹿野・須々万・廣瀬の小盆地をつくつてゐる。

主業は農業であるが、米の餘剰は少く、養蠶・蒟蒻芋・楮・柿等に優れてゐる。牧畜では都濃牛の名があり、林業では用材・木炭・山葵が共に縣下の主産地である。工業は和紙以外にはなく、水力發電と勞力に於て海岸部に寄與してゐる。

陰陽連絡の途上にある山口市以外は何れも山間盆地の小邑で、昔乍らの市が立ち、又常に海岸都市に交通を開いてゐる。小中心は山間盆地に於ける堀・鹿野・廣瀬である。人口は全體として若干減少しつつある。



第66圖 山葵の分布(各點200圓)



第67圖 蒟蒻芋の分布(各點1000圓)

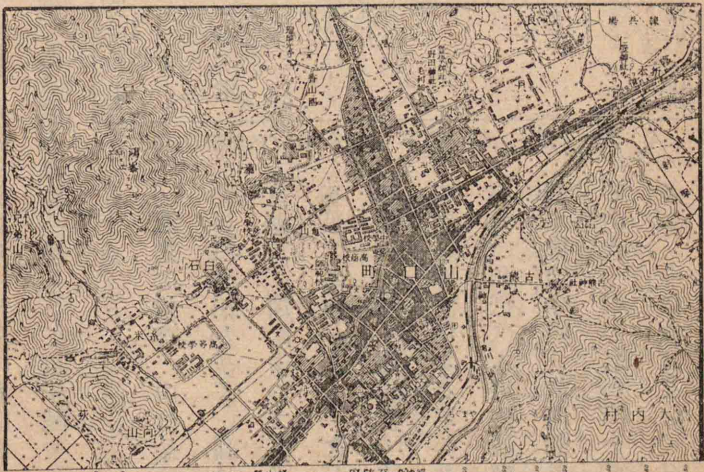
副業に依存 山口盆地を除けば水田が少く、耕地が貧弱で、所によつては米の不足する所がある。之が爲め養蠶・楮・蒟蒻芋・柿等の副業に依存する事が大である。和紙は古來佐波郡奥部の徳地半紙、玖珂郡奥部の山代半紙の名が聞えてゐるが、今は振はない。又山

山口縣の地理區

地理區	面積 方軒	人口 昭和10	密度 人
内陸地方	3113.39	24,4404	79
周防臺地	1539.47	13,6520	89
長門山地	836.63	7,0506	84
阿武山地	737.39	3,7387	51
海岸地方	2968.62	94,6138	319
周東大島	861.11	24,4756	284
周防海岸	668.01	20,7737	311
長門海岸	801.47	37,8227	472
日本海岸	729.03	11,5418	158
山口縣	6082.01	119,0542	196

林業は縣下第一 林業は阿武山地と共に縣下に優れ、玖珂郡は廣島營林署に屬してゐる。徳地には滑官林があり、山代には錦川に沿ふ數ヶ村に「錦川林業」の名があつて、古來岩國川を利用して筏流される。樹種は杉が多く岩國で集散される。

山口市 (人口三・五萬) 山口市は防長二州の中央に位置し又内陸地方横斷の要地として、大内氏時代は京都の繁榮にも比べられた。毛利氏も敬親公以來萩からこゝに城地をうつした。舊城下は今縣廳を初め、多くの官廳と部隊・學校等が備はり、縣下の政治・教育の中心となつてゐる。市街は鳳翽山の前山たる七尾山・鴻ノ峰ノ峰オトドイ・兄弟山等の山麓下に展開し、上流から部隊・野田神社・縣廳・高商・龜山公園・高校・湯田温泉等がある。都心は大市町・中市町・米屋町等の一筋町で、京都を忍ぶ錦川によつて凡そ官衙住宅區と境してゐる。生産は酒・洋服・菓子等が主で甚だ振はない



第68圖 山口市街

名産に大内塗・ネクタイ等がある。下流の湯田温泉(弱鹽類泉)は新たに〇〇療養所がおかれ、さびれた上流の史蹟に比して活氣がある。

山口の名勝史蹟

- | | |
|---------------|------------------|
| 鴻 峰……大内氏の城址 | 常榮寺……僧雪舟の庭 |
| 豊榮神社……毛利元就を祀る | 洞春寺……毛利元就菩提寺 |
| 野田神社……毛利敬親を祀る | 瑠璃光寺……陶弘房の菩提を弔ふ |
| 八坂神社……大内氏の館址 | 香山園……毛利敬親・同元徳の墳墓 |
| 隆福寺……大内義隆菩提所 | 龜山公園……舊藩主の銅像 |

其他の小邑 徳地地方は佐波川の上流域で、防石鐵道の終點である堀(出雲村人口〇・五萬)は附近數箇村の交通中心である。

前山代地方は都濃郡北部諸村の俗稱で、錦川上流に鹿野(鹿野村人口〇・六萬)中流に須々万(須々万村人口〇・五萬)の小邑がある。兩所とも定期市が開かれ、鹿野に古刹漢陽寺がある。稻田養鯉と苹果とは盛ではないが内陸高冷地に應じたもので將來注目される。流域の段丘には諸所に茶を栽培し番茶を出す。又〇〇〇の縣營發電ダムは新湖水を出現し、八代村の鶴と共に新名所となるであらう。

山代地方は玖珂郡の奥部を言ひ、**廣瀨**(廣瀨村人口〇・六萬)及び**本郷**(本郷村人口〇・三萬)の小邑がある。岩國川は廣瀨以



下筏流の便がある。大部分は岩國の商圈に屬する。縣界の小瀬川（大竹川）は防長四境の役に於て彦根兵の破れた所である。

二 一周東・大島

概観 岩國市・玖珂郡及び熊毛郡の南部と大島とを範圍とし、面積八六〇餘方籽、人口二四・五萬、人口密度は二八四人である。周南丘陵は、古來蓮華山脈と稱せられた周防臺地の縁邊によつて斷たれ、南に熊毛半島が突出し、廣島灣外に大島が横はつてゐる。域内はほとゞ三角形をなして禿山の丘陵に富み廣島縣の藝南山地に類似する點が多い。

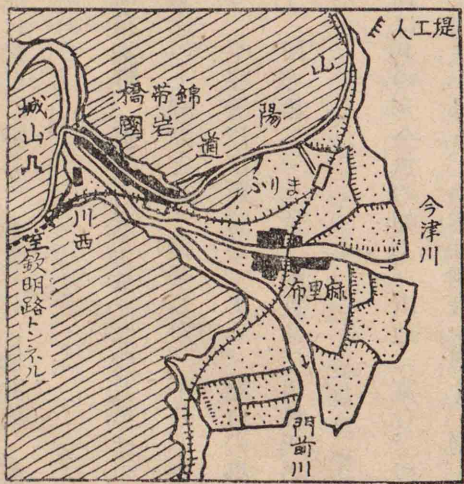
平野は岩國川の三角洲に對し、島田川上流の玖珂盆地及び下流平野の外柳井平野がある。氣候は縣下中最も温暖で盛に農業が行はれ、又岩國―柳井間は古來綿織家内工業地帯である。しかし人口密度が高く縣下第一の出稼地帯である。

岩國と柳井とは周東に於ける二つの中心都市で、兩者の商勢力は欽明路峠によつて東西に分れ、特に柳井の勢力は古來大島郡一圓に及び岩國の勢力は反對に内陸を支配してゐる。

集約農業と移民 米麥甘藷の産は縣下有數であるが、人口も多いから耕地はよく利用されて、大島及

び熊毛半島の蜜柑、岩國附近の筍及び柿、丘陵山地の松茸、大島の除虫菊等種々の集約農業が行はれる然し大島の如きは人口密度三五二人で、本縣郡部中最も稠密なばかりでなく、實に瀬戸内海諸島中第一である。従つて農家一戸當りの耕地は僅かに五段といふ貧弱さである。これ等に刺戟されて大島は早くから移民を出した。現在は玖珂・大島・熊毛の三郡併せて約一・六萬人で、その送金額も少くない。又熊毛杜氏の一時的出稼もある。

岩國市（人口五・九萬）岩國區は岩國川三角洲の扇頂に位置し、吉川氏六萬石の城下である。麻里布區は同じ三角洲の扇央を占め柳井線の分岐點である。岩國は曾ては岩國川の舟運を有し、今は岩國・日原間の省營自動車によつて山代地方の關門となつてゐる。岩國縮・岩國半紙・竹工品（毛糸編棒は多くは輸出される）等を産する。又麻里布一帶は帝國人絹・東洋



第69圖 岩國市

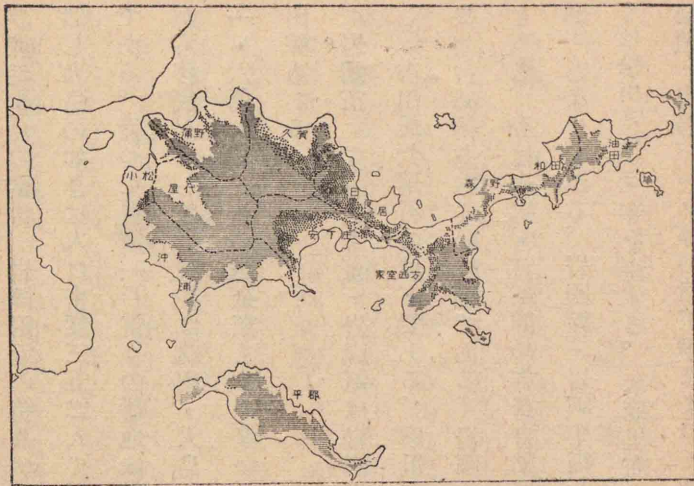
紡績・山陽バルブ等の諸工場によつて急に發展した。城下の錦帯橋は夏の納涼客が少くなく 吉香神社は藩祖を祀つたものである。港は新港を利用し、又海軍航空隊がある。

柳井町 (人口一・六萬) 柳井は古來商業地で吉川家の御納戸と云はれた。港勢は縣下下關・宇部に次ぐ

第三位、大島の海上交通の基點である。然し岩徳線の開通後は陸上の後背地を他に奪はれ勝ちである。町に柳井縞・擬麻布・甘露醬油の産がある。

室津・平生町・田布施町 室津(〇・二萬)は熊毛半島の先端で、帆船時代は對岸の上關港と共に繁榮した。平生(〇・四萬)附近は米を産し、平生灣岸は製鹽地である。灣口の馬島には船乗業者が多く、田布施(〇・六萬)附近は熊毛杜氏の出身地である。

大島の小邑 大島は其の形金魚の如く、山地に富む。段々畑の甘藷は次第に蜜柑にかはり、漁業は鯛最も多く、鱈・鮪(平郡)・瀬戸貝等に富んでゐる。島に三小邑がある。小松町は大島瀬戸に面し商船學校がある。久賀町は内浦に面して綿織を出す。安下庄町は外浦にあつて漁業が盛である。島末は



第70圖 大島蜜柑の分布(各點4貫)

要塞地帯である。

玖珂町と高森町 玖珂(〇・五萬)と高森(〇・七萬)とは共に玖珂盆地の中心をなす。盆地は米を産し又松茸の産が多い。玖珂―岩國間には欽明路峠があつて廣島文化の境界となつてゐる。

室積町 (人口〇・七萬) 峨眉山を結ぶ標式的の陸繋島をなし、町はその砂洲上にある。港は古くからの風待港である。氣候は特に温和、避暑・海水浴の適地で、女子師範學校はこゝにある。

周南町 (人口一・〇萬) 島田川口に臨む四ヶ村を併せて誕生し、光工場が設けられて海岸部將來の大發展が約束されてゐる。

三 周防海岸

概観 徳山・下松・防府の三市と吉敷・佐波・都濃三郡の南部とから成る。面積は約六七〇餘方軒、人口は二一萬、人口密度は三一一人である。人口の稠密な事は長門海岸と共に本縣第一である。地勢は防長の境界に鳳凰山脈、吉敷・佐波の郡界に大平山脈がある。又東部では周防臺地が急に海岸に迫つて居る。平野は末武川の下松平野、徳山・富田・福川の小三角洲、佐波川の防府平野、榎野川の小郡平野(吉南平野)等がある。海岸は西の宇部岬から東の笠戸島迄リヤス式の溺れ灣が多く、島々も亦多くて波

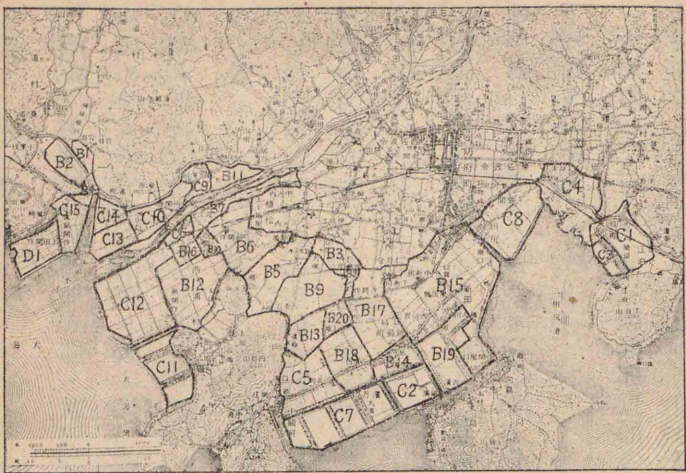
静かである。従つて灣頭又は扇端にあたり開作された所が少くない。

諸平野は古來毛利藩の奨励した防長三白（米・鹽・紙）のうち米鹽の主産地である。近時沿岸各地では目覺しく工業が発達して鹽田の一變した所も少くない。即ち徳山・防府・下松は沿岸の主要工業都市で、又各々独自の商業勢力をもつて居る。

徳山市（人口三・二萬）毛利支藩四萬石の城下町であつたが、明治三七年海軍煉炭所（今の燃料廠）が出来て、以來市内外には順調に諸工業が発達し、扇端埋立地には徳山曹達、櫛ヶ濱町には徳山鐵板・日本製蠟等の工場があり、西郊の富田には東洋曹達・キリンビール工場の外清酒・醬油・味噌・澤庵の産がある扇頂には藩祖を祀る祐綏神社や兒玉神社がある。市の商勢力は四近及び周防臺地に及んで居る。港は工業の勃興によつて開港場となり、最近は附近一帯と共に要塞地帯に編入された。櫛ヶ濱は柳井線の分岐點である。

下松市（人口二・八萬）もと鹽焼く寒村であつたが、笠戸灣に臨む徳山と同型の新進工業都市となり、昭和十四年十一月市制を布くに至つた。東洋鋼板・日本石油・下松再製鹽工場・日立製作笠戸工場・笠戸船渠等の重工業が盛んである。

防府市（人口五・五萬）防府は周防國府のおかれた故地で、港と驛とは三田尻の名を残して居る。市街



第71圖 防府市と干拓（符號及數字は干拓の順序）

は宮市・三田尻・中關の三部から成り、扇頂部の宮市には菅公を祀る松崎神社があり、扇中央の桑ノ山には放送局がおかれる。三田尻港は毛利氏の海軍局のおかれた所、中關港は上關下關と共に三關の一として謳はれた。中關一帯は英雲公（毛利重就）によつて開作された三百町歩の鹽田である。製鹽は坂出に次ぐ我が國第二の産額を擧げて居る。近時は又向島再製鹽工場が之と伯仲する産額に達して居る。市の商業勢力は古來四近に及び、工業には福島人絹・鐘紡人絹を初め、酒精會社・柏木檢温器・味噌醸造等がある。東郊の富海は海水浴場である。

小郡町（人口一・〇萬）山口線及び宇部線の分岐點で山口宇部間の小商業地である。小郡灣外の阿知須及び岐波は臨海休養地である。又吉南地方は宇部市の勢力下にあつて野菜を初

め集約農業に優れ、縣下一の煙草栽培地でもある。

四 長 門 山 地

概観 美禰郡・豊浦郡大部・厚狭郡一部の内陸山地で、周防臺地よりもやゝ低い。山地の北は山陰・山陽の分水界で鯨岳山脈と云はれ、東は鳳凰山脈、西は豊浦山脈、中に美禰・豊浦の郡界をなす花尾山脈があり、南は南原山脈が東西に横たはつて居る。有名な秋吉臺は殆ど美禰郡一圓に亙つて石灰岩の荒地を展開し、僅かに地鉢の底の窪畑クワが耕やされて居る。大理石・石灰・大嶺炭の天然資源はあるが、人口密度は周防臺地よりもやゝ稀薄で毎方軒八四人である。

山麓盆地は周防臺地と同様に、厚東川上流に大田盆地、厚狭川上流に伊佐盆地、吉田川上流に西市盆地がある。鐵道は之等の河谷に沿ふて海岸へ通じ、又横斷線的美禰線を通じて居る。商業經濟は總じて下關商圏に屬して居る。

大田町 (人口〇・三萬) 美禰郡東部の中心小邑で、小郡・萩間バス交通の途上にある。附近一帯の午芳は窪畑の主産物で縣下有數の産額を擧げて居る。

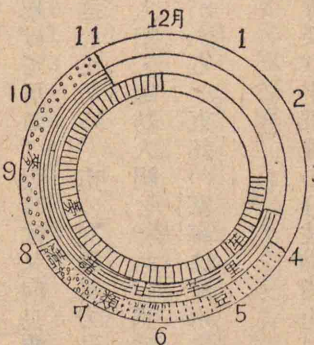
秋吉村 (人口〇・二萬) 秋芳洞の觀光客を迎へ、又大理石は主として此の村から産し、その加工年額五〇萬圓は我が國第一である。又石灰製造も少くない。

伊佐町と大嶺町 伊佐町(人口〇・四萬)は美禰線に近い本郡西部の小中心である。西の大嶺町(人口一・〇萬)は良質の大嶺炭を産し活氣を帯びて居る。

西市町 (人口〇・二萬) 小月驛から岐れる長門鐵道の終點、俵山温泉の捷路にあたり豊浦郡東部の小中心である。吉田川上流には石柱溪の勝地があり、天井岳南麓一帯には鷹ノ羽官林がある。華山(七一三三)は仲哀天皇の御殯葬地である。

五 長 門 海 岸

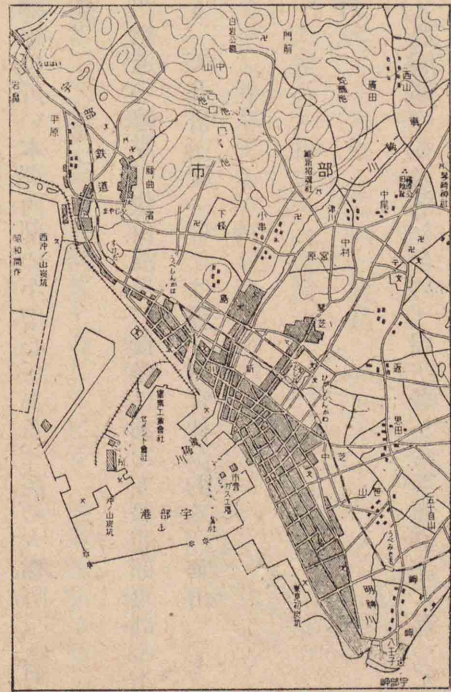
概観 本地域は下關市・宇部市及び厚狭郡・豊浦郡の各大部を含め、周防灘から響灘沿岸に亙つてゐる。後者の豊浦山脈以西一帯は要塞地帯である。厚狭郡は海拔一〇〇米前後の宇部臺地が海岸に臨み宇部岬に終つてゐる。長門山地との境界は南原山脈と呼ばれる。低地は厚東川・有帆川・厚狭川・吉田川(木屋川)等の喇叭形河口に沿ひ、丘陵は其の間至る所に起伏してゐる。下關も亦同様の赤土から成る丘陵臺地の末端を占めてゐる。氣候は熊毛半島と共に縣下の温暖地である。



第72圖 窪畑の輪作

面積は八〇〇餘方軒、人口三八萬に近く、人口密度は四七二人で、本縣中最も高い。之は下關・宇部小野田等の商工都市が長足な發達を遂げた事による。之等の港市は何れも臺地の尖端を占め、宇部は石炭を埋藏し、下關は交通上・水産上に於て全日本的の存在である。又下關・宇部の近郊は縣下の二大野菜地帯である。

宇部市（人口七・六萬）市は宇部炭の採掘によつて急に發展したが海底採炭の將來を見越して工業を起し、今は縣下第二の大都となつた。宇部鐵工・宇部紡績・宇部セメントを初め、昭和に入つて理研・チタンホワイト・宇部窒素・宇部曹達・石炭液化・日本發動機油等の大會社をも誘致した。陸は宇部鐵道によつて小郡及び宇部驛に連絡し、海は新川港が下關港に次ぐ繁榮を見せてゐる。市に高工が新設された。



第73圖 宇部市

小野田町（人口二・〇萬）本山半島の陸頸部に發達し、民間最初の小野田セメント會社を初め、日本化

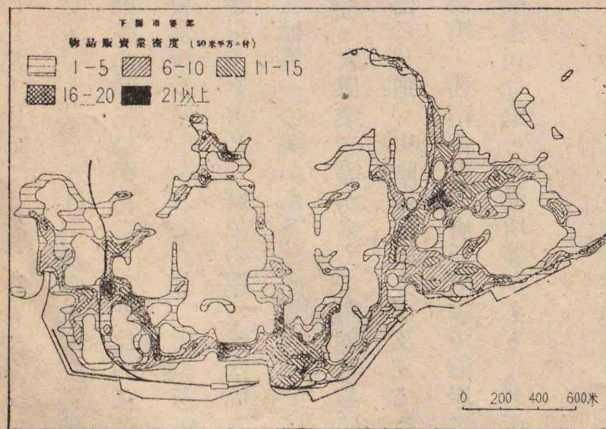
學工業・帝國窯業等の諸工場があつて、町は南のセメント町、北の硫酸町と云はれ近く市となる。

船木町と厚狹町 共に同型の交通要地で、船木町（人口〇・五萬）は船木鐵道を通じ、櫛の名産がある。

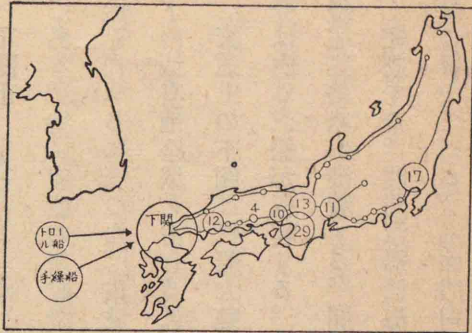
厚狹町（人口一・三萬）は美禰線の分岐點となり、又日本火藥工業が、あかれて宇部小野田工業地區の一端をなす。下關名産の赤間關硯は此の地の産である。西の埴生は青松白砂の地で、東の阿知須に相對してゐる。

下關市（人口一七・一萬）關門海峽に臨み、古來水陸交通の要地である。特に興亞の新建設と共に母國の交通尖端として一層重要性を加へるに至つた。市域は附近一帯の町村を併合して豊浦山脈下の低臺地全域を占むるに至つた。

交通上の下關は帆船大廻航海時代裏日本一帯の帆船が廻航し、今は内外汽船が輻輳する。又山陽本線の終點として關門・關釜の鐵道連絡船が發着する。關門海底トンネルも鐵道及び國道とも近く完成する。關門汽船は海峽及び北九州諸都市との間の交通・運輸に當つてゐる。港は門司・小倉を合して關門港となつた。



第74圖 下關・商品販賣密度から見た都心（依大森勝氏）



第75圖 下關魚類の集散 (單位4噸・昭和11年)

工業は沿岸に餘地がなく、主に彦島を中心として三菱重工業・三井
 鑛山彦島製錬所（亞鉛）・合成工業（アンモニア）・日東硫曹・三菱造船
 林兼鐵工・同冷凍工場・日本漁網等の諸工場がある。之が爲め彦島の
 人口増加は稀に見る急速なものであつた。

水産上では縣下遠洋漁獲物の半以上を占め、鮮魚の遠地輸送は九萬
 噸、六千萬圓に達し、漁港として世界一の稱がある。商業貿易では開
 港場として内外物資の問屋・卸商・倉庫業者等が多く、對鮮貿易は殆
 ど之を獨占し、港の分配圏は内海の尾道、山陰の濱田港に及んでゐる
 都心は岬之町・觀音崎町・東南部町・西南部町・唐戸町等で海岸に沿

ふて長い。唐戸市場は關西に於て有力な地位を占めてゐる。市に要塞司令部・測候所等があり、名産に
 硯・雲丹等がある。河豚は下關料理として世に知られる。

長府はもと長門の國府がよかれ、又藩政時代は豊浦藩五萬石の城地として榮えたが、今は市の一部と
 なり、海岸は神戸製鋼・精密工業の工場と化した。又小月、吉田川の下流で、西市・瀧部等に通ずる要
 路にあたり、長府鐵道の分岐點である。清末區はもと清末藩一萬石の城地で、藩祖に因んだ社寺がある

同様に市域となつた川中・安岡方面は彦島の一部（メロン）や王喜村（王喜葱）と共に、都市近郊の野菜及
 び乳牛・養鶏地帯である。

下關の名勝史蹟

- 赤間 神 宮……安徳天皇を祀る。
- 壇 浦……早瀬瀬戸に臨み、豊前古城山に相對す。瀬戸僅に五町。
- 春 帆 樓……赤間宮の西にある。日清講和條約の紀念館である。
- 忌 宮 神 社……長門一ノ宮。
- 功 山 寺……毛利氏の菩提寺。五卿の滯留地尊攘堂あり。
- 前 田……英艦砲撃の地。
- 滿 珠・干 珠……長府沖の二島で史蹟及び名勝地。
- 乃木神社・毘沙門天……長府にある。

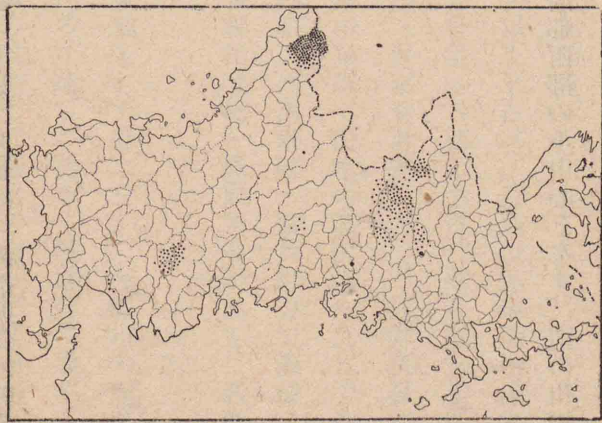
小串町と川棚温泉 小串（人口〇・三萬）は響灘に沿ふ漁港で、豊浦郡西部の小中心をなす。南の川棚村
 湯谷には川棚温泉（單純泉）があつて北九州の來浴者が少くない。

瀧部・特牛・角島 瀧部は栗野川の中流の小盆地に位置し、特牛は沖の角島と共に漁業地で大羽鱈の
 大漁がある。角島には放牧が行はれる。

六 阿 武 山 地

概観 地域は阿武郡の海岸を除いた高原山地を指す。南東部は防長の境界をなす分水界で限り、南東は十種峯山脈が島根縣側に急斜してゐる。阿武川の本支流は此の高原を東北から西南に流れて深い河谷をつくり、其の間四條の山列を現はしてゐる。中に多くの玄武岩丘と一部石灰岩地がある。

山間の平坦面は海拔三〇〇—五〇〇米の間にあつて、氣候は周防臺地と同様に冷涼であるが降水量は却て周防臺地よりも少い。徳佐盆地は農業がよく行はれ、又山陰—山陽の好通路となつてゐるが、他は山間の小盆地があるに過ぎない。之等は米・麥の外養蠶が重んぜられ、三椶の産が多い。林業は阿武川中流川上村の流伐が知られ、木炭は縣下中最も多い。無角牛は本郡の産である。交通文化は東半が徳佐盆地、西半は萩市を門戸としてゐる。人煙は縣下中最も稀で、密度僅かに五一人である。



第76圖 三椶の分布(各點100圓)

徳佐村 (人口〇・五萬) 徳佐盆地は一方白井トンネル、他方は田代トンネルに至る細長の盆地で、徳佐は其の主邑、薪炭・木材等を産する。盆地を流れる川は丁字に相會して長門峽の勝地をつくる。商圏は一部は津和野に屬し、大部は山口市に屬する。

吉部村 (人口〇・三萬) 阿武川支流藏目木川の小盆地に位し、高原農山村の小中心である。

七 日 本 海 岸

概観 萩市の外阿武郡の海岸部及び大津郡を含めた地で、面積七二九方軒、人口一一・五萬、人口密度一五八人である。故に同じ海岸部でもこゝは縣下の平均密度(一九六人)に達しない。地勢は大津郡の背後を鯨岳山脈で限り、阿武山地とは熊野岳一帯の連山によつて境される。河流は田万・大井・阿武三隅・深川・掛淵の諸流があるが、阿武川の外は何れも小さい。平野は阿武川下流の萩三角洲、油谷灣頭の大津平野(古市平野)が主である。海岸は山陰形式で日本海に臨む斷崖が多く、海岸を走る山陰本線はやはりトンネルが多い。

地域の東部は萩の商圏に屬し、尙須佐の小中心がある。西部は寧ろ下關の商圏に屬し、正明市・日置等の小中心がある。農業は米・麥の外萩を中心とする夏橙・竹材がある。又六島村には除虫菊を産す

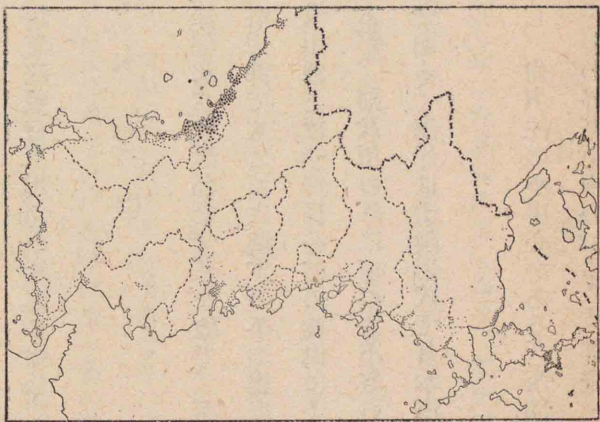
る。漁業は縣下第一で、特に遠洋漁業に優れてゐる。

須佐町 (人口〇・五萬) 北

部數ヶ村の中心である。港は高山を西へ廻つた溺れ灣で、漁港としてはた又風景に於て優れて居る。

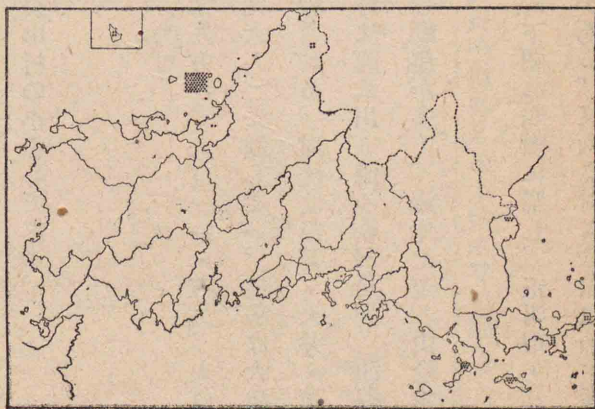
萩市 (人口三・三萬) 毛利

藩の舊城下で指月山麓には其の舊城址がある。萩の水産總額は三三〇萬圓で、正



第77圖 夏橙の分布 (大點5萬貫・中點5千貫・小點500貫)

に下關に次ぐ縣下第二の水産都市である。市の特産には夏橙・蒲鉾・酒・萩焼がある。港は開港場で市の東部にあり、背地の木材及び竹材を集散する。市は松本川右岸の松陰神社を初め名所舊蹟に富み四時観光客が少くない。沖に遠く離れた孤島見島へは本市から連絡する。見島は今軍機保護法地帯に屬す。



第78圖 除虫菊の分布 (各點500貫)

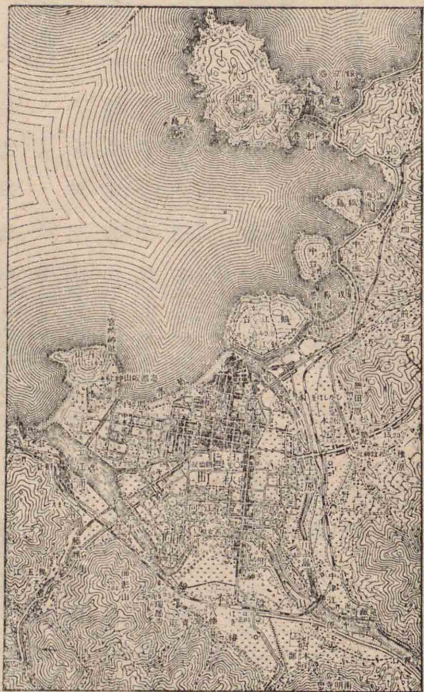
仙崎町 (人口〇・七萬) 萩と共に日本海有

數の漁港である。町は純漁業町で蒲鉾其の他の水産製造が盛である。對岸青海島の海蝕風景は有名で観光客が多い。

深川町 (人口一・二萬) 深川平野を占め、

宇正明市は美禰線の分岐點で、宇湯本には湯本温泉(單純泉)及び古利大寧寺がある。

又湯本の西南俵山温泉(アルカリ泉)は神經痛の療養温泉として知られる。



第79圖 萩市

日置村 (人口〇・八萬) 油谷灣頭の古市平野を占め、古市は人丸(菱海村)と共に平野の中心小邑である

下關商圏の勢力は古市平野に及び、以東の地は萩商圏に移りかはる。

(終)

参 考 文 献

喜田 貞一 中國考……歴史地理、明三四・一〇
 小藤 文次郎 中國筋の地貌式……震災豫報、明治四一・一〇
 中村 新太郎 柳井津半島及其北方の地形と地質構造……地質學雜誌、明治四〇・一二
 佐々木 祐太郎 秋吉台のドリネより得たる土壤に就て……地質學雜誌、明治三九・一〇
 鈴木 敏 長門國美禰郡豊浦無煙炭田地質調査報文一・二……地學雜誌、明治三七・一〇・一一
 山崎 直方 秋吉台のカルストに就きて……地質學雜誌、明治三九・一〇
 渡邊 世祐 足利時代の山陽道……一・二・三、歴史地理、明治三五・一八・九・一〇
 辻村 太郎 中國花崗岩地に於ける地貌の變遷……歴史と地理 大正七・一六
 小倉 勉 山口縣錦川に就て……地學雜誌、四一八・一二
 小澤 儀明 秋吉台の地史と地形と地下水……地理學評論一ノ一、二、三、四
 小澤 儀明 中國準平原及びカルストと居住關係……地理教育 一ノ五
 小牧 實繁 長門峽の成因……歴史と地理一六ノ三
 脇水 鐵五郎 長門峽の成因……學藝、大正一二一八
 野津 精 小野田町……地理教材、昭和二一・一〇
 山本 慶次郎 下關航行に就て……水路要報、昭和二一・一
 小澤 儀明 七萬五十分之一地質圖幅徳山を讀みて地域の構造を解釋す……地質學雜誌、昭和四一・一二
 佐藤 傳藏 秋吉台カルスト(石灰岩景觀)……地學雜誌、昭和四一・一
 東木 龍七 日本内海西域周防灘南部の成因論……地理評、昭和四一・一
 井上 春雄 瀬戸内海地方(特にその製鹽業に就いて)……地理と歴史、昭和五一・一
 小倉 伸吉 瀬戸内海の潮汐及潮流に就て……學藝、昭五一・三
 徳永 重康 山口縣宇部炭田の概観……地理評、昭和五一・七
 橋本 博 周防の地名……歴史地理、昭和五一・八・九・一〇
 水路 部 下關海峽大瀬戸通船船の研究……水路要報、昭和六一・八
 三野 與吉 中國地方に於ける準平原問題(第一報)地學雜誌 昭和八一・四
 山本 熊太郎 新日本地誌(Ⅳ)近畿中國篇……古今書院
 櫻田 勝徳 長門六島村見聞記(上・中・下)……嶋、昭和八一・五六・七
 山口 彌一郎 宇部炭田に於ける炭聚落の漸移機構……地學雜誌

津屋 弘達 昭和八一・九 中國地方の花崗岩地形と第四紀火山分布とに就いて(英文)……地震研究所彙報、昭十一・六
 加藤 藤雄 山口縣築業の沿革と現狀に就いて……大日本築業協會誌、昭十一・一二
 堀江 保藏 山口藩に於ける幕末の洋式工業……經濟論叢、昭和十一・一
 堀江 保藏 中島治平と山口藩の洋式工業……經濟論叢、昭和十一・五
 小澤 儀明 西南日本内帯に於ける第三紀以前の地殼運動……地理學評論二ノ二
 近藤 清石 山口縣地史略……單行本
 井原 儀 山口縣小地理……單行本
 申山 眞勝 山口縣の人口地理學的考察……地理歴史研究一五卷四號
 梅田 茂雄 赤間關硯石について……地研一ノ二〇
 徳永 重康 山口縣宇部炭田の概観……山崎博士論文集五五七
 池上 鋼太郎 日本海の孤島見島……地研一〇ノ二一八
 岡庭 秀男 萩夏蜜柑に就て……地研一三ノ八九
 館林 寛吾 秋吉臺に於けるドリネの人文……地球一五ノ五
 織田 武雄 秋吉臺のカルストのドリネ……地教二四ノ三八〇
 濱田 清吉 秋吉臺のカルスト……地教三二ノ三
 眞道 永次 岩徳線と中國一の欽明路トンネル……地研一二ノ四五八
 福崎 一雄 長門西岸漁村聚落の特相……調査物
 同 山口縣夏橙の地域的考察……調査物
 本 協 本縣の朝鮮及關東州方面に於ける漁業狀態……調査物
 山本 熊太郎 防長米の農業地理學的考察……地學六ノ一五
 松村 育人 縣下工業地帯の素描……山師「光被」三號
 柚木 清 山口蜜柑の地理學的考察……同上
 大谷 正國 大島の海上交通量について……同上
 大防 毎日新聞 經濟風土記―山口縣の卷……新聞連載
 眞道 永次 岩國川流域の地域景……地學六ノ一二一〇
 東木 龍七 日本群島三角洲の研究……地教一〇ノ五三五
 館林 寛吾 山口縣地理……謄寫物
 眞道 永次 山口縣東部の地理的研究……パンフレット
 山本 熊太郎 岩徳線と中國一の欽明路隧道……地研一二ノ四五八
 山 口 縣 農産物輪移入調査……地理學七ノ二五一
 山 口 縣 神社制度概要……山口縣
 山 口 縣 産業組合要覽……山口縣
 山 口 縣 農業調査結果……同上

山口縣	農家調査統計書	同	上	下	關	市	下關市統計年報	下關市商工課
山口縣	山口縣商工要覽	同	上	下	關	市	下關市水道概要	下關市
山口縣	山口縣山林會	山口縣山林會	同	下	關	市	岡山・廣島・下關中心のハイキン	廣島鐵道局
山口縣	農務年報	農務年報	同	下	關	市	グコース	廣島鐵道局
山口縣	農事試驗場	農事試驗場	同	下	關	市	郷土讀本	白銀日新堂
山口縣	水産教本	水産教本	同	下	關	市	郷土讀本	宇部鐵業組合
伊藤	幸雄	織部の奉公市に就て	同	下	關	市	鮮魚市場としての下關	宇部鐵業組合
杉	研一	西岐波の澤庵漬に就て	同	下	關	市	鮮魚市場としての下關	宇部鐵業組合
吉	中正	川中村の大連方面への共同出荷に就て	同	下	關	市	大島郡の人口動態と海外發展	山口縣教育一三年八月
大	森	下關市要部に於ける商業分布地域	同	下	關	市	大島郡地理郷土讀本	開蒙小學校
青	木	防長の奇習	同	下	關	市	重工業都市下松市の誕生	地理學七ノ一三
地質調査所	柳井津(田幅第二四一號)	地質調査所	同	下	關	市	津和野岐波構造線について	山口縣郷土研究第一號
陸軍省	軍機保護法施行規則	陸軍省	同	下	關	市	御園生翁甫	華城村役場
國弘	保	勝坂部落の研究	同	下	關	市	新市防府市	地學四ノ一八五三
小川	五郎	防長地理學關係文獻目錄	同	下	關	市	自然地理的に見た室積	山口女師郷土研究
石川	卓美	防長年鑑	同	下	關	市	關門連絡鐵道工事計畫と海底墜道の地質調査	地學五ノ三一八
防長新聞社	山口縣下の河川研究	防長新聞社	同	下	關	市	關門トンネルの話	週報一三七號
志賀	和夫	山口縣海岸線の測定	同	下	關	市	周布熊毛郡石城山神籠石	山口縣郷土研究第三輯
國弘	薰	山口縣統計書(第一・二・三・四編)	同	下	關	市	山口縣の地位	總務部統計課

廣田	義男	大島郡小松町の開作について	同	上	山口縣	山口縣の地位	總務部統計課
松田	雄	山口市場の地理的研究	同	上	山口縣	山口縣の面積及世帯人口	同
小田	博	周防に於ける干拓の研究	同	上	山口縣	統計の栞	同
齋藤	政登	山口縣下陸上交通の地理學的研	同	上	山口縣	蠶繭統計	同
岩本	肇	山口縣下の禿山の分布と若干の	同	上	山口縣	山口縣勢一斑	山口縣
玉井	壽郎	山口縣に於ける犯罪の人文的研	同	上	山口縣	縣管小郡灣干拓事業概要	山口縣
小山	熊太郎	周防灘に於ける干拓の地域的研	同	上	山口縣	各市町村誌又は觀光案内・パンフレット	山口縣
小坂	稔	阿武郡六島村大島の景觀	同	上	山口縣	小松町誌	新明校郷土誌
山口	縣	山口縣統計書(第一・二・三・四編)	同	上	山口縣	鹿野村郷土誌	富田郷土誌
							柳井郷土讀本
							高森郷土讀本
							室積町案
							宇部は伸びゆく
							萩の史蹟名勝
							長門峽地
							長門峽地

附錄 山口縣市町村別面積人口表 昭和一〇年國勢調査ニヨリ現在管轄ニ修正

市町村	面積 (方軒)	人口 (昭和10)	密度 (人)	市町村	面積 (方軒)	人口 (昭和10)	密度 (人)
關門市	154.34	17,1290	1112	熊毛郡	307.08	7,5824	247
下關市	38.83	7,6642	1974	伊保村	11.23	3020	269
山口市	48.91	3,4803	712	月津村	11.24	2058	183
萩市	79.34	3,2587	411	阿室村	7.67	2673	349
徳島市	23.78	3,2062	1333	上佐村	28.67	7865	274
防府市	72.59	5,5389	759	野野村	14.81	4339	293
松山市	62.87	2,8283	449	佐平村	7.31	2018	276
大島郡	158.04	5,5553	352	曾根村	8.67	4413	509
油谷町	10.86	4138	381	麻里村	3.89	1909	491
田原町	5.77	2418	419	布田村	5.94	1114	188
森野町	6.99	2811	402	田布村	8.72	3417	392
室方町	16.36	6899	421	南輪村	26.44	6632	251
良居町	11.25	4331	385	三輪村	11.41	1795	157
下庄町	14.17	8613	608	岩間村	10.06	1920	191
郡賀町	18.34	3027	165	三輪村	4.63	1448	313
代田町	18.45	6972	378	積南村	4.54	1387	306
松浦町	13.53	3929	290	周防村	14.47	7041	487
小浦町	17.72	3242	183	東三村	34.94	9977	123
河津村	6.89	4637	673	高勝八	19.14	2277	119
玖波村	17.71	4536	256	代田村	16.67	2230	134
郡村	919.08	10,6308	116	濃川村	15.55	2711	174
瀨木村	13.89	2335	168	米久村	18.86	1771	94
河内村	10.23	2255	220	須方村	24.45	2038	84
南河村	15.29	1863	122	須方村	15.38	3468	225
通津村	7.12	1555	218	須方村	17.14	8642	604
日神村	53.17	2888	54	須方村	29.32	3001	102
鳴門村	25.82	2507	97	須方村	37.56	2882	77
高米村	31.80	1827	57	須方村	74.87	4514	60
越前村	15.93	2772	174	須方村	128.66	5791	45
根山村	23.01	4995	217	須方村	34.55	2240	65
桑根村	24.49	3342	136	須方村	15.63	1328	85
深根村	13.59	3462	255	須方村	28.75	2355	82
高根村	4.90	2807	573	須方村	20.59	3280	159
本見村	23.32	1,6373	702	須方村	11.28	8155	723
上見村	5.71	1929	338	須方村	6.16	6017	977
見上村	8.58	1758	205	須方村	11.58	2033	176
見上村	25.13	3525	140	須方村	8.79	2295	261
見上村	32.68	3169	97	須方村	20.75	2778	134
見上村	23.58	5269	223	須方村	24.79	2034	83
見上村	45.72	6940	152	須方村	440.21	3,3534	76
見上村	23.44	2958	126	須方村	12.33	3150	255
見上村	37.36	2719	73	須方村	31.76	6146	194
見上村	49.54	3728	75	須方村	43.90	3709	84
見上村	36.08	2208	61	須方村	58.39	4955	85
見上村	103.21	5751	56	須方村	25.60	3662	143
見上村	28.13	2135	76	須方村	41.09	3220	78
見上村	78.15	2456	31	須方村	47.12	1987	42
見上村	37.76	2033	53	須方村	88.02	4247	48
見上村	31.73	3349	106	須方村	92.00	2458	27
見上村	31.99	3051	95	須方村			
見上村	57.73	4349	75	須方村			

山口

市町村	面積 (方軒)	人口 (昭和10)	密度 (人)	市町村	面積 (方軒)	人口 (昭和10)	密度 (人)
吉野郡	442.01	8,0779	183	西市町	49.23	3975	81
仁保村	65.66	4364	66	豊田下村	24.66	1912	78
小内村	50.98	3191	63	豊田前村	27.08	1523	56
大野村	24.93	4534	182	美禰郡	443.16	4,1259	93
官野村	37.76	3770	100	大田町	37.94	3183	84
大平川村	11.00	2610	237	綾木村	24.66	1821	74
秋道村	19.81	2916	147	真長村	29.37	2358	80
秋道村	23.77	4222	178	秋吉村	17.01	1893	111
秋道村	23.68	8966	379	岩永村	20.10	1840	92
秋道村	20.44	2323	114	伊佐村	40.80	4371	107
秋道村	16.86	3679	218	厚保村	30.86	2172	70
秋道村	7.37	2142	291	西厚保村	27.66	2096	76
陶名村	11.81	2567	217	大嶽村	62.48	1,0252	164
小嘉井村	32.31	9762	302	於別村	35.26	3103	88
佐東村	28.92	5811	201	福和村	25.52	2167	85
西岐波村	24.31	6410	264	赤郷村	52.77	3667	69
厚東村	12.25	2349	192	津陽郡	38.73	2336	60
二小吉村	13.74	4542	331	三隅村	359.60	5,0753	141
厚東村	16.41	6621	403	通川町	68.96	7316	106
厚東村	24.19	2415	100	深津村	4.37	2784	637
二小吉村	30.15	1600	53	深津村	13.69	6855	501
二小吉村	57.28	4158	73	深津村	82.99	1,0782	130
二小吉村	30.42	2786	92	深津村	50.91	3120	61
二小吉村	35.01	2928	84	深津村	57.33	4368	76
二小吉村	16.30	4499	276	深津村	50.10	8007	160
二小吉村	20.64	6980	338	深津村	12.93	2391	185
二小吉村	13.34	2,0178	1513	深津村	18.32	5130	280
二小吉村	26.34	9459	359	阿武郡	1027.48	6,9456	68
二小吉村	66.92	1,2653	189	三見村	24.42	3217	132
二小吉村	23.43	4483	191	三見村	50.28	2336	46
二小吉村	11.91	2234	188	三見村	83.53	2306	28
二小吉村	19.68	2682	136	三見村	94.38	3397	36
二小吉村	559.45	6,2565	112	三見村	58.70	2334	40
二小吉村	38.51	3643	95	三見村	78.77	3521	45
二小吉村	18.79	2421	129	三見村	52.81	2803	53
二小吉村	22.35	1769	79	三見村	67.88	4989	73
二小吉村	34.12	2954	87	三見村	34.61	1940	56
二小吉村	16.33	3515	215	三見村	34.64	2038	59
二小吉村	19.85	3572	180	三見村	35.11	2569	73
二小吉村	28.20	4124	146	三見村	56.85	3882	68
二小吉村	5.75	3429	596	三見村	40.07	2623	65
二小吉村	37.73	4162	110	三見村	17.99	3349	186
二小吉村	20.82	5081	244	三見村	38.44	3977	103
二小吉村	4.10	1612	393	三見村	28.40	2076	73
二小吉村	12.72	3771	296	三見村	49.76	2640	53
二小吉村	15.50	2790	180	三見村	46.52	4991	107
二小吉村	40.63	2620	64	三見村	45.16	2344	52
二小吉村	14.21	2217	156	三見村	46.84	3790	81
二小吉村	38.04	2369	62	三見村	26.65	3769	141
二小吉村	52.36	2172	41	三見村	7.74	2360	305
二小吉村	38.67	2934	76	三見村	7.93	2205	278
二小吉村				山口縣	6082.11	119,0542	196

附錄 山口縣市町村別面積人口表

昭和十五年八月廿五日印刷
昭和十五年九月一日發行

版權所有



著者

山口市道場門前七二番地

山本熊太郎

發行者

山口縣師範學校

苦瓜惠三郎

印刷人

山口市新橋十番地

品川幸一

印刷所

山口市新橋十番地

大内印刷所

山口縣教育會館內

發行所

山口縣地歷會

振替下關一九三三番

山口縣地誌

定價七十錢

送料六錢

本科二学年二組
田邊治子

広島大学図書

2000023635

